都城市文化財調査報告書　第79集

鶴　喰　遺　跡

Tsuruhami-site

（中　世　編）

2007年３月
宮崎県都城市教育委員会

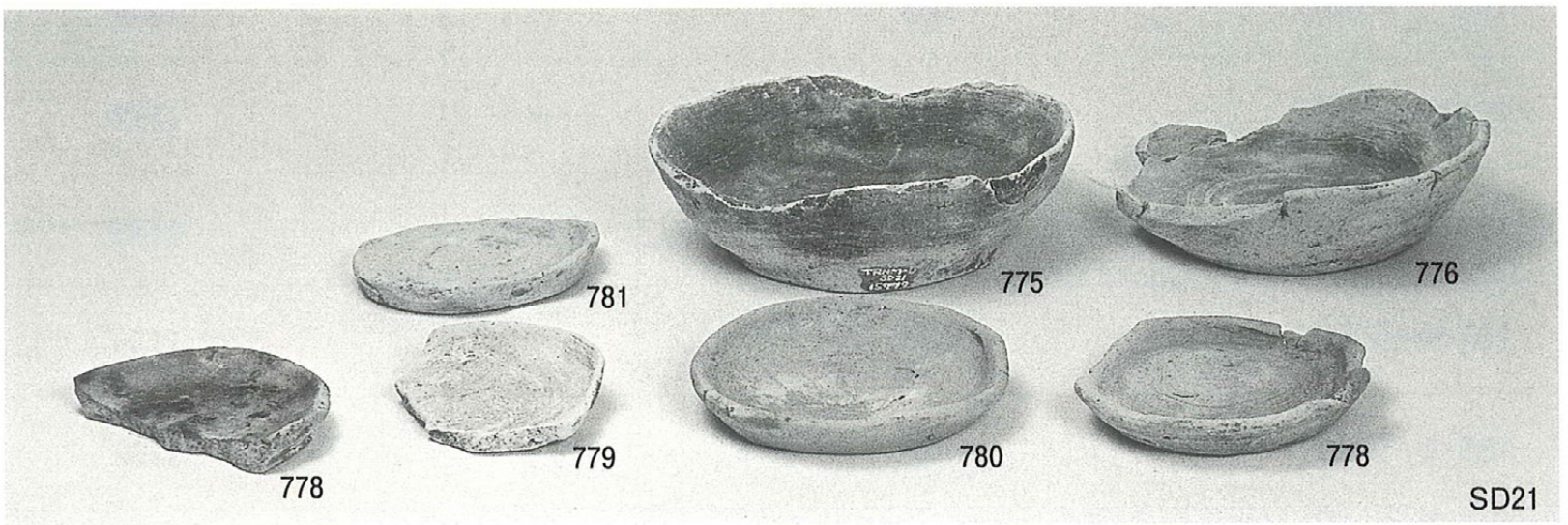
都城市文化財調査報告書　第79集

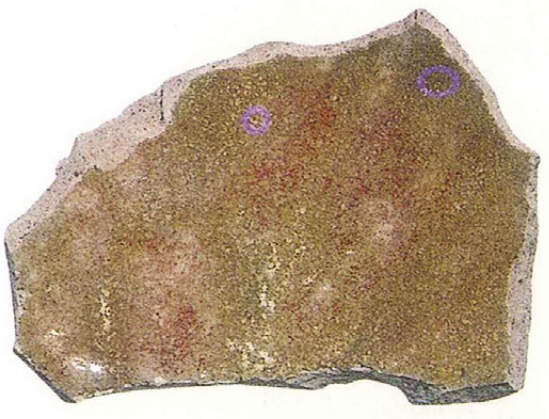
鶴　喰　遺　跡（中世編）

平成19年（2007）3月22日発行

本書に一部誤りが見つかりましたので正誤表を掲載いたします。

【正誤表】

ページ	144
誤	
正	

ページ	誤	正
219		

【正誤表 2】

ページ	誤		正
180ページ42行	1350	→	1152
180ページ42行	1351	→	1153
180ページ42行	1353	→	1155
180ページ43行	1344	→	1146
180ページ43行	1345	→	1147
180ページ43行	1346	→	1148
185ページ２行	1354	→	1156
185ページ２行	1356	→	1158
185ページ２行	1067	→	1046
185ページ２行	1068	→	1047
185ページ５行	1374	→	1176

巻頭口絵写真１　鶴喰遺跡遠景（上　西側から：下　北側から市街地をみる）

鶴喰遺跡遠景（西側から）

鶴喰遺跡遠景（北側から市街地方面をみる）

巻頭口絵写真２　鶴喰遺跡全景

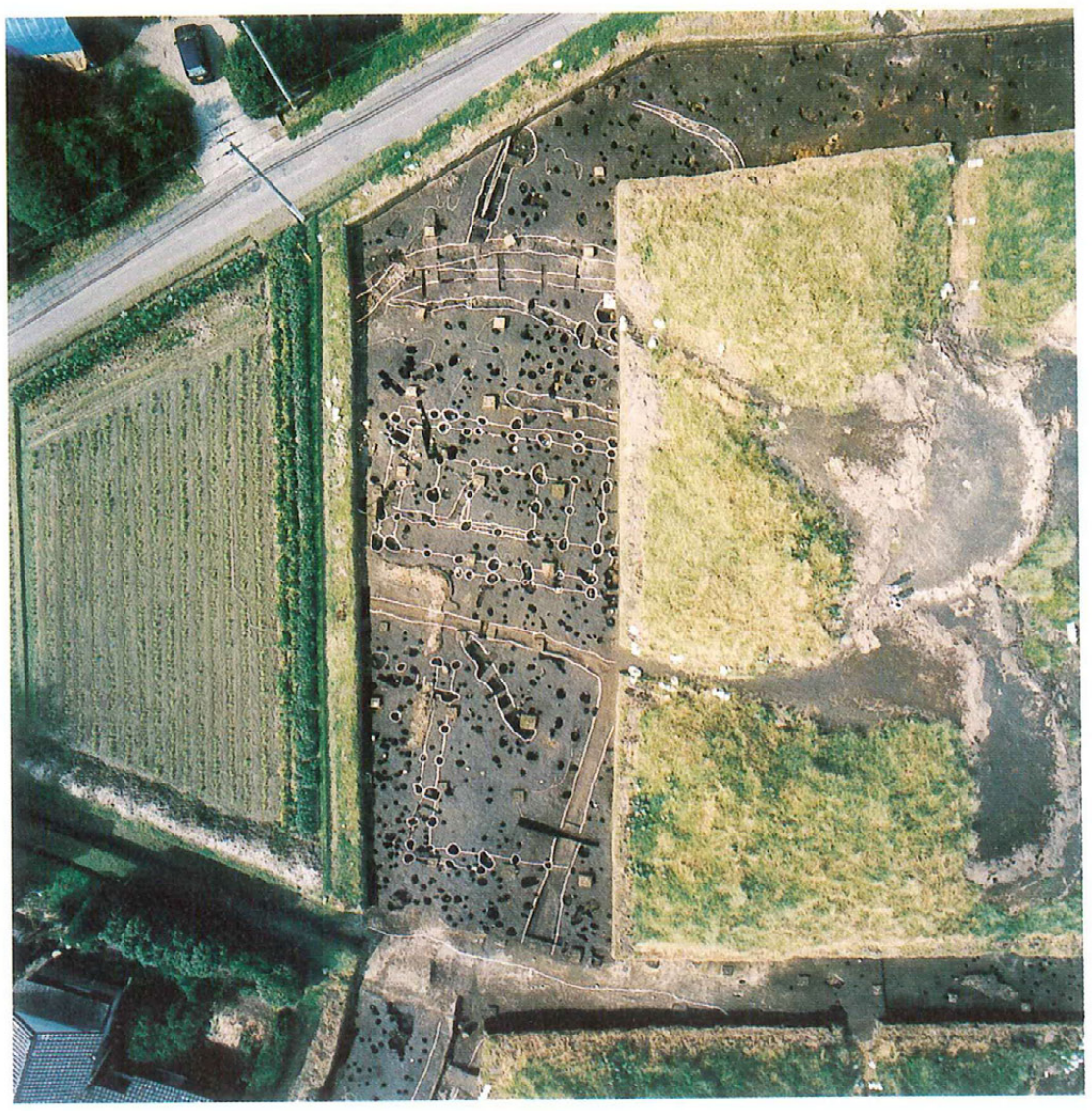
鶴喰遺跡全景

巻頭口絵写真３　中世建物群全景（Ｂ・Ｄ地区）

中世建物群全景（Ｂ・Ｄ地区）

巻頭口絵写真４　中世建物群（上　Ｄ地区東側：下　Ｄ地区西側）

中世建物群（Ｄ地区東側）



中世建物群（Ｄ地区西側）

序　文

本書は、「横市地区県営ほ場整備事業」に伴い、受託事業として都城市教育委員会が発掘調査を実施した鶴喰遺跡（中世編）の調査報告書です。

都城市では、平成８年から平成17年にかけて、「横市地区県営ほ場整備事業」に先立つ発掘調査が行われました。ここでは、国内最古級の水田跡が確認された坂元Ａ遺跡、鎌倉時代の大規模な館跡が見つかった加治屋Ｂ遺跡、弥生時代の集落跡で、多数の炭化米を確認した平田遺跡、縄文晩期の住居跡を検出した肱穴遺跡、古代の遺物が多く出土した江内谷遺跡など、本市の歴史上貴重かつ重要な成果が報告されてきています。

さて、本書で報告する鶴喰遺跡は本事業内における発掘調査の端緒となった遺跡調査で、平成８・９年度に行いました。その結果、７世紀前半頃のカマド構造を備えた住居群、火山災害にみまわれた中世の水田跡、主に14世紀代とみられる掘立柱建物群と夥しい出土遺物など、非常に貴重な歴史情報を提供してくれました。

本書は中世編として鶴喰遺跡最後の刊行となりますが、これが本市文化行政への理解と認識を高め、かつ学術研究の進展にわずかでも寄与できれば幸いに存じます。

最後に、本遺跡の発掘調査に従事してくださった市民の皆様や周辺住民の皆様をはじめ、関係各機関の方々には多大なご理解とご協力を、また、多くの研究者の皆様には貴重なご助言を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

平成19年(2007)３月

都城市教育委員会
教育長　玉　利　　譲

例　言

1　本書は県営担い手育成基盤整備事業横市地区［横市地区ほ場整備事業］に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本遺跡の調査は都城市教育委員会が主体となり、Ａ・Ｂ・Ｄ区を同市文化課（当時）主事米澤英昭、Ｃ区を同課主査（当時）矢部喜多夫が担当し、全体を同課嘱託下田代清海が補助した。

3　現場における調査期間は平成８年10月１日から平成９年11月30日である。

4　遺構実測図･土層断面図の作成は矢部･米澤･下田代が中心になって行い、阿久根敏江･吉村則子･吉村洋平･久留保・中原貞良・坂元トミ子・大盛祐子・野口虎男・浜田寛・立山君子・鴇芳明・鴇加代・外山亜紀子らの協力を得た。また遺構分布図の作成にはコンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム“ＳＩＴＥ”を使用した。遺構の製図は米澤・下田代が行い、外山亜紀子・津曲千賀子・中村博勝の協力を得た。

5　本書に関する遺物の実測は、近沢恒典・下田代・大盛祐子・水光弘子・奥登根子・水元美紀子・西博子・福岡八重子・新屋美佳・八谷邦江・槇尾恵美子が、製図は近沢・下田代・水光弘子・水元美紀子・西博子・福岡八重子・新屋美佳・八谷邦江・槇尾恵美子が行った。また実測・製図の一部を有限会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。遺物データの集成には、大盛・丸崎千鶴子の協力を得た。

6　本書に関する遺構・遺物の写真撮影は近沢・下田代・米澤が行った。遺構の空中写真撮影は㈱スカイサーベイに委託した。

7　使用した基準方位は磁北であり、レベルは海抜絶対高である。

8　本書の執筆は近沢（土師器その他・付編）・下田代（陶磁器）・米澤で分担し、編集は近沢・下田代・米澤が行った。

9　調査･本書の執筆にあたり、重永卓爾氏、能登健氏（財団法人群馬県埋蔵文化財事業団）、永山修一氏（ラ･サール学園）、矢部喜多夫氏、桒畑光博氏、横山哲英氏、大盛祐子氏にご教示をいただいた。

10　本書に関する遺物・記録類（写真・図面等）は都城市教育委員会文化財課が収蔵・保管している。

11　本書では、下記の略号を用いている。

ＳＢ＝掘立柱建物　ＳＣ＝土坑　ＳＤ＝溝状遺構　ＳＦ＝道路状遺構　ＳＪ＝焼土遺構
ＳＫ＝集石（軽石）遺構　ＳＳ＝敷石状遺構　ＳＴ＝畝状遺構　ＳＲ＝石組遺構
ＳＸ＝土師器溜り　ＳＹ＝竪穴状遺構

目　次

Ⅰ　序説 …… 1
　1　調査の経緯 …… 1
　2　調査体制 …… 2
Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境 …… 5
　1　歴史的環境 …… 5
　2　遺跡の位置と環境 …… 5
Ⅲ　調査の記録 …… 7
　1　調査の概要 …… 7
　2　遺跡の層序 …… 7
　3　調査の成果 …… 8
　　(1)　調査の経緯 …… 8
　　(2)　調査の成果 …… 8
　　1号土坑（SC01） …… 8
　　2号土坑（SC02） …… 8
　　3号土坑（SC03） …… 18
　　4号土坑（SC04） …… 18
　　1号集石遺構（SK01） …… 18
　　1号溝状遺構（SD01） …… 19
　　2号溝状遺構（SD02） …… 19
　　1号掘立柱建物（SB01） …… 21
　　2号掘立柱建物（SB02） …… 52
　　3号掘立柱建物（SB03） …… 53
　　4号掘立柱建物（SB04） …… 54
　　5号掘立柱建物（SB05） …… 54
　　6号掘立柱建物（SB06） …… 56
　　7号掘立柱建物（SB07） …… 57
　　8号掘立柱建物（SB08） …… 57
　　9号掘立柱建物（SB09） …… 57
　　10号掘立柱建物（SB10） …… 57
　　11号掘立柱建物（SB11） …… 58
　　12号掘立柱建物（SB12） …… 58
　　13号掘立柱建物（SB13） …… 59
　　15号掘立柱建物（SB15） …… 60
　　16号掘立柱建物（SB16） …… 60
　　17号掘立柱建物（SB17） …… 60
　　18号掘立柱建物（SB18） …… 61
　　19号掘立柱建物（SB19） …… 61
　　20号掘立柱建物（SB20） …… 61
　　21号掘立柱建物（SB21） …… 61
　　22号掘立柱建物（SB22） …… 61
　　24号掘立柱建物（SB24） …… 61
　　26号掘立柱建物（SB26） …… 61
　　28号掘立柱建物（SB28） …… 62
　　29号掘立柱建物（SB29） …… 62
　　30号掘立柱建物（SB30） …… 62
　　31号掘立柱建物（SB31） …… 62
　　32号掘立柱建物（SB32） …… 62
　　33号掘立柱建物（SB33） …… 63
　　34号掘立柱建物（SB34） …… 63
　　9号土坑（SC09） …… 63
　　10号土坑（SC10） …… 63
　　11号土坑（SC11） …… 63
　　12号土坑（SC12） …… 63
　　13号土坑（SC13） …… 63
　　15号土坑（SC15） …… 64
　　16号土坑（SC16） …… 64
　　17号土坑（SC17） …… 64
　　18号土坑（SC18） …… 65
　　22号土坑（SC22） …… 66
　　23号土坑（SC23） …… 66
　　24号土坑（SC24） …… 66
　　26号土坑（SC26） …… 67
　　27号土坑（SC27） …… 67
　　28号土坑（SC28） …… 67
　　29号土坑（SC29） …… 68
　　6号溝状遺構（SD06） …… 71
　　7号溝状遺構（SD07） …… 71
　　8号溝状遺構（SD08） …… 72
　　9号溝状遺構（SD09） …… 72
　　10号溝状遺構（SD10） …… 72
　　11号溝状遺構（SD11） …… 72
　　12号溝状遺構（SD12） …… 74
　　13号溝状遺構（SD13） …… 74
　　14号溝状遺構（SD14） …… 75
　　15号溝状遺構（SD15） …… 75
　　16号溝状遺構（SD16） …… 75
　　17号溝状遺構（SD17） …… 87
　　18号溝状遺構（SD18） …… 87
　　20号溝状遺構（SD20） …… 91
　　21号溝状遺構（SD21） …… 94
　　22号溝状遺構（SD22） …… 97
　　23号溝状遺構（SD23） …… 97
　　24号溝状遺構（SD24） …… 105
　　25号溝状遺構（SD25） …… 106
　　26号溝状遺構（SD26） …… 106
　　27号溝状遺構（SD27） …… 107
　　31号溝状遺構（SD31） …… 107
　　32号溝状遺構（SD32） …… 113
　　33号溝状遺構（SD33） …… 113
　　35号溝状遺構（SD35） …… 117
　　36号溝状遺構（SD36） …… 117
　　37号溝状遺構（SD37） …… 117
　　38号溝状遺構（SD38） …… 117
　　道路状遺構（SF） …… 117
　　1号焼土遺構（SJ01） …… 129
　　2号焼土遺構（SJ02） …… 129
　　1号敷石状遺構（SS01） …… 129
　　2号敷石状遺構（SS02） …… 143
　　3号敷石状遺構（SS03） …… 145
　　1号畝状遺構（ST01） …… 149

1号石積遺構（SR01）…… 149
1号土師器溜り（SX01）…… 152
1号竪穴状遺構（SY01）…… 155
2号竪穴状遺構（SY02）…… 155
柱穴（Pit）…… 155
包含層内出土遺物 …… 160
Ⅳ　まとめ…… 180
1　中世遺構群の時期的な位置付けについて …… 180
2　鶴喰遺跡の歴史的位置付け…… 199
Ⅴ　付編　鶴喰遺跡出土土師器の分類と編年的位置付けについて …… 225
1　土師器の分類…… 225
2　遺構と土師器…… 225
3　他遺跡の土師器…… 226
4　土師器の編年的位置付け…… 227

挿　図　目　次

第1図　遺跡位置図 …… 3
第2図　調査区域図及び試掘トレンチ配置図 …… 4
第3図　基本土層写真及び柱状図 …… 7
第4図　遺構配置図 …… 9
第5図　土層断面図 ……11
第6図　A地区遺構配置図……13
第7図　SC01・02・04・SK01実測図 ……16
第8図　SC02・SK01内出土遺物実測図　土師器 ……18
第9図　SD01・02実測図 ……19
第10図　SD01内出土遺物実測図　陶磁器 ……21
第11図　B・D地区遺構配置図…… 別図
第12図　SB01実測図 ……23
第13図　SB01内出土遺物実測図　陶磁器 ……26
第14図　SB01内出土遺物実測図　土師器(1)……28
第15図　SB01内出土遺物実測図　土師器(2)……29
第16図　SB01内出土遺物実測図　土師器(3)……30
第17図　SB01内出土遺物実測図　土師器(4)……31
第18図　SB01内出土遺物実測図　土師器(5)・鉄製品・銅製品・建築部材 ……32
第19図　SB02実測図 ……41
第20図　SB02内出土遺物実測図　陶磁器 ……43
第21図　SB02内出土遺物実測図　土師器・鉄製品 ……44
第22図　SB03実測図 ……45
第23図　SB03内出土遺物実測図　土師器・鍛冶関連製品・建築部材 ……46
第24図　SB04実測図 ……47
第25図　SB04内出土遺物実測図　陶磁器 ……48
第26図　SB04内出土遺物実測図　土師器 ……49
第27図　SB05実測図 ……50
第28図　SB05内出土遺物実測図　陶磁器 ……51
第29図　SB05内出土遺物実測図　土師器 ……52
第30図　SB06実測図 ……54
第31図　SB06内出土遺物実測図　陶磁器 ……55
第32図　SB06内出土遺物実測図　土師器 ……56
第33図　SB07実測図 ……57
第34図　SB07内出土遺物実測図　土師器 ……58
第35図　SB08・09実測図 ……59
第36図　SB09内出土遺物実測図　陶磁器 ……60
第37図　SB09内出土遺物実測図　銅銭 ……61
第38図　SB10実測図 ……62
第39図　SB10内出土遺物実測図　陶磁器 ……63
第40図　SB10内出土遺物実測図　土師器 ……64
第41図　SB11実測図 ……65
第42図　SB11内出土遺物実測図　陶磁器 ……66
第43図　SB11内出土遺物実測図　土師器 ……67
第44図　SB12実測図 ……68
第45図　SB12内出土遺物実測図　陶磁器 ……69
第46図　SB12内出土遺物実測図　土師器・石製品 ……70
第47図　SB13実測図 ……71
第48図　SB13内出土遺物実測図　土師器 ……72
第49図　SB15・16実測図 ……73
第50図　SB17実測図 ……74
第51図　SB17内出土遺物実測図　土師器 ……75
第52図　SB18・19・20・21実測図……76
第53図　SB22・24・26実測図 ……77
第54図　SB28・29実測図 ……78
第55図　SB30・31実測図 ……79
第56図　SB32・33・34実測図 ……80
第57図　SC09・10・11・12・13実測図 ……81
第58図　SC11内出土遺物実測図　陶磁器 ……82
第59図　SC10・12・13内出土遺物実測図　土師器・鉄製品 ……83
第60図　SC15・16・17・18・23実測図 ……84
第61図　SC17内出土遺物実測図　陶磁器 ……86
第62図　SC15・16・17・18内出土遺物実測図　土師器 ……87
第63図　SC22実測図 ……89
第64図　SC22内出土遺物実測図　陶磁器 ……91
第65図　SC22内出土遺物実測図　土師器・鉄製品・銅製品・瓦……92
第66図　SC24・26・27・28・29実測図 ……93
第67図　SC28内出土遺物実測図　陶磁器 ……94
第68図　SC27・28・29内出土遺物実測図　土師器・銅銭 ……95
第69図　SD06実測図 ……99
第70図　SD06内出土遺物実測図　陶磁器 …… 100
第71図　SD06内出土遺物実測図　土師器 …… 101
第72図　SD07・08・09実測図 …… 102
第73図　SD07・08・09内出土遺物実測図　土師器 … 103
第74図　SD10・11実測図 …… 105
第75図　SD12実測図 …… 106
第76図　SD12内出土遺物実測図　陶磁器 …… 107
第77図　SD12内出土遺物実測図　土師器 …… 108

第 78 図　SD14・15・16・17・18実測図 …… 109
第 79 図　SD16・17・18内出土遺物実測図　陶磁器 … 112
第 80 図　SD16・17・18内出土遺物実測図　土師器・石製品 …… 115
第 81 図　SD13・22・23・31・32実測図 …… 119
第 82 図　SD13・22・23・32内出土遺物実測図　陶磁器(1) …… 124
第 83 図　SD13・22・23・32内出土遺物実測図　陶磁器(2) …… 125
第 84 図　SD13内出土遺物実測図　土師器･鍛冶関連製品・鉄製品…… 130
第 85 図　SD22・23内出土遺物実測図　土師器・金属製品 …… 131
第 86 図　SD22・23内出土遺物実測図　土師器・石製品・鍛冶関連製品・土製品 …… 132
第 87 図　SD22・23・31内出土遺物実測図　土師器・石製品・鍛冶関連製品…… 133
第 88 図　SD31・32内出土遺物実測図　土師器・金属製品 …… 134
第 89 図　SD20・21実測図 …… 143
第 90 図　SD20・21内出土遺物実測図　土師器・石製品・鍛冶関連製品 …… 144
第 91 図　SD24実測図 …… 145
第 92 図　SD24内出土遺物実測図　陶磁器 …… 146
第 93 図　SD24内出土遺物実測図　土師器・鍛冶関連製品 …… 147
第 94 図　SD25実測図 …… 149
第 95 図　SD25内出土遺物実測図　陶磁器 …… 150
第 96 図　SD25内出土遺物実測図　土師器・鉄製品 … 151
第 97 図　SD26実測図 …… 152
第 98 図　SD26内出土遺物実測図　陶磁器 …… 153
第 99 図　SD26内出土遺物実測図　土師器・土製品 … 154
第100図　SD27実測図 …… 155
第101図　SD33実測図 …… 156
第102図　SD35・36・37・38実測図…… 157
第103図　SD35内出土遺物実測図　陶磁器 …… 160
第104図　SF実測図 …… 161
第105図　SF03・05内出土遺物実測図　陶磁器…… 164
第106図　SF04・05内出土遺物実測図　土師器・鍛冶関連製品 …… 165
第107図　SJ01・02実測図 …… 168
第108図　SS01実測図 …… 169
第109図　SS01内出土遺物実測図　陶磁器 …… 170
第110図　SS01内出土遺物実測図　土師器・石製品・鍛冶関連製品・鉄製品…… 171
第111図　SS02実測図 …… 173
第112図　SS02内出土遺物実測図　陶磁器 …… 176
第113図　SS02内出土遺物実測図　土師器・石製品・鉄製品 …… 177
第114図　SS03実測図 …… 181
第115図　SS03内出土遺物実測図　陶磁器 …… 184
第116図　SS03内出土遺物実測図　土師器・石製品・鉄製品 …… 185
第117図　ST01実測図 …… 188
第118図　SR01実測図 …… 190
第119図　SX01実測図 …… 192
第120図　SX01内出土遺物実測図　土師器・石製品 … 194
第121図　SY01実測図 …… 197
第122図　SY01内出土遺物実測図　土師器・石製品・鉄製品 …… 198
第123図　SY02実測図 …… 199
第124図　Pit内出土遺物実測図　陶磁器(1) …… 201
第125図　Pit内出土遺物実測図　陶磁器(2) …… 202
第126図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(1) …… 206
第127図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(2) …… 207
第128図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(3) …… 208
第129図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(4) …… 209
第130図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(5) …… 210
第131図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(6) …… 211
第132図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(7) …… 212
第133図　包含層内出土遺物実測図　陶磁器(8) …… 213
第134図　包含層内出土遺物実測図　墨書土器・石製品・鉄製品・瓦 …… 220

表　目　次

第 1 表　SC02・SK01内出土遺物観察表　土師器 ……18
第 2 表　SD01・02内出土遺物観察表　陶磁器……21
第 3 表　SB01内出土遺物観察表　陶磁器 ……26
第 4 表　SB01内出土遺物観察表　土師器(1) ……33
第 5 表　SB01内出土遺物観察表　土師器(2) ……34
第 6 表　SB01内出土遺物観察表　土師器(3) ……35
第 7 表　SB01内出土遺物観察表　土師器(4) ……36
第 8 表　SB01内出土遺物観察表　土師器(5) ……37
第 9 表　SB01内出土遺物観察表　土師器(6)・鉄製品・銅製品・建築部材 ……38
第 10 表　SB02内出土遺物観察表　陶磁器 ……43
第 11 表　SB02内出土遺物観察表　土師器・鉄製品 ……44
第 12 表　SB03内出土遺物観察表　土師器･鍛冶関連製品･建築部材 ……46
第 13 表　SB04内出土遺物観察表　陶磁器 ……48
第 14 表　SB04内出土遺物観察表　土師器 ……49
第 15 表　SB05内出土遺物観察表　陶磁器 ……51
第 16 表　SB05内出土遺物観察表　土師器 ……53
第 17 表　SB06内出土遺物観察表　陶磁器 ……55
第 18 表　SB06内出土遺物観察表　土師器 ……56
第 19 表　SB07内出土遺物観察表　土師器 ……58
第 20 表　SB09内出土遺物観察表　陶磁器 ……60
第 21 表　SB09内出土遺物観察表　銅銭 ……61
第 22 表　SB10内出土遺物観察表　陶磁器 ……63
第 23 表　SB10内出土遺物観察表　土師器 ……64

第 24 表　SB11内出土遺物観察表　陶磁器 ……66
第 25 表　SB11内出土遺物観察表　土師器 ……67
第 26 表　SB12内出土遺物観察表　陶磁器 ……69
第 27 表　SB12内出土遺物観察表　土師器・石製品 ……70
第 28 表　SB13内出土遺物観察表　土師器 ……72
第 29 表　SB17内出土遺物観察表　土師器 ……75
第 30 表　SC11内出土遺物観察表　陶磁器 ……82
第 31 表　SC10・12・13内出土遺物観察表　土師器・鉄製品 ……83
第 32 表　SC17内出土遺物観察表　陶磁器 ……86
第 33 表　SC15・16・17・18内出土遺物観察表　土師器 ……88
第 34 表　SC22内出土遺物観察表　陶磁器 ……91
第 35 表　SC22内出土遺物観察表　土師器・鉄製品・銅製品・瓦……92
第 36 表　SC28内出土遺物観察表　陶磁器 ……94
第 37 表　SC27・28・29内出土遺物観察表　土師器・銅銭 ……96
第 38 表　SC29内出土遺物観察表　土師器 ……97
第 39 表　SD06内出土遺物観察表　陶磁器 …… 100
第 40 表　SD06内出土遺物観察表　土師器 …… 101
第 41 表　SD07・08・09内出土遺物観察表　土師器 … 103
第 42 表　SD12内出土遺物観察表　陶磁器 …… 107
第 43 表　SD12内出土遺物観察表　土師器 …… 108
第 44 表　SD16・17・18内出土遺物観察表　陶磁器 … 113
第 45 表　SD16・17・18内出土遺物観察表　土師器・石製品 …… 116
第 46 表　SD18内出土遺物観察表　土師器 …… 117
第 47 表　SD13・22・23・32内出土遺物観察表　陶磁器 …… 126
第 48 表　SD13・22内出土遺物観察表　土師器・鍛冶関連製品・鉄製品 …… 135
第 49 表　SD22・23内出土遺物観察表　土師器・鍛冶関連製品…… 136
第 50 表　SD22・23内出土遺物観察表　土師器・石製品・鍛冶関連製品・土製品 …… 137
第 51 表　SD22・23内出土遺物観察表　土師器…… 138
第 52 表　SD22・23・31・32内出土遺物観察表　土師器・石製品・鍛冶関連製品・鉄製品 …… 139
第 53 表　SD20・21内出土遺物観察表　土師器・石製品・鍛冶関連製品 …… 144
第 54 表　SD24内出土遺物観察表　陶磁器 …… 146
第 55 表　SD24内出土遺物観察表　土師器・鍛冶関連製品 …… 148
第 56 表　SD25内出土遺物観察表　陶磁器 …… 150
第 57 表　SD25内出土遺物観察表　土師器・鉄製品 … 151
第 58 表　SD26内出土遺物観察表　陶磁器 …… 153
第 59 表　SD26内出土遺物観察表　土師器・土製品 … 154
第 60 表　SD35内出土遺物観察表　陶磁器 …… 160
第 61 表　SF03・04内出土遺物観察表　陶磁器…… 164
第 62 表　SF04・05内出土遺物観察表　土師器・鍛冶関連製品 …… 166
第 63 表　SS01内出土遺物観察表　陶磁器 …… 170
第 64 表　SS01内出土遺物観察表　土師器・石製品・鍛冶関連製品・鉄製品…… 171
第 65 表　SS02内出土遺物観察表　陶磁器 …… 176
第 66 表　SS02内出土遺物観察表　土師器・石製品・鉄製品 …… 178
第 67 表　SS03内出土遺物観察表　陶磁器 …… 184
第 68 表　SS03内出土遺物観察表　土師器・石製品・鉄製品 …… 186
第 69 表　SX01内出土遺物観察表　土師器・石製品 … 195
第 70 表　SY01内出土遺物観察表　土師器・石製品・鉄製品 …… 198
第 71 表　Pit内出土遺物観察表　陶磁器 …… 203
第 72 表　包含層内出土遺物観察表　陶磁器(1) …… 214
第 73 表　包含層内出土遺物観察表　陶磁器(2) …… 215
第 74 表　包含層内出土遺物観察表　陶磁器(3) …… 216
第 75 表　包含層内出土遺物観察表　陶磁器(4) …… 217
第 76 表　包含層内出土遺物観察表　土師器・石製品・鉄製品・瓦 …… 221

図　版　目　次

巻頭口絵写真 1　鶴喰遺跡遠景
巻頭口絵写真 2　鶴喰遺跡全景
巻頭口絵写真 3　中世建物群全景（Ｂ・Ｄ地区）
巻頭口絵写真 4　中世建物群（Ｄ地区東側・Ｄ地区西側）
図版 1　Ａ地区遺構検出状況写真……15
図版 2　SC01・02・04・SK01写真 ……17
図版 3　SC02・SK01内出土遺物写真　土師器 ……18
図版 4　SD01・02写真 ……20
図版 5　SD01・02内出土遺物写真　陶磁器 ……21
図版 6　Ｂ・Ｄ地区写真 ……22
図版 7　SB01写真(1) ……24
図版 8　SB01写真(2) ……25
図版 9　SB01内出土遺物写真　陶磁器 ……27
図版10　SB01内出土遺物写真　土師器 ……39
図版11　SB01内出土遺物写真　土師器・鉄製品・銅製品・建築部材 ……40
図版12　SB02写真……42
図版13　SB02内出土遺物写真　陶磁器 ……43
図版14　SB02内出土遺物写真　土師器・鉄製品 ……44
図版15　SB03内出土遺物写真　土師器・鍛冶関連製品・建築部材 ……46
図版16　SB04内出土遺物写真　陶磁器 ……48
図版17　SB04内出土遺物写真　土師器 ……49
図版18　SB05内出土遺物写真　陶磁器 ……51
図版19　SB05内出土遺物写真　土師器 ……53
図版20　SB06内出土遺物写真　陶磁器 ……55
図版21　SB06内出土遺物写真　土師器 ……56

図版22　SB07内出土遺物写真　土師器……58
図版23　SB09内出土遺物写真　陶磁器……60
図版24　SB09内出土遺物写真　銅銭……61
図版25　SB10内出土遺物写真　陶磁器……63
図版26　SB10内出土遺物写真　土師器……64
図版27　SB11内出土遺物写真　陶磁器……66
図版28　SB11内出土遺物写真　土師器……67
図版29　SB12内出土遺物写真　陶磁器……69
図版30　SB12内出土遺物写真　土師器・石製品……70
図版31　SB13内出土遺物写真　土師器……72
図版32　SB17内出土遺物写真　土師器……75
図版33　SC11内出土遺物写真　陶磁器……82
図版34　SC10・12・13内出土遺物写真　土師器・鉄製品……83
図版35　SC18写真……85
図版36　SC17内出土遺物写真　陶磁器……86
図版37　SC15・16・17・18内出土遺物写真　土師器……88
図版38　SC22写真……90
図版39　SC22内出土遺物写真　陶磁器……91
図版40　SC22内出土遺物写真　土師器・鉄製品・銅製品・瓦……92
図版41　SC28内出土遺物写真　陶磁器……94
図版42　SC27・28・29内出土遺物写真　土師器・銅銭……98
図版43　SD06内出土遺物写真　陶磁器……100
図版44　SD06内出土遺物写真　土師器その他……101
図版45　SD07・08・09内出土遺物写真　土師器……104
図版46　SD12内出土遺物写真　陶磁器……107
図版47　SD12内出土遺物写真　土師器……108
図版48　SD14・15・16・17・18写真……111
図版49　SD16・17・18内出土遺物写真　陶磁器……114
図版50　SD16・17・18内出土遺物写真　土師器・石製品……118
図版51　SD13写真……121
図版52　SD22・23写真……122
図版53　SD31・32写真……123
図版54　SD13・22・23・32内出土遺物写真　陶磁器(1)……127
図版55　SD13・22・23・32内出土遺物写真　陶磁器(2)……128
図版56　SD13・22内出土遺物写真　鍛冶関連製品・鉄製品……140
図版57　SD22・23内出土遺物写真　土師器……141
図版58　SD22・23・31・32内出土遺物写真　土師器・石製品・鍛冶関連製品・鉄製品……142
図版59　SD20・21写真……143
図版60　SD20・21内出土遺物写真　土師器・石製品……144
図版61　SD24内出土遺物写真　陶磁器……146
図版62　SD24内出土遺物写真　土師器・鍛冶関連製品……148
図版63　SD25内出土遺物写真　陶磁器……150
図版64　SD25内出土遺物写真　土師器・鉄製品……151
図版65　SD26内出土遺物写真　陶磁器……153
図版66　SD26内出土遺物写真　土師器……154
図版67　SD33写真……156
図版68　SD35・36・37・38写真……159
図版69　SD35内出土遺物写真　陶磁器……160
図版70　SF写真……163
図版71　SF03・04内出土遺物写真　陶磁器……164
図版72　SF04・05内出土遺物写真　土師器・鍛冶関連製品……167
図版73　SJ01・02写真……168
図版74　SS01写真……169
図版75　SS01内出土遺物写真　陶磁器……170
図版76　SS01内出土遺物写真　土師器・石製品・鍛冶関連製品・鉄製品……171
図版77　SS02写真……175
図版78　SS02内出土遺物写真　陶磁器……176
図版79　SS02内出土遺物写真　土師器・石製品・鉄製品……179
図版80　SS03写真……183
図版81　SS03内出土遺物写真　陶磁器……184
図版82　SS03内出土遺物写真　土師器・石製品・鉄製品……187
図版83　ST01写真……189
図版84　SR01写真……191
図版85　SX01写真……193
図版86　SX01内出土遺物写真　土師器・石製品……196
図版87　SY01写真……197
図版88　SY01内出土遺物写真　土師器・石製品・鉄製品……198
図版89　Pit写真……200
図版90　Pit内出土遺物写真　陶磁器(1)……204
図版91　Pit内出土遺物写真　陶磁器(2)……205
図版92　包含層内出土遺物写真　陶磁器(1)……217
図版93　包含層内出土遺物写真　陶磁器(2)……218
図版94　包含層内出土遺物写真　陶磁器(3)……219
図版95　包含層内出土遺物写真　墨書土器・石製品・鉄製品……222
図版96　姫城中体験発掘……223

Ⅰ　序　説

1　調査の経緯

平成６年度に、宮崎県北諸県農林振興局から宮崎県文化課（現宮崎県文化財課。以下「県文化財課」）に対し、都城市横市町の平成８年度県営ほ場整備事業工事対象区域における埋蔵文化財の有無の照会がなされた。そこで県文化財課では、遺跡の範囲や遺存状態をより具体的に把握するために、工事予定地内に２ｍ×２ｍのトレンチを18ヶ所設けて、試掘調査を実施した。その結果、遺物包含層が良好に残存しており、弥生～中世の遺物が多数出土した。この調査成果を受けて、宮崎県北諸県農林振興局、宮崎県土地改良連合、県文化財課、都城市の４者間で協議を行い、その結果、破壊を受ける工事予定地北側に位置する高台の一部7,400㎡について、記録保存のための発掘調査を実施することとなり、そのうち3,100㎡を平成８年度に、4,300㎡を平成９年度に行うことで合意に至った。これにより、発掘調査を行う都城市と宮崎県北諸県農林振興局との間において、平成８年９月27日、「平成８・９年度横市地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を取り交わし、同年９月30日には両者間において平成８年度発掘調査に伴う委託契約が締結された。

平成９年度においては、「平成８・９年度横市地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」をもとに、工事変更に伴う調査増加分700㎡を加え調査面積5,000㎡として変更協定が結ばれ、そして同年４月１日付で両者間において委託契約が取り交わされた。

現場における発掘調査は、平成８年度においては、平成８年10月１日から平成９年３月25日、平成９年度においては、平成９年４月３日から11月30日まで行い、現場での調査が終了後、引き続き遺物の整理作業を行った。

2　調査体制

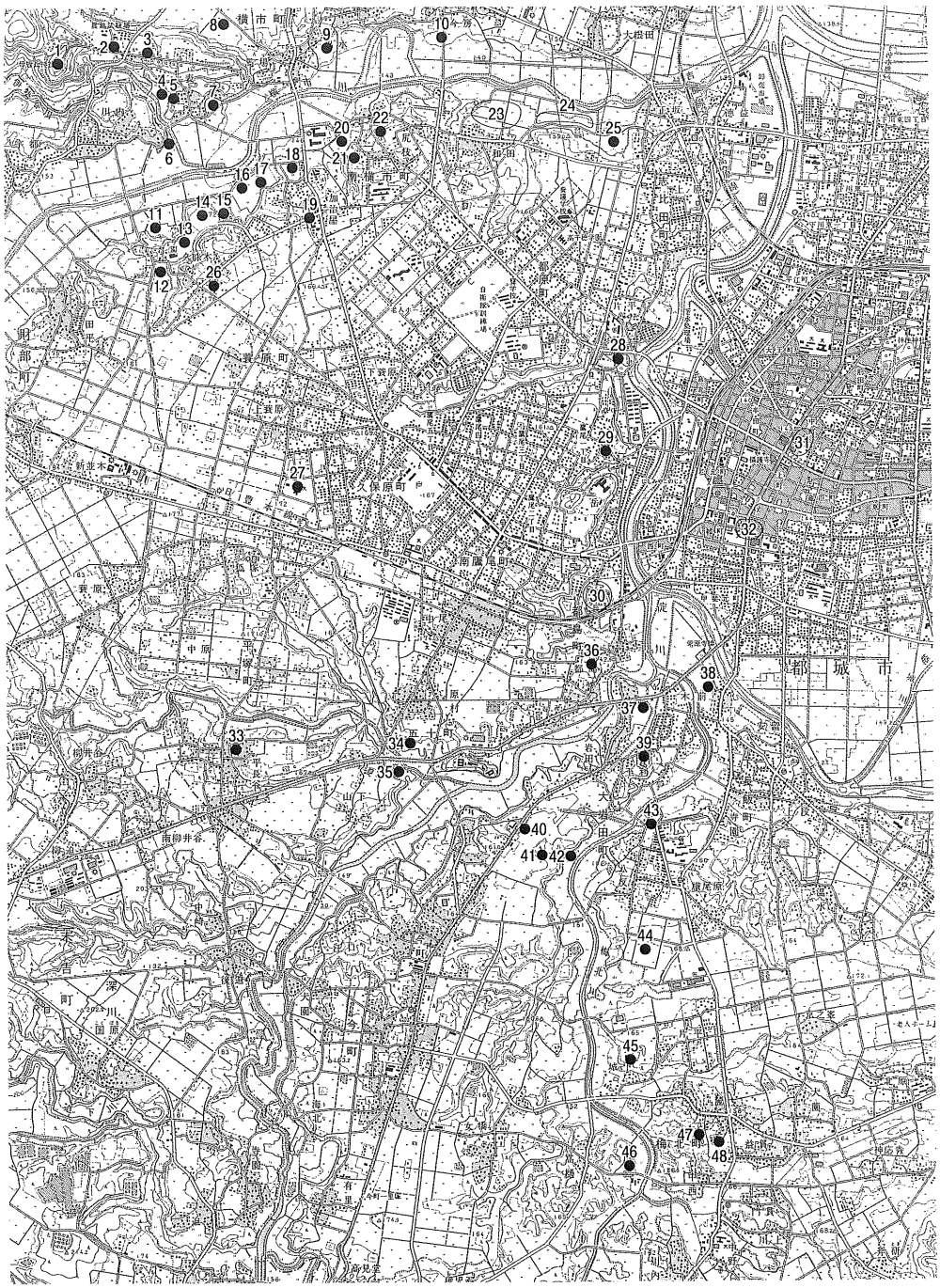
調査は都城市教育委員会が実施し、経費運用は同市教育委員会文化課（現都城市文化財課）が行った。調査組織は以下のとおりである。

【発掘調査体制：平成８・９年度】

〔調査責任者〕都城市教育長　隈　元　幸　美
〔調査総括〕　都城市文化課長　遠　矢　昭　夫
〔調査事務局〕同課長補佐　綿　田　秋　嗣
同文化財係長　中　村　久　司
〔調査員〕　同主査　矢　部　喜多夫
同主事　米　澤　英　昭
同嘱託　下田代　清　海
〔発掘作業員〕久留　保・阿久根敏江・吉村　則子・坂元トミ子・中原　貞良・山下　健一・堀　登
児玉　時春・白谷　義治・吉永美登志・吉永　サダ・新宮タケ子・岡元トシエ・山中　マリ
上宮田ミチ・来住タケ子・谷山トミ子・丸目美知子・鴇　松雄・鴇　芳明・曽原　主吉
荒ヶ田安夫・松原ヨシ子・有水　トミ・荒ヶ田エダ・今村まさ子・鴇　加代・吉村　洋平
東前　利雄・東　春雄・野口　虎男・浜田　寛・立山　君子・大盛　祐子・藤田　和子
〔整理作業員〕池谷香代子・雁野あつ子・水光　弘子・奥　登根子・谷口　和代・伊鹿倉康子・福岡八重子
小浜ひろ子・丸崎千鶴子・大坪真知子・前田　町子・吉留　優子・児玉信子

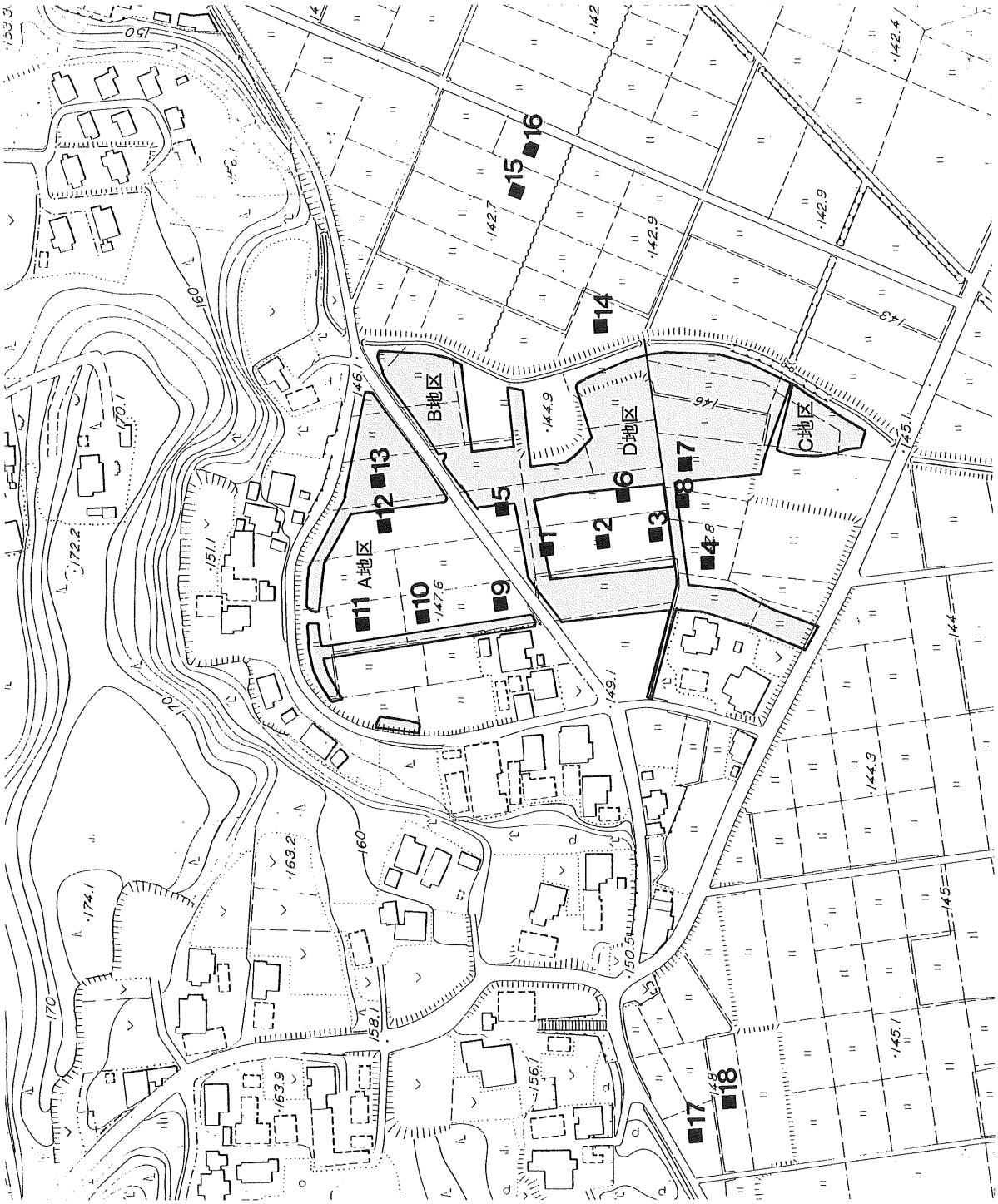
【報告書作成体制：平成18年度】

〔調査責任者〕都城市教育長　玉　利　譲
〔調査総括〕　都城市文化財課長　高　野　隆　志
〔調査事務局〕同課長補佐　新　宮　高　弘
同埋蔵文化財担当副主幹　矢　部　喜多夫
〔作成担当〕　同埋蔵文化財担当主事　近　沢　恒　典
同嘱託　下田代　清　海
高城生涯学習課主査　米　澤　英　昭
〔整理作業員〕水光　弘子・奥　登根子・水元美紀子・西　博子・福岡八重子・新屋　美佳・八谷　邦江
槇尾恵美子



1. 母智丘原第１　2. 母智丘原第２　3. 横市中原　4. 畑田
5. 新宮城跡　6. 母智丘谷　7. 鶴喰　8. 牧の原第２
9. 肱穴　10. 今房　11. 馬渡　12. 蓑原
13. 中尾　14. 中尾山・馬渡　15. 江内谷　16. 坂元Ａ
17. 坂元Ｂ　18. 加治屋Ｂ　19. 加治屋Ｂ　20. 星原
21. 田谷・尻枝　22. 胡摩段　23. 平田　24. 早馬
25. 正坂原　26. 池原　27. 西原第２　28. 二タ元
29. 都城古墳　30. 都城跡　31. 中央東部地区遺跡群
32. 都城島津家領主館跡　33. 平峰　34. 油田
35. 岩立　36. 瀬戸ノ上　37. 大岩田城跡　38. 木ノ前
39. 大岩田村ノ前　40. 宮尾・立野　41. 大岩田上村　42. 鴇尾
43. 黒土　44. 横尾原　45. 梅北城跡　46. 笹ヶ崎
47. 尾崎第2　48. 尾崎第１（貴船寺）

第１図　遺跡位置図



第２図　調査区域図及び試掘トレンチ配置図

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境

1　歴史的環境

縄文時代については、市内北東部の十三束遺跡において早期の連穴土坑が検出され、中央部の白山原遺跡では早期の集石・配石遺構が検出されている。横市地区の肱穴遺跡では中～後期の住居跡が確認された。さらに坂元Ａ遺跡では水田耕作が行われ、穀物資源の確保されていた事実が確認している。

弥生時代に関しては、向原遺跡・加治屋遺跡・高田遺跡等といった中期以降の集落跡が主に確認されている。土器は大隅特有の山之口式系統と宮崎平野特有の中溝式系統をかけあわせたものがみられ、地域的特徴があらわれている。

古墳期については、市北東部の志和池築池地区に地下式横穴墓が群的な展開をみせている。後期には、鶴喰遺跡で検出されたように、カマドを付す住居がみられるようになる。

古代・平安期には上ノ園第２遺跡・馬渡遺跡・大島畠田遺跡のような、いわゆる地方豪族層の居宅跡が確認されている。なお、この頃より文献資料にも当地方が掲載されるようになり、日向国の郡制や、都城が属していた諸県郡の様相が描かれている。特に「延喜式」諸国駅伝馬条には「日向国駅馬（中略）嶋津各五疋」とあり、当地域が「島津」と呼ばれ、公的施設である「島津駅」が存在したことがわかる。その後11世紀代には、大宰府の官僚であった平季基の開発によって、のちに巨大荘園となる「島津荘」の基礎が築かれる。

鎌倉初期には惟宗忠久が島津荘の惣地頭職を任され、都城に入ったと伝えられる。これにより忠久は姓を「島津」と改め、「島津家発祥の地」といわれる由縁をもたらした。

室町初期に至り、島津本宗家忠宗の子資忠が「北郷三百町」を与えられ、地名から北郷と名を改める。資忠の子義久は、中世城郭・都城を居城としたとされ、この名称が当市名の由来になったとされる。

北郷家８代忠相は、周囲の脅威であった北原氏や伊東氏らと合戦を繰り返し、都城盆地一帯を統一した。また長子忠親が豊州家（飫肥）を継承し、忠親の子・時久が北郷家を継いで、南九州東部をおさえるその勢力は強大なものとなった。

豊臣政権による九州侵略によって島津家はその軍門に降る。北郷家は秀吉から直接朱印状を下付され「御朱印衆」となり、都城盆地の支配権を安堵されるが、太閤検地後の所替によって祁答院へ移された。文禄・慶長年間には秀吉の朝鮮侵略に召集された島津家に従い、北郷家に替わって都城領主となった伊集院忠棟、北郷忠虎らが出兵する。忠虎は戦地において病死し、忠能が家督を継承する。慶長４年（1599）には島津本宗家と家老伊集院家の戦いである「庄内の乱」が起こった。翌年までにわたる大激戦ののち伊集院家は降伏し、北郷家はその戦功によって都城へ復帰することとなった。

近世においては、鹿児島藩の私領として、引き続き北郷（都城島津）家による統治が行われた。都城島津家は藩主に継ぐ禄高や本藩同様の職制機構を有し、「五口六外城」制に基づき、各所に地頭を置いて支配した。支配機構は、藩とは別個な組織を形成しており、その行政は都城家老の合議によるもので、藩からは一定の自律性をも有していた。

戊辰の役に際しては本藩に従い、北郷資常率いる都城隊182名が参戦した。西南の役においては西郷軍の一員として1,550名が参加しており、彼等の招魂塚が今も残っている。

明治４年の廃藩置県に伴って、大隅半島・宮崎県南部域を県域とする都城県が設置された。同県は明治６年には廃止され、鹿児島県･宮崎県に統合されていくが、都城県の中心としての精神は現在も受け継がれている。明治22年には都城町が発足し、大正13年には市制が施行され、昭和11年の沖水･五十市をはじめとして、庄内･志和池・中郷の各村町を合併した。また平成18年には山之口、山田、高崎、高城の４町と合併し、現在に至っている。

2　遺跡の位置と環境

鶴喰遺跡は、都城市横市町字鶴喰に所在する。南を東流する大淀川の支流・横市川の左岸奥部、月野原台地南端部にあり、せり出してきた同台地が横市川の流路変動にともない、浸食作用によって湾曲させられた河岸段丘上に位置している。この横市川流域では、奇しくもほ場整備事業に端を発して確認された遺跡が数多く点

在しており、当地の歴史的・地理的重要性を物語っている。各々を挙げれば、上流から、古代住居跡が確認された馬渡遺跡、同じく古代の遺跡である中尾遺跡、縄文・古代の遺跡が特徴的な中尾山・馬渡遺跡、中世の城である新宮城跡、中世水田を検出した谷合地の遺跡である母智丘谷遺跡、弥生後期の集落・坂元Ｂ遺跡、縄文から近世までの水田を重層的に確認した坂元Ａ遺跡、弥生中期の集落跡や中世建物群が確認された加治屋Ａ・Ｂ遺跡、縄文晩期住居や古代建物群・水田跡を検出した肱穴遺跡、弥生中～後期の集落跡であった今房遺跡、主に中世の遺構群が見つかっている早馬遺跡、横市川と大淀川の合流点付近に位置し、縄文・中世の遺構・遺物が数多く出土した正坂原遺跡などである。

【参考文献】

都城歴史資料館　1999 『都城と島津氏』 平成11年度都城歴史資料館特別企画展図録
都城市　1997 『都城市史』通史編　原始古代
都城市教育委員会　2000 『郡元地区遺跡遺跡』 都城市文化財調査報告書第51集
都城市教育委員会　2001 『天神遺跡（２次)』 都城市文化財調査報告書第54集
宮崎県埋蔵文化財センター　2001 『梅北佐土原遺跡・中尾遺跡・蓑原遺跡』
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第42集
都城市教育委員会　2002 『白山原遺跡』 都城市文化財調査報告書第57集
都城市教育委員会　2004 『鶴喰遺跡（古墳時代編)』 都城市文化財調査報告書第61集
都城市教育委員会　2004 『馬渡遺跡』 都城市文化財調査報告書第62集
都城市教育委員会　2004 『築池遺跡（１～４）・十三束第２遺跡（第２次)』
都城市文化財調査報告書第67集
都城市教育委員会　2004 『都城島津家領の唐人町周辺の遺跡
－柳川原（４・５次)・中町（４次)・天神（１・３・４・５次)』 都城市文化財調査報告書第65集
都城市教育委員会　2004 『木ノ前遺跡』 都城市文化財調査報告書第63集
新名一仁　2004 「北郷氏の由緒に関する基礎的考察
－島津庄日向方北郷の拝領・都城築城の時期をめぐって－」(『宮崎県地域史研究』17)
山下真一　2004 「中近世移行期の島津氏権力編成と北郷氏」(『立正史学』95)
鹿児島県『鹿児島県史料（旧記雑録)』
都城市　2005 『都城市史』通史編　中世・近世

Ⅲ　調査の記録

1　調査の概要

発掘調査は削平部分・排水路敷設部分及び道路敷設部分の計8,100㎡について実施した。工事切盛の関係上第４図のようなかたちとなった。

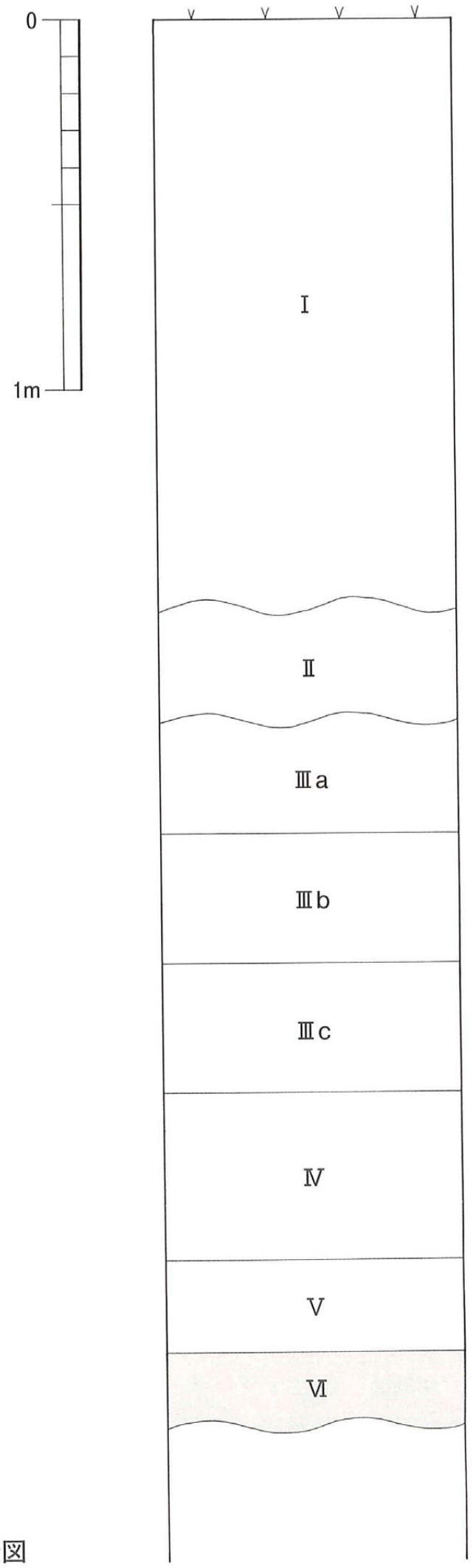
試掘調査において確認された遺物包含層は、調査区内ほぼ全域に平均10～15cmほどの堆積をみせる文明年間噴出とされる桜島起源軽石層（Ⅱ層）の直下にあるため、調査は、まずその直上まで重機による表土剥ぎを行い、以下の遺物包含層を手作業で掘り下げていき、Ⅱ層：文明軽石層直下で中世水田跡を、Ⅲａ層直下で中世建物群を、包含層下のⅣ層：霧島御池起源黄色軽石層上で古墳時代の竪穴住居跡群を検出した。

調査区は便宜上Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの４区に分けた。各々から縄文～中世の遺物・遺構が確認された。

2　遺跡の層序

大正・昭和における耕地整理のため若干の撹乱がみえたが、遺跡の所在するⅡ層以下の状況は比較的良好であった。Ⅱ層は15世紀後半頃に噴火した桜島より降下したとみられる灰白色軽石層（通称白ボラ）である。Ⅳ層は霧島山系御池より噴出した火山灰（通称黄ボラ）、Ⅵ層は鬼界カルデラより噴出した火山灰（通称アカホヤ）である。当遺跡ではⅡ層直下～Ⅳ層直上、いわゆるⅢ層全般が遺物包含層である。主に縄文晩期～中近世までの遺物を確認した。また、遺構に関してはⅡ層直下より水田跡、Ⅲａ層直下より中世建物群、Ⅲｃ層直下より古墳時代の竪穴住居跡群を検出した。

Ⅰ　層：灰褐色弱粘質土層
Ⅱ　層：文明軽石層（白ボラ）
Ⅲａ層：黒褐色弱粘質土層（オレンジパミスを含む）
Ⅲｂ層：暗黒褐色粘質土層（オレンジパミスを含む：やや硬め）
Ⅲｃ層：黒色粘質土層（オレンジパミスを含む）
Ⅳ　層：御池軽石層（黄ボラ）
Ⅴ　層：黒色粘質土層
Ⅵ　層：アカホヤ層



第３図　基本土層写真及び柱状図

3　調査の成果

(1)　調査の経緯

本遺跡の調査は層の上位から、中世水田跡、中世遺構群、古墳住居跡群と重複していたため、さきに中世水田の検出をして測量を行った後、中世遺構群の調査に取り掛かった。中途において、調査区内にいくつかサブトレンチを設定して以下の遺跡の状況を確認したところ、古墳住居跡が群集していることが判明し、調査期間との調整のうえ、検出及び遺構の半裁、完掘と続けた。包含層の掘り下げは人力にて行い、遺構検出、遺構の調査についても、全て手作業で行った。

Ａ地区は調査区の北側にあたり、面積約2,000㎡で主に道路・排水路敷設部分に相当する。ここでは試掘調査の結果にもとづき、まずⅡ層（文明降下軽石層）直上まで重機によって掘削したところ、15世紀後半頃に降下・堆積したとされるⅡ層に覆われた水田跡を確認した。Ⅱ層を除去し、水田面を精査・検出した後、以下の遺物包含層（Ⅲ層）を掘り下げた。Ⅲｂ層上面で確認した中世遺構群面では、主に柱穴群・溝状遺構を、古墳面では、竪穴住居跡、カマド状遺構を検出した。

Ｂ地区とＣ地区に挟まれた格好となったＤ地区は、約5,000㎡の調査面積である。ここからは古墳の集落、中世の建物群、水田跡、畝状遺構などが見つかり、また各々に付随する遺物も数多く出土している。特に中世土師器の総数に占める割合は大きい。遺構についてもⅢｂ層上で掘立柱建物群、土坑、溝状遺構、敷石状遺構、石組遺構など、多様な遺構が確認された。その下には７世紀前半期とみられる竪穴住居跡群を確認した。検出面は霧島山系御池起源の軽石層（Ⅳ層）上である。カマドの付設、またはその存在を示す状況がみられた。

(2)　調査の成果

本遺跡において中世の遺構を検出したのはＡ地区とＤ地区である（Ｃ地区についてはすでに報告済みである）。以下、各地区ごとに遺構と出土遺物を概観する。なお、本遺跡における中世遺物の主流を占めていたのは土師器であり、口径に対する底径の比率をもとに次のように分類した。文中における説明についても以下の分類を用いていることをあらかじめことわっておく。

【坏】　Ａ類……口径／底径が60％未満で、口縁部に向けて開く体部を形成するもの。
　　Ｂ類……口径／底径が70％未満で、口縁部に向けてやや開く体部を形成するもの。
　　Ｃ類……口径／底径が70％以上で、やや鋭い角度で立ち上がる体部を形成するもの。
　　小型……口径12cm未満のもの
　　中型……口径12cm以上、13cm未満のもの
　　大型……口径13cm以上のもの

【小皿】　Ａ類……口径／底径が75％未満で、口縁部に向けて開く体部を形成するもの。
　　Ｂ類……口径／底径が75％以上、85％未満で口縁部にむけてやや開く体部を形成するもの。
　　Ｃ類……口径／底径が85％以上で、やや鋭い角度で立ち上がる体部を形成するもの。
　　小型……口径７cm未満のもの
　　中型……口径７cm以上、８cm未満のもの
　　大型……口径８cm以上のもの

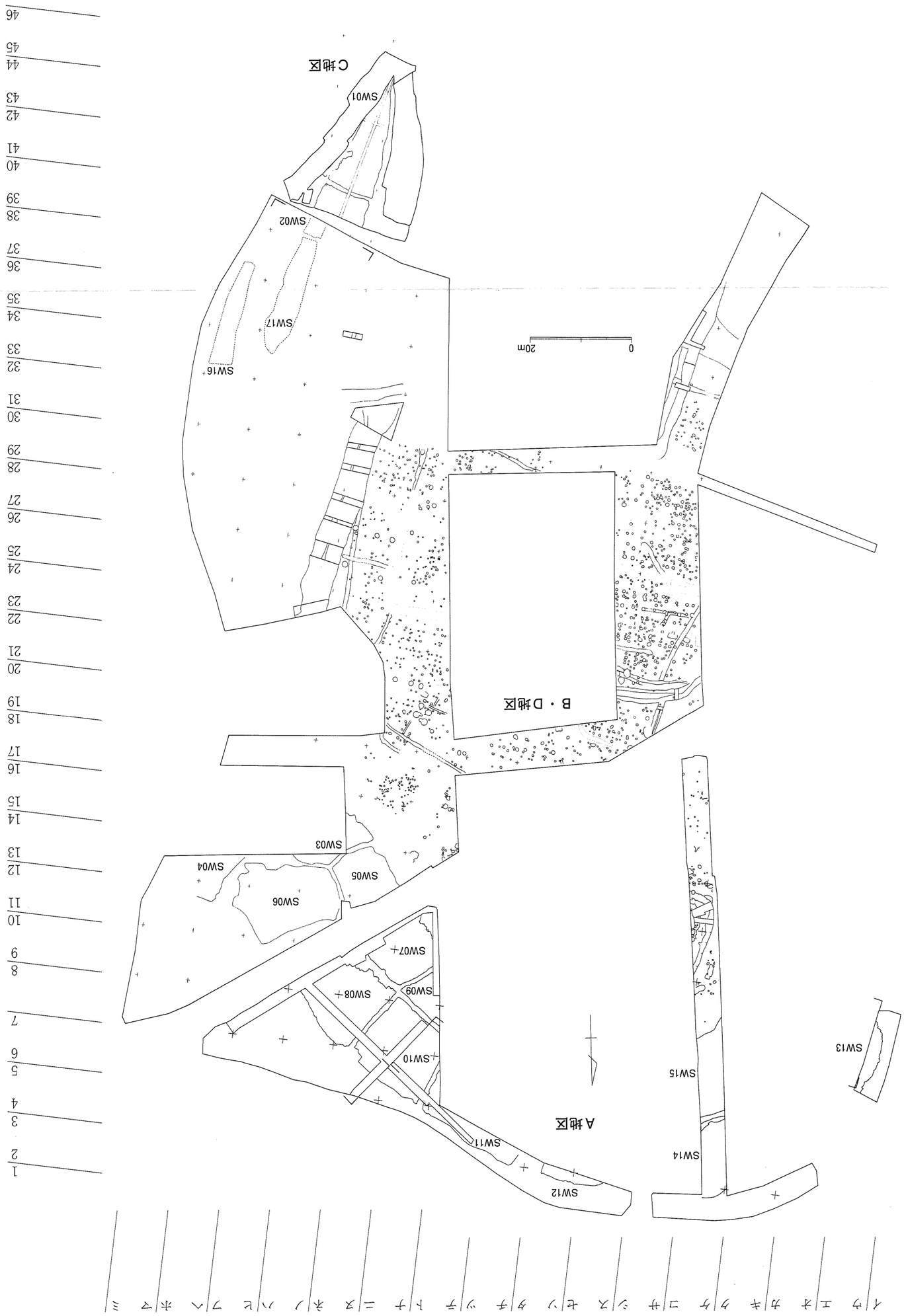
《Ａ地区》

１号土坑（SC01：第７図）

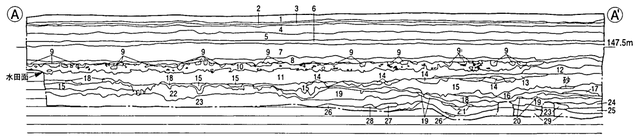
Ａ地区、グリッド：サ～シ－15～16区で検出した。東側半分は調査区外へのびている。推定であるが、短軸径は2.7m（長軸径は不明）、検出面からの深度は1.4mを測る。

２号土坑（SC02：第７・８図・第１表・図版２・３）

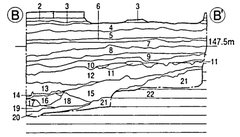
Ａ地区、グリッド：コ～サ－14～15区で検出した。東側は既に破壊されていた。形状は長径2.5m、短径2.7


A地区
B・D地区
C地区
SW01
SW02
SW03
SW04
SW05
SW06
SW07
SW08
SW09
SW10
SW11
SW12
SW13
SW14
SW15
SW16
SW17
0
20m

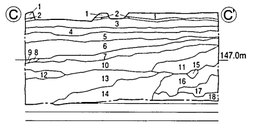
第４図　遺構配置図



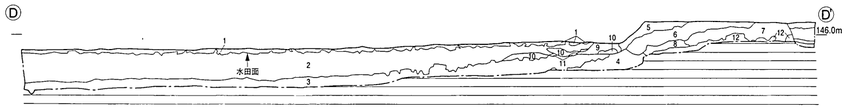
1 黒褐色弱粘質土　2 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　3 オレンジパミス・白色パミスをまんべんなく含む褐色粘質土　4 オレンジパミス・白色パミス・軽石をまんべんなく含む暗褐色粘質土　5 オレンジパミス・白色パミスをわずかに含む明褐色粘質土　6 白色パミスをまんべんなく含む明褐色粘質土(硬)　7 白色パミスを多量に含む暗褐色粘質土(硬)　8 白色パミスを多量に含む暗赤褐色粘質土(硬)　9 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土ブロック　10 白色パミス(文明軽石)　11 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　12 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　13 オレンジパミス・白色パミスをまんべんなく含む暗灰褐色粘質土(硬)　14 パミス　15 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　16 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色粘質土　17 暗赤褐色砂質土　18 オレンジパミス混赤色粘質土(鉄分沈着)　19 オレンジパミス混灰褐色弱粘質土　20 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土　21 灰褐色粘質土混パミス　22 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質シルト　23 灰褐色粘質土　24 赤褐色粘質土　25 小粒砂礫　26 灰褐色砂　27 大粒オレンジパミス混砂　28 灰色粘質土混灰色砂　29 暗灰褐色粘質土



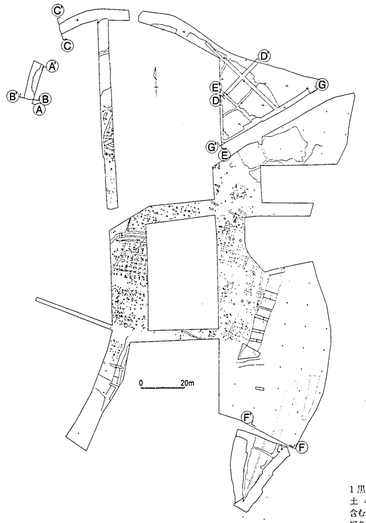
1 黒褐色弱粘質土　2 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　3 オレンジパミス・白色パミスをまんべんなく含む褐色粘質土　4 オレンジパミス・白色パミス・軽石をまんべんなく含む暗褐色粘質土　5 オレンジパミス・白色パミスをわずかに含む明褐色粘質土　6 白色パミスをまんべんなく含む明褐色粘質土(硬)　7 白色パミスを多量に含む暗褐色粘質土(硬)　8 白色パミスを多量に含む暗赤褐色粘質土(硬)　9 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　10 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　11 白色パミス(文明軽石)　12 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　13 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色粘質土　14 オレンジパミス混赤色粘質土(鉄分沈着)　15 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質シルト　16 オレンジパミス混灰褐色弱粘質土　17 赤褐色粘質土　18 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土　19 小粒砂礫　20 暗灰褐色粘質土　21 オレンジパミス(御池軽石)　22 オレンジパミス(御池軽石)

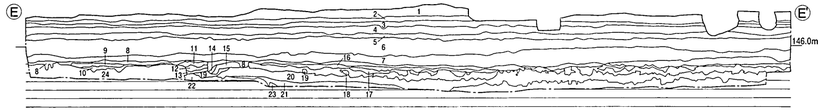


1 表土(Ia)　2 灰褐色弱粘質土(Ib)　3 オレンジパミス・白色パミス混黒褐色砂質土(硬)　4 白色パミスをわずかに含む褐色砂質土(Id)　5 白色パミスをまんべんなく含む暗褐色砂質土(Ie)　6 オレンジパミス・アカホヤブロック・白色パミスをまんべんなく含む黒褐色弱粘質土　7 褐色砂質土(If)　8 白色パミス混暗黒褐色粘質土　9 白色パミス混灰褐色砂質土　10 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色砂質土(IIa)　11 オレンジパミスをまんべんなく含む暗灰褐色粘質土(IIIb)　12 オレンジパミス・白色パミスを砂状に含む黒色砂質土　13 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質土(IIIc)　14 オレンジパミスを多量に含む暗灰オリーブ色弱粘質シルト　15 オレンジパミス混赤色粘質土(鉄分沈着)　16 オレンジパミスを多量に含む明灰オリーブ色弱粘質シルト　17 オレンジパミスを多量に含む明灰オリーブ色弱粘質シルトとオレンジパミスの漸移層　18 オレンジパミス(御池軽石)

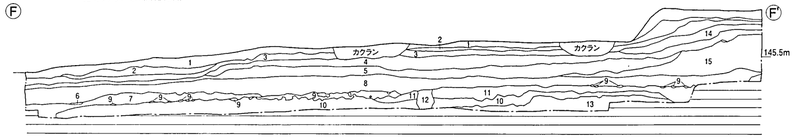


1 白色パミス(文明軽石)
2 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色砂質土(IIIa)
3 オレンジパミスをまんべんなく含む暗灰褐色粘質土(IIIb)
4 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質土(IIIc)
5 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土
6 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質シルト
7 オレンジパミスを多量に含む黒褐色粘質土
8 黒色土混オレンジパミス
9 オレンジパミス混灰褐色弱粘質土
10 砂+褐色土
11 砂
12 オレンジパミス(御池軽石)





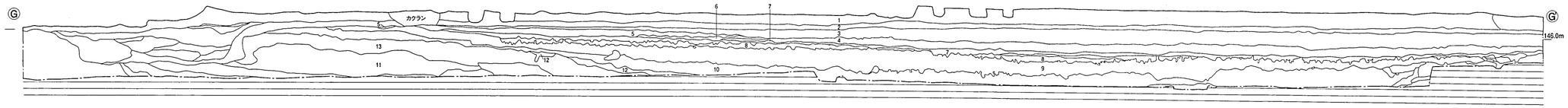
1 黒褐色弱粘質土　2 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　3 オレンジパミス・白色パミスをまんべんなく含む褐色粘質土　4 オレンジパミス・白色パミス・軽石をまんべんなく含む暗褐色粘質土　5 オレンジパミス・白色パミスをわずかに含む明褐色粘質土　6 白色パミスをまんべんなく含む明褐色粘質土(硬)　7 白色パミスを多量に含む暗褐色粘質土(硬)　8 白色パミスを多量に含む暗赤褐色粘質土(硬)　9 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　10 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　11 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　12 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土　13 オレンジパミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　14 オレンジパミス混砂　15 白色パミス(文明軽石)　16 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　17 白色パミスを多量に含む暗褐色粘質土　18 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土ブロック　19 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土　20 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色粘質土　21 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質シルト　22 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土　23 オレンジパミスをわずかに含む暗褐色砂質土　24 オレンジパミス(やや白色化・御池軽石)



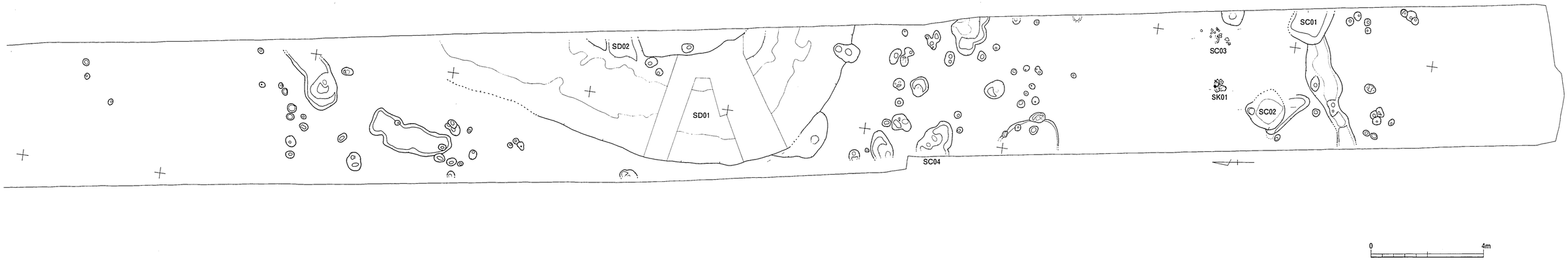
1 表土(Ia)
2 灰褐色弱粘質土(Ib)
3 暗褐色砂質土(Ic)
4 白色パミスをわずかに含む褐色砂質土(Id)
5 白色パミスをまんべんなく含む暗褐色砂質土(Ie)
6 砂
7 褐色砂質土(If)
8 白色パミスをわずかに含む暗灰褐色砂質土
9 白色パミス(文明軽石)
10 オレンジパミスをまんべんなく含む暗褐色砂質土(IIIa)
11 オレンジパミスをまんべんなく含む暗灰褐色粘質土(IIIb)
12 中世ピット
13 オレンジパミスをわずかに含む黒褐色粘質土(IIIc)
14 明褐色砂質土
15 白色パミスをわずかに含む黒褐色砂質土

0　4m

1 黒褐色弱粘質土　2 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　3 オレンジパミス・白色パミスをわずかに含む明褐色粘質土　4 白色パミスをまんべんなく含む明褐色粘質土(硬)　5 白色パミスを多量に含む暗褐色粘質土　6 白色パミスを多量に含む灰褐色粘質土　7 白色パミスを多量に含む暗褐色粘質土　8 白色パミス(文明軽石)　9 白色パミスをわずかに含む暗褐色粘質土　10 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　11 オレンジパミス(御池軽石)　12 白色パミスをまんべんなく含む黒褐色粘質土　13 パミスをわずかに含む黒褐色粘質土



第５図　土層断面図

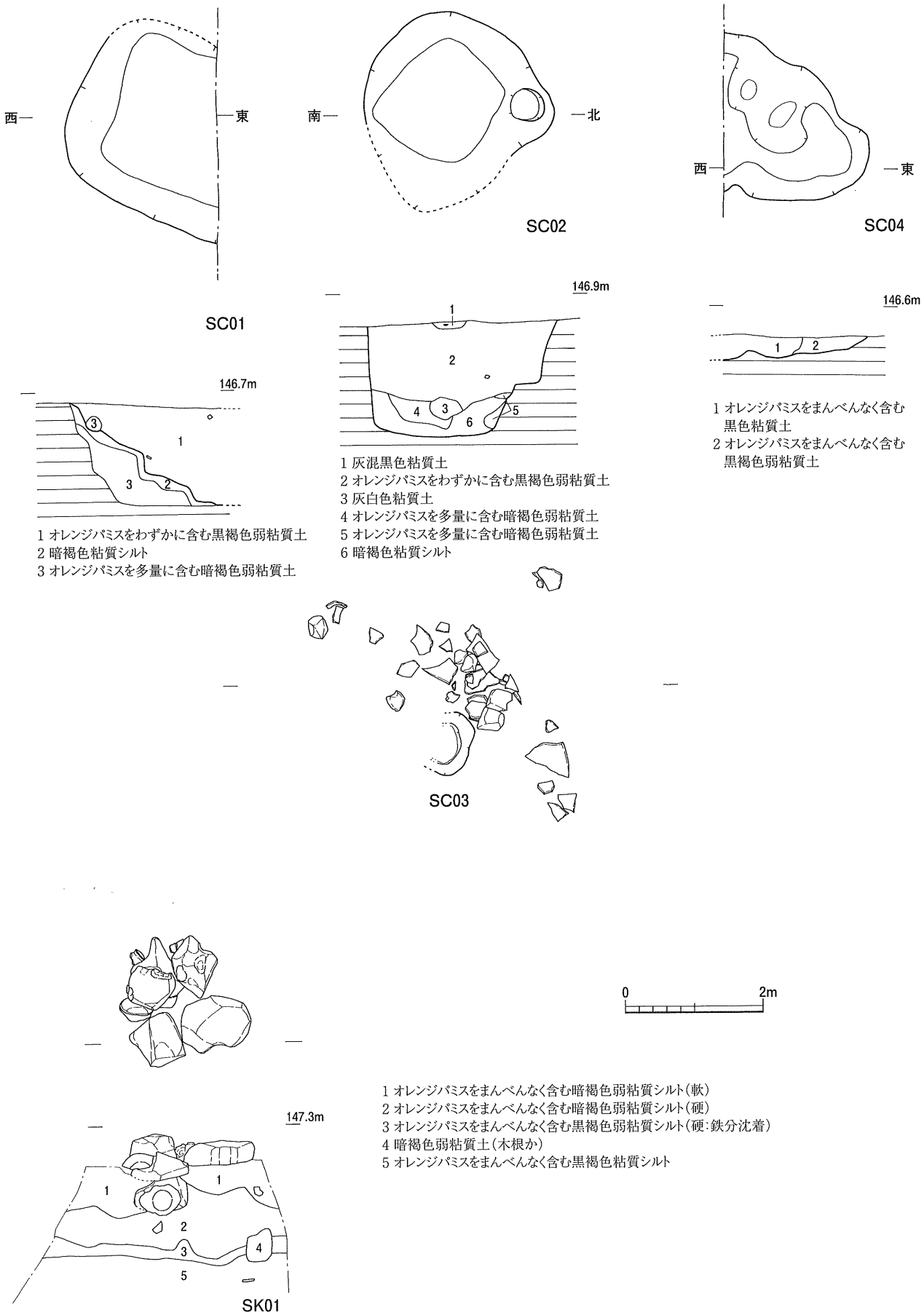


第６図　Ａ地区遺構配置図

北側から

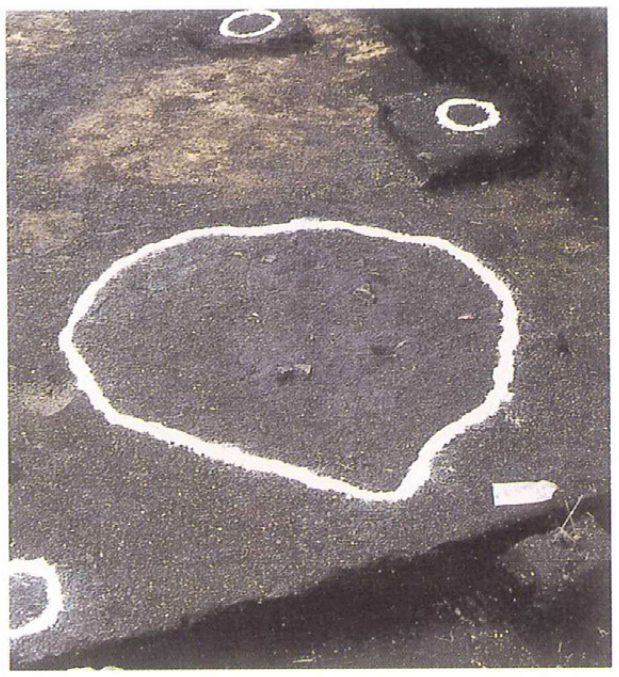
作業状況

図版 1
A 地区遺構検出状況写真



第7図　SC01・02・03・04・SK01 実測図

SC01 断面



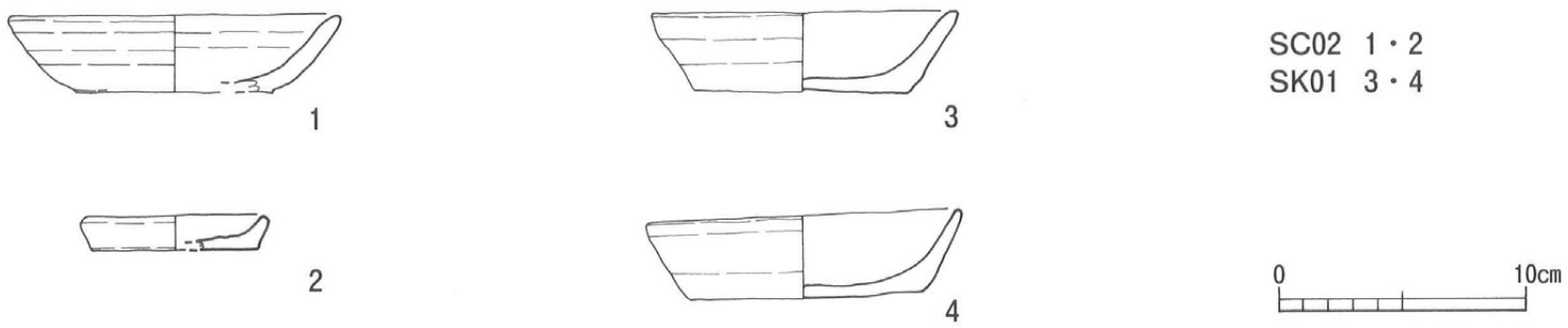
SC02

SC02 断面

SK01

SK01（軽石と土師器）

図版 2　SC01・02・SK01 写真



第８図　SC02・SK01 内出土遺物実測図　土師器

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
1	土師器	坏	SC02	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物･砂粒	13.4	8.0	3.1	回転糸切　反転復元
2	土師器	小皿	SC02	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物･砂粒	7.6	6.8	1.4	回転糸切　やや磨耗　反転復元
3	土師器	坏	SK01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	3mm以下の鉱物･砂粒	12.3	8.7	3.2	回転糸切　磨耗
4	土師器	坏	SK01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	3mm以下の鉱物･砂粒	12.8	9.2	3.3	回転糸切　磨耗　内薄く炭化物付着

第１表　SC02・SK01 内出土遺物観察表　土師器

図版３　SC02・SK01 内出土遺物写真　土師器

mの楕円状を呈している。北側はテラス状を呈しているが、本来は柱穴であったものと思われる。検出面からの深度は1.7mを測る。

出土土師器の総重量は550ｇであった。**1**は坏でＢ類大型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。**2**は小皿でＣ類中型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。

３号土坑（SC03：第７図・図版２）

Ａ地区、グリッド：サ～シ－17区で検出した。土坑そのものは小さく、かつ北側半分は消失していた。周辺には土器片や石が散在していた。

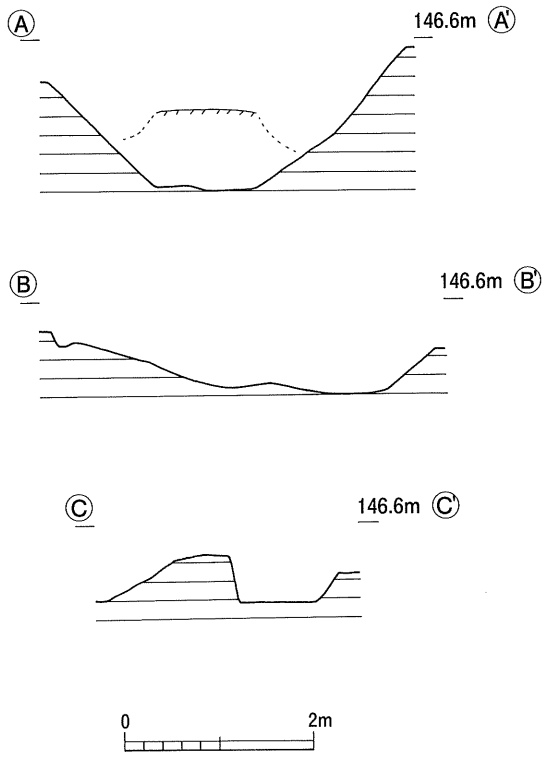
４号土坑（SC04：第７図・図版２）

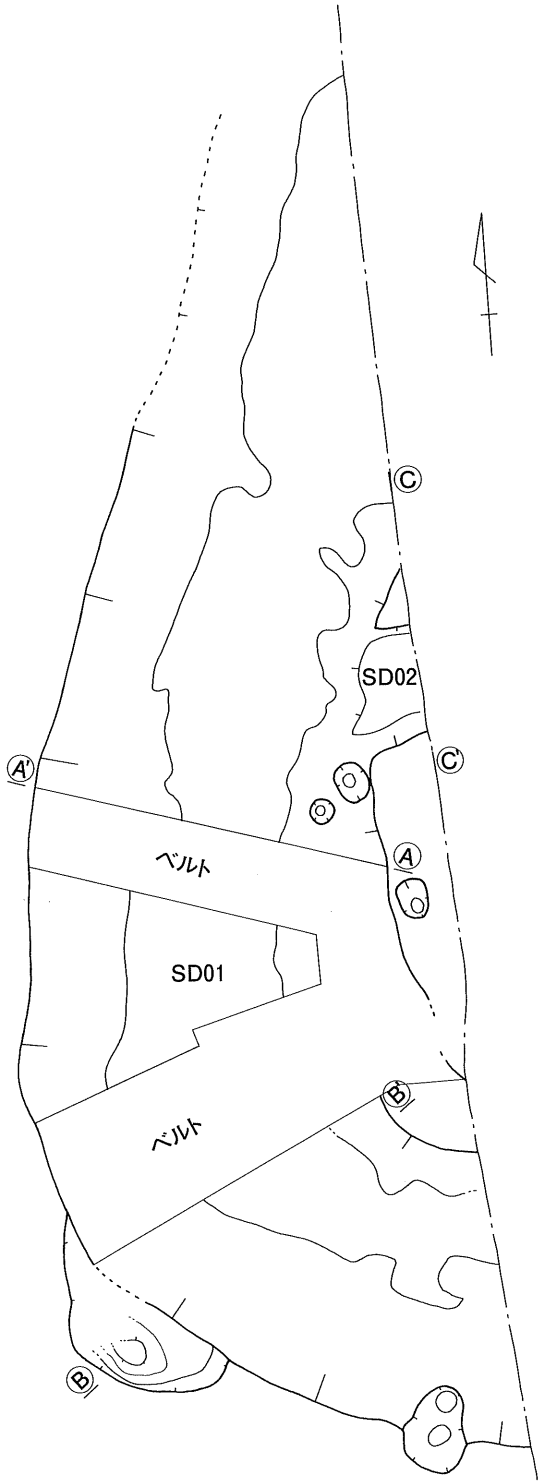
Ａ地区、グリッド：コ～サ－15～16区で検出した。平面プランは不定形を呈し、西側半分は調査区外へのびる。検出面からの深さは30cm程度である。

１号集石（軽石）遺構（SK01：第７・８図・第１表・図版２・３）

Ａ地区、グリッド：サ－17区で検出した。20cm大の軽石数点で構成された集石遺構で、石の間には土師器坏が遺存していた。

3、**4**は土師器坏で、Ｃ類中型に分類され灰白色系の色調を呈する。ともに底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。内面における底部と体部との境は不明瞭である。全体的に器壁が厚く、所々に黒斑が見られる。





第９図　SD01・02 実測図

１号溝状遺構
(SD01：第９・10図・第２表・図版４・５)

Ａ地区、グリッド：サ～シ－11～14区で検出した。南東－北西方向へ「く」の字状に大きく屈折している。検出面から30～40cmのところで硬化面を確認したが、面そのものは凹凸が激しい状態であり、鉄分もひどく沈着している状態であった。溝の幅員は約４ｍ、検出面からの最大深度は1.4ｍを測る。SD02とつながっている。

５は龍泉窯系青磁坏の口縁～底部片で、外面に片彫蓮弁文が施される。坏Ⅳ類以降、14世紀後半以降のものである。稜花皿タイプと思われる。**６**は青花碗の体～底部片で、見込みおよび外面に酸化コバルトを含む釉下顔料いわゆるゴス（呉須）で文様が施されている。明時代（中国）初期のものである。**７**は東播系須恵器鉢の口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。12世紀から14世紀にかけての産と思われる。

２号溝状遺構（SD02：第９図・図版４）

Ａ地区、グリッド：サ－13区で検出した。西側はSD01とつながり、東は調査区外へのびている。上端部幅員は1.1ｍ、検出面からの最大深度は50cmを測る。

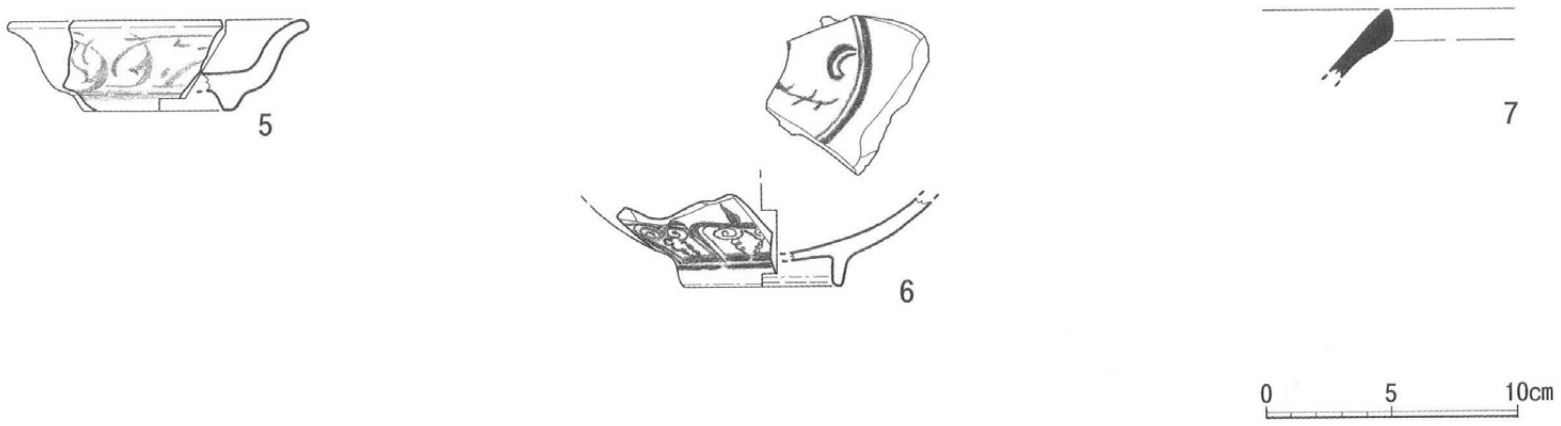
SD01・02 遠景（北から）

SD01・02 完掘状況（北から）

SD01・02 完掘状況（南西から）

SD01 硬化面検出状況

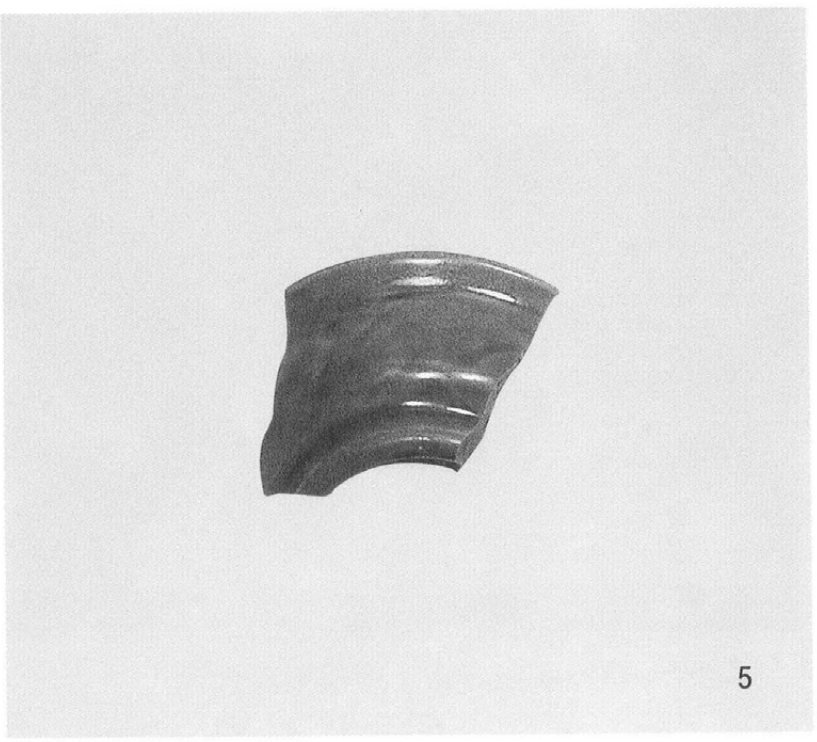
図版 4　SD01・02 写真

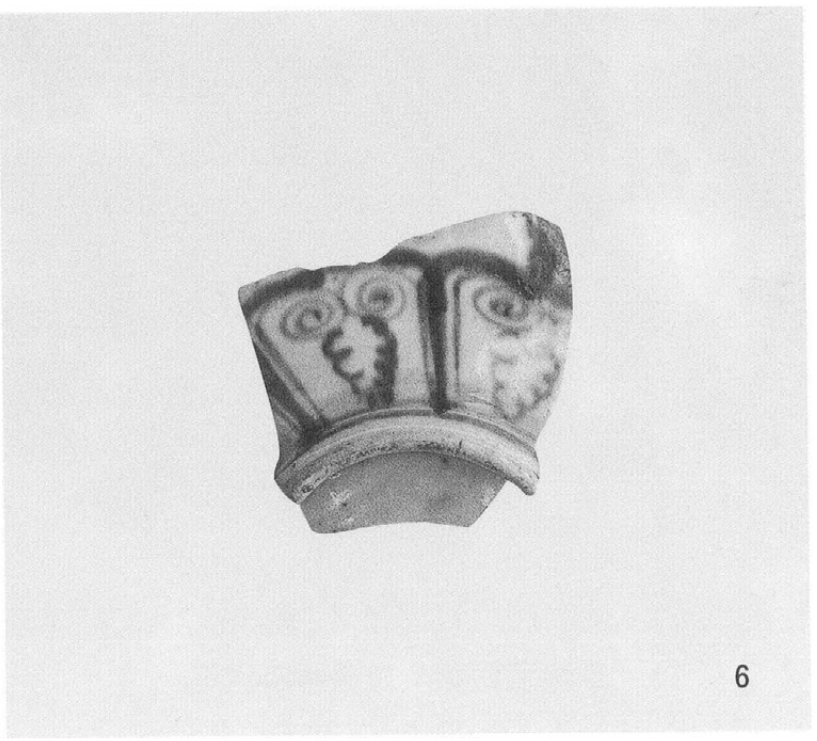


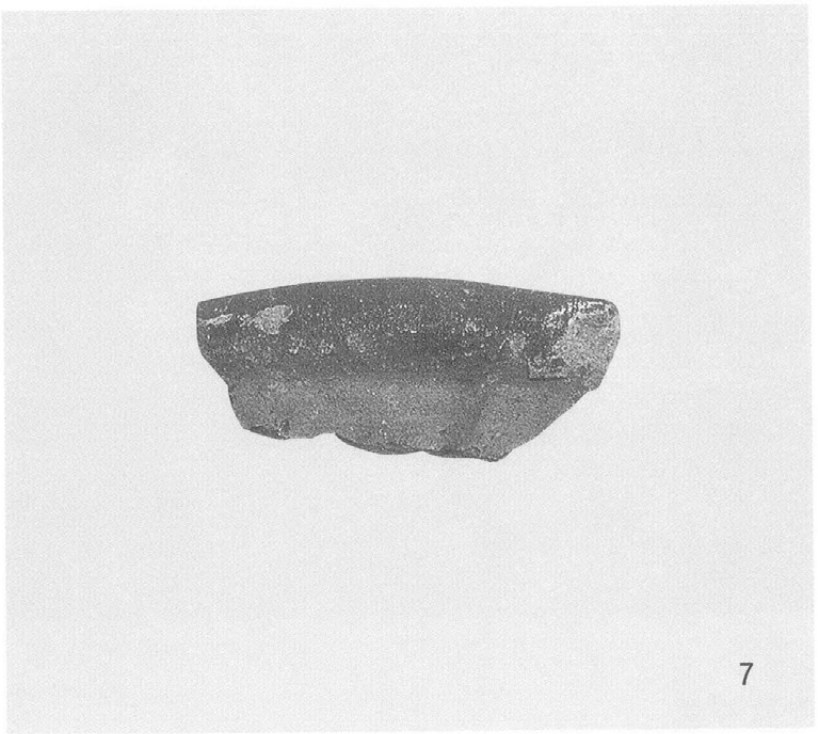
第10図　SD01 内出土遺物実測図　陶磁器

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
5	青磁	坏	SD01	施釉	施釉	灰白色	12.0	5.9	3.6	(反転復元)　龍泉窯系坏Ⅳ類以降　稜花皿タイプ
6	青花	碗	SD01	施釉	施釉	灰白色	−	6.2	−	(反転復元)　染付蓮子碗
7	東播系須恵器	鉢	SD01	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	−	−	−	

第２表　SD01 内出土遺物観察表　陶磁器







図版５　SD01 内出土遺物写真　陶磁器

《Ｂ・Ｄ地区》

１号掘立柱建物

(SB01：第12～18図・第３～９表・図版７～11)

Ｄ地区の西側、グリッド：シ～ソ－24～26区で検出した。柱穴の径は約70cm、検出面からの深さも70cmを測る。柱間は2.2mで総柱状を呈する。ただし中心部のみは柱穴がない。各々の柱穴の底には根石と思われる石が置かれてあった。建物は東西６間、南北４間で、４面に庇がつく構造である。北西部分はSC22と切り合う。その時期差はSB01→SC22となる。

D地区東側　遺構検出状況

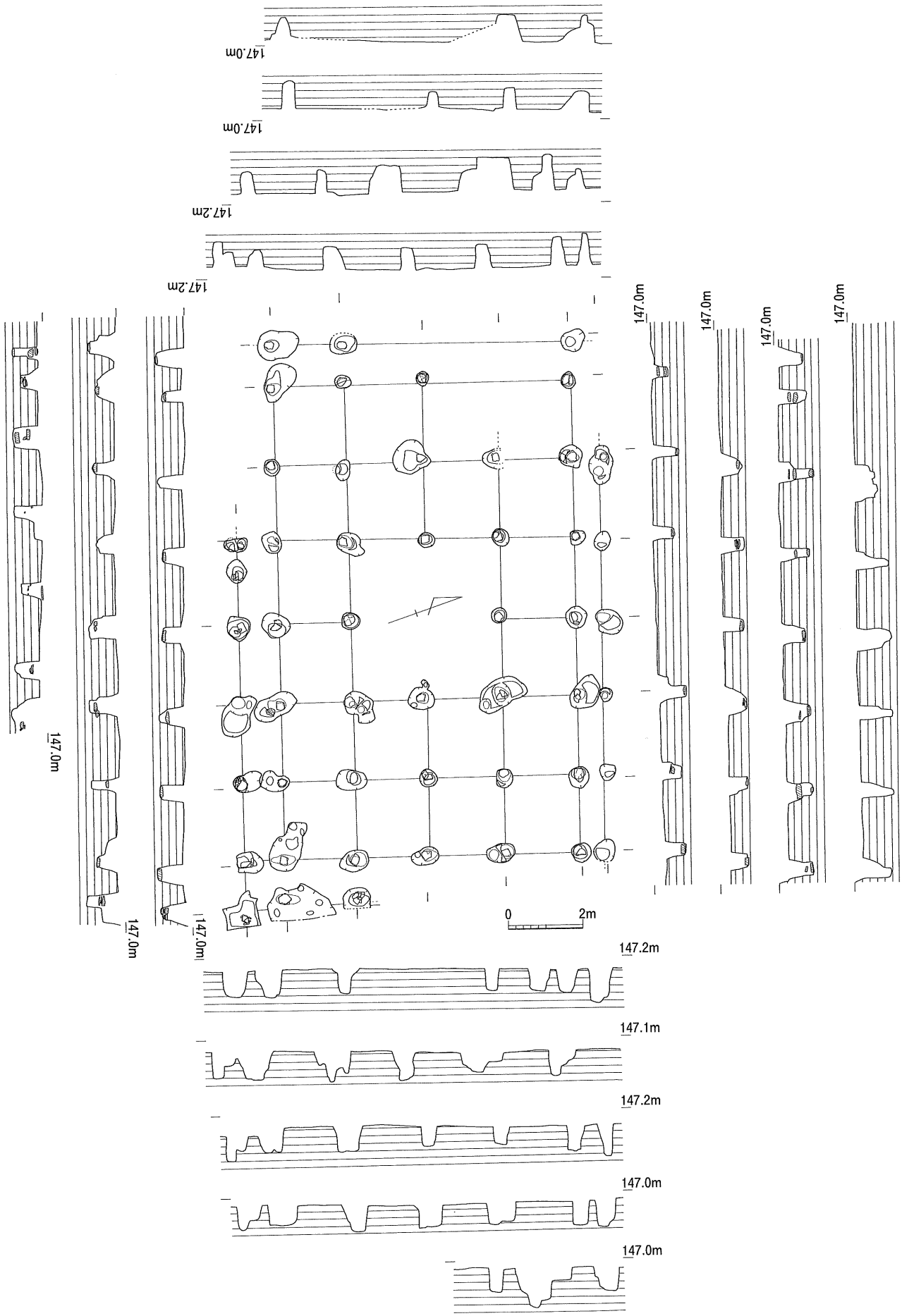
D地区西側　完掘状況

D地区西側　遺構検出状況

D地区南西側　遺構検出状況

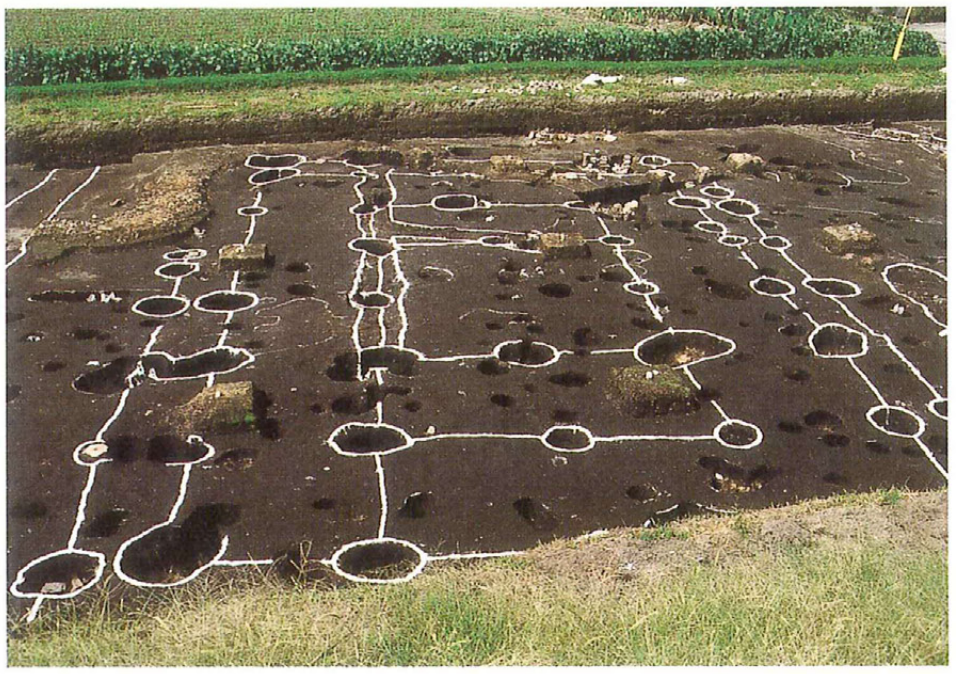
D地区遺構掘り下げ風景

図版6　B・D地区写真

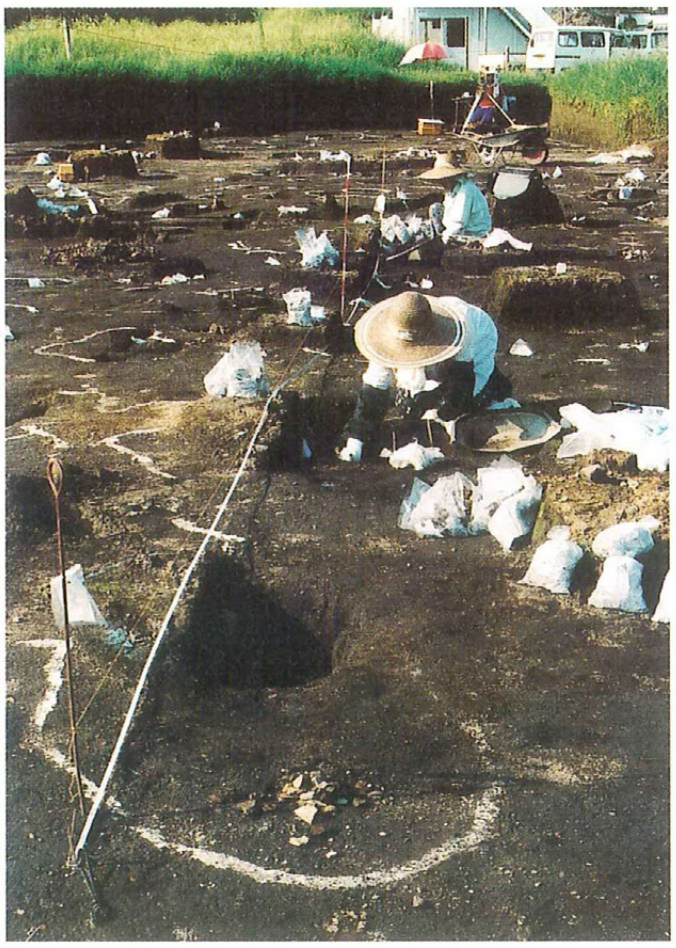


第12図　SB01 実測図

SB01 全景（東から）

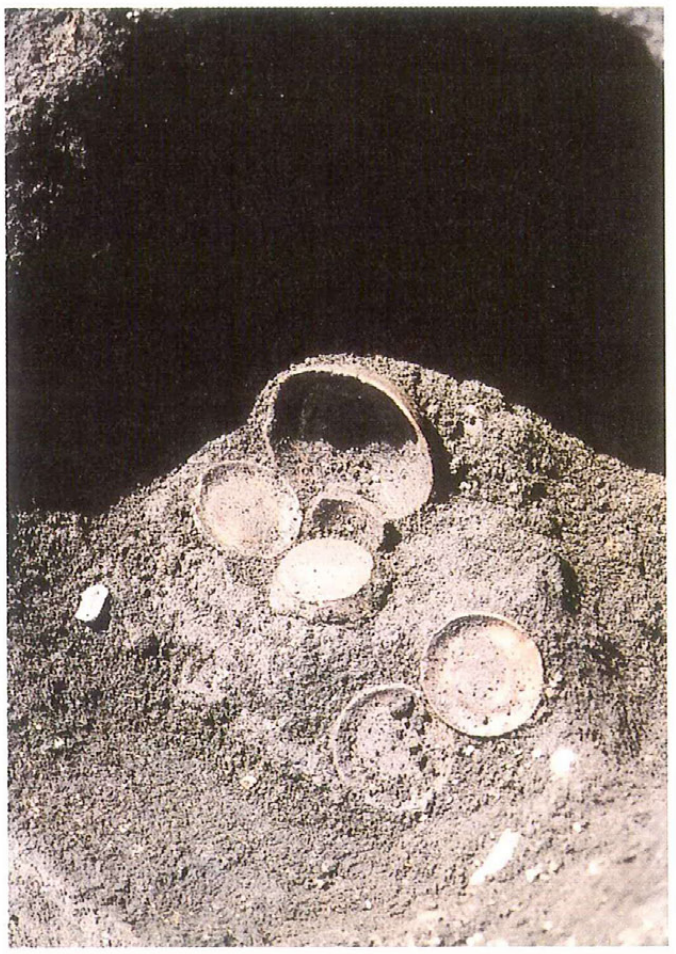


SB01 全景（東から）



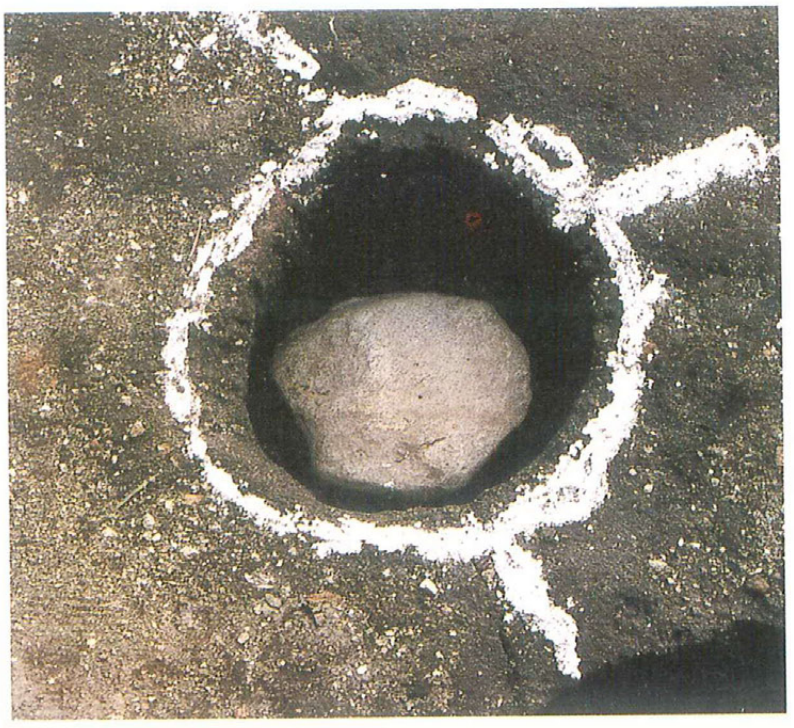
Pit 半裁風景

Pit 遺物出土状況



Pit 遺物出土状況

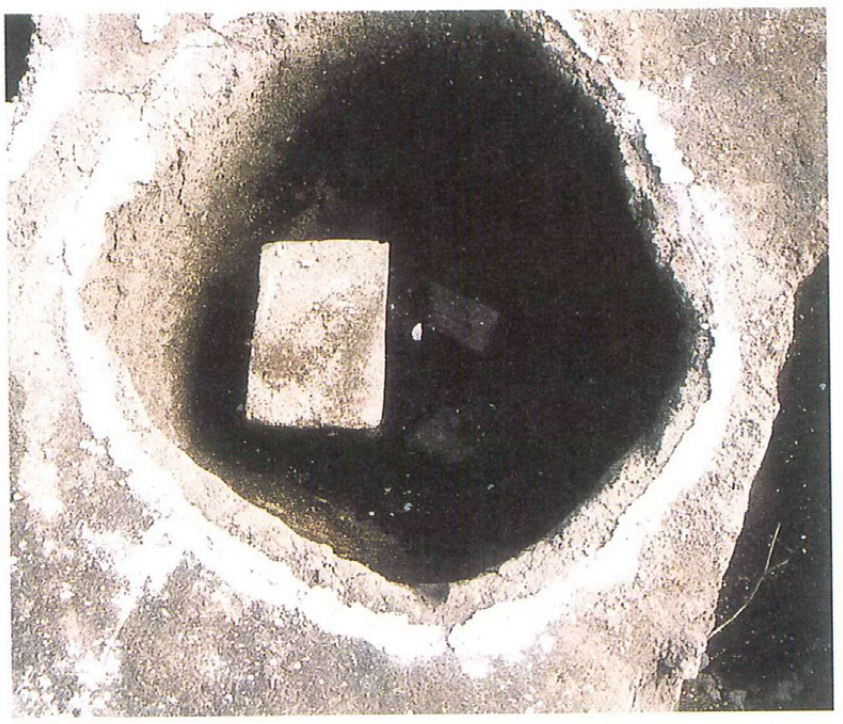
図版 7　SB01 写真(1)



Pit 根石検出状況

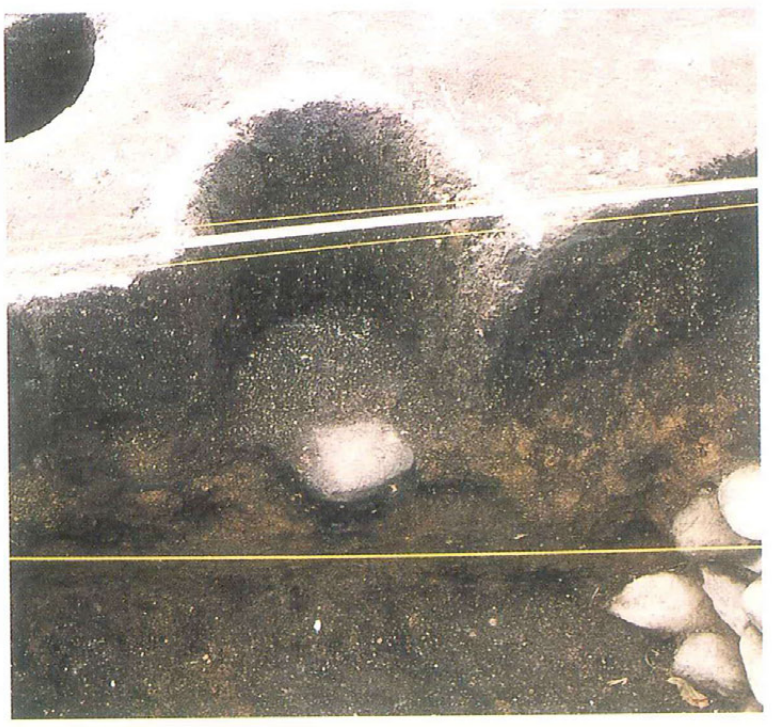
Pit 遺物・根石検出状況

Pit 根石検出状況



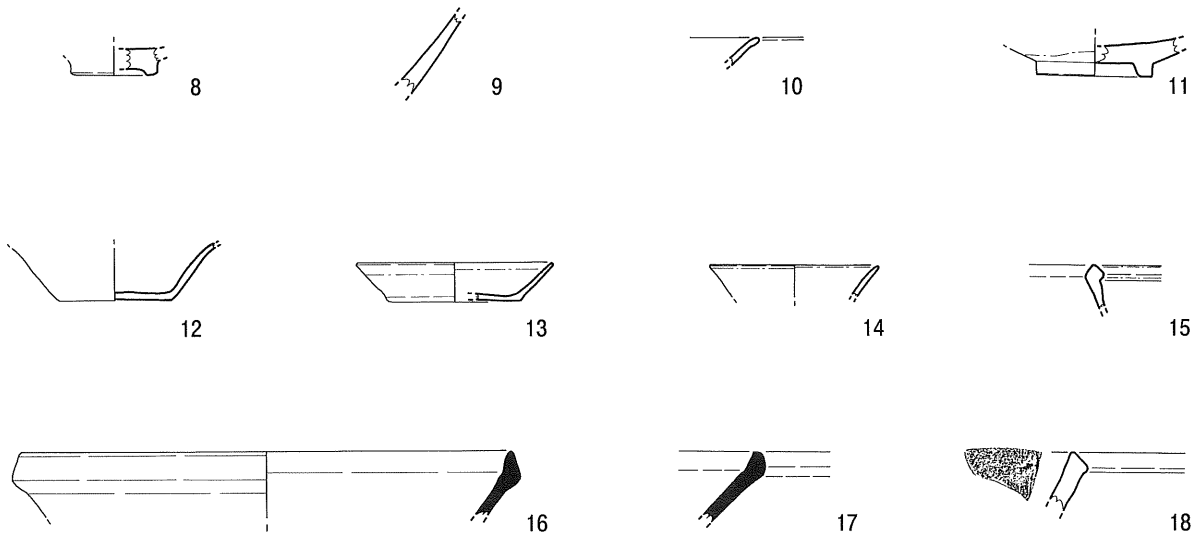
Pit 根石検出状況

Pit 根石検出状況



Pit 根石検出状況（切り合っているのはSC22）

図版 8　SB01 写真(2)



第13図　SB01 内出土遺物実測図　陶磁器

0　5　10cm

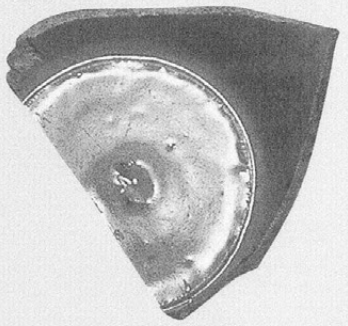
掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
8	青磁	碗	SB01	施釉	施釉	灰白色	－	4.6	－	龍泉窯系碗Ⅱ－b類
9	青磁	－	SB01	施釉	施釉	灰白色	－	－	－	龍泉窯系Ⅳ類以降
10	白磁	皿	SB01	施釉	施釉	灰白色	－	－	－	皿ⅡorⅢ類
11	白磁	碗	SB01	施釉	施釉	灰白色	－	6.2	－	(反転復元)　碗Ⅱ類
12	白磁	皿	SB01	施釉	施釉	灰白色	－	5.8	－	(反転復元)　皿Ⅸ類
13	青白磁	皿	SB01	施釉	施釉	灰白色	10.4	7.0	2.1	(反転復元)　口ハゲ
14	青白磁	皿	SB01	施釉	施釉	灰白色	9.0	－	－	(反転復元)　口ハゲ
15	中国陶器	盤	SB01	施釉	施釉	灰黄褐色	－	－	－	盤Ⅰ－2類　鉄絵
16	東播系須恵器	鉢	SB01	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	27.0	－	－	(反転復元)
17	東播系須恵器	鉢	SB01	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	
18	備前	擂鉢	SB01	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	－	－	－	胎土に透明な鉱物を多量に含む

第３表　SB01 内出土遺物観察表　陶磁器

8は龍泉窯系青磁碗の底部片で、蓮弁碗と思われる。碗Ⅱ－ｂ類に相当し13世紀初頭から13世紀前半にかけてのものである。9は龍泉窯系青磁の体部片で、壺・瓶・鉢・盤類の大形品と思われる。Ⅳ類以降、14世紀後半以降のものである。10は白磁皿の口縁部片で、ゆるく外反している。皿Ⅱ－１類より皿Ⅲ－１類に近い。11は白磁碗の底部片である。碗Ⅱ類に相当し11世紀後半から12世紀前半にかけてのものである。12は白磁皿の体～底部片である。皿Ⅸ類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。13は青白磁皿の口縁～底部片、14は青白磁皿の口縁部片である。口縁端部が無釉でいわゆる口禿げである。12世紀後半から13世紀と思われる。15は中国陶器（盤）の口縁部片である。16、17は東播系須恵器鉢の口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。18は備前擂鉢の口縁部片で、胎土に透明な鉱物を多量に含んでいる。

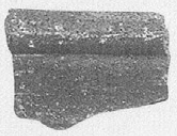
出土土師器の総重量は57,615ｇであった。19～137は坏である。19～25はＢ類小型に分類される。19は底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、外面下半に幅の狭いロクロ目が明瞭に残る。20は底部が薄い円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。21は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。22は底部から体部にかけて一旦屈曲した後、体部は直線的に立ち上がる。外面下半に幅の狭いロクロ目が明瞭に残る。23は器高が4.2cmと高く、底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

8

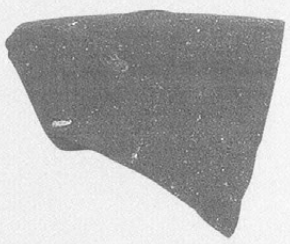


12

13



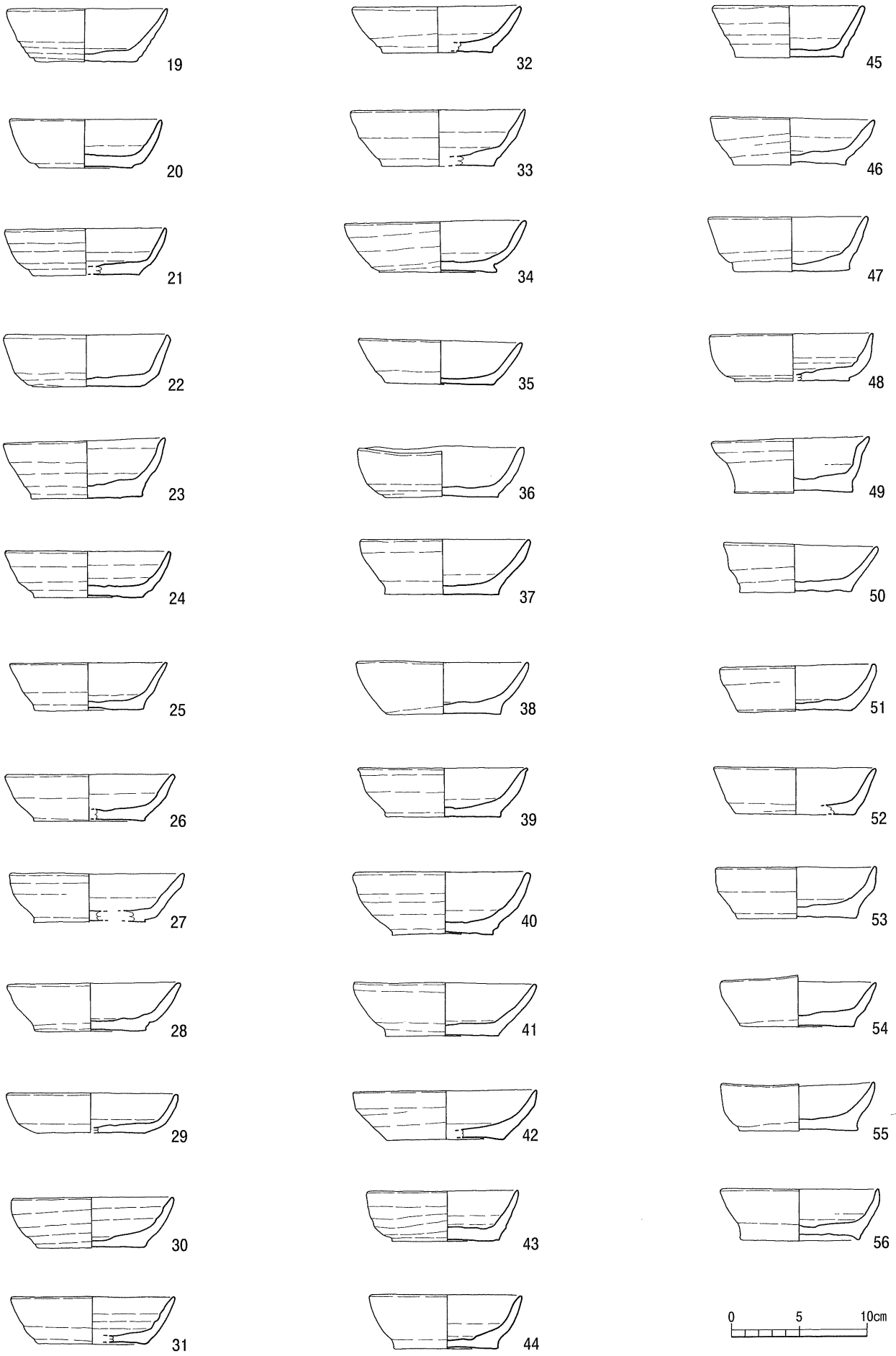
15



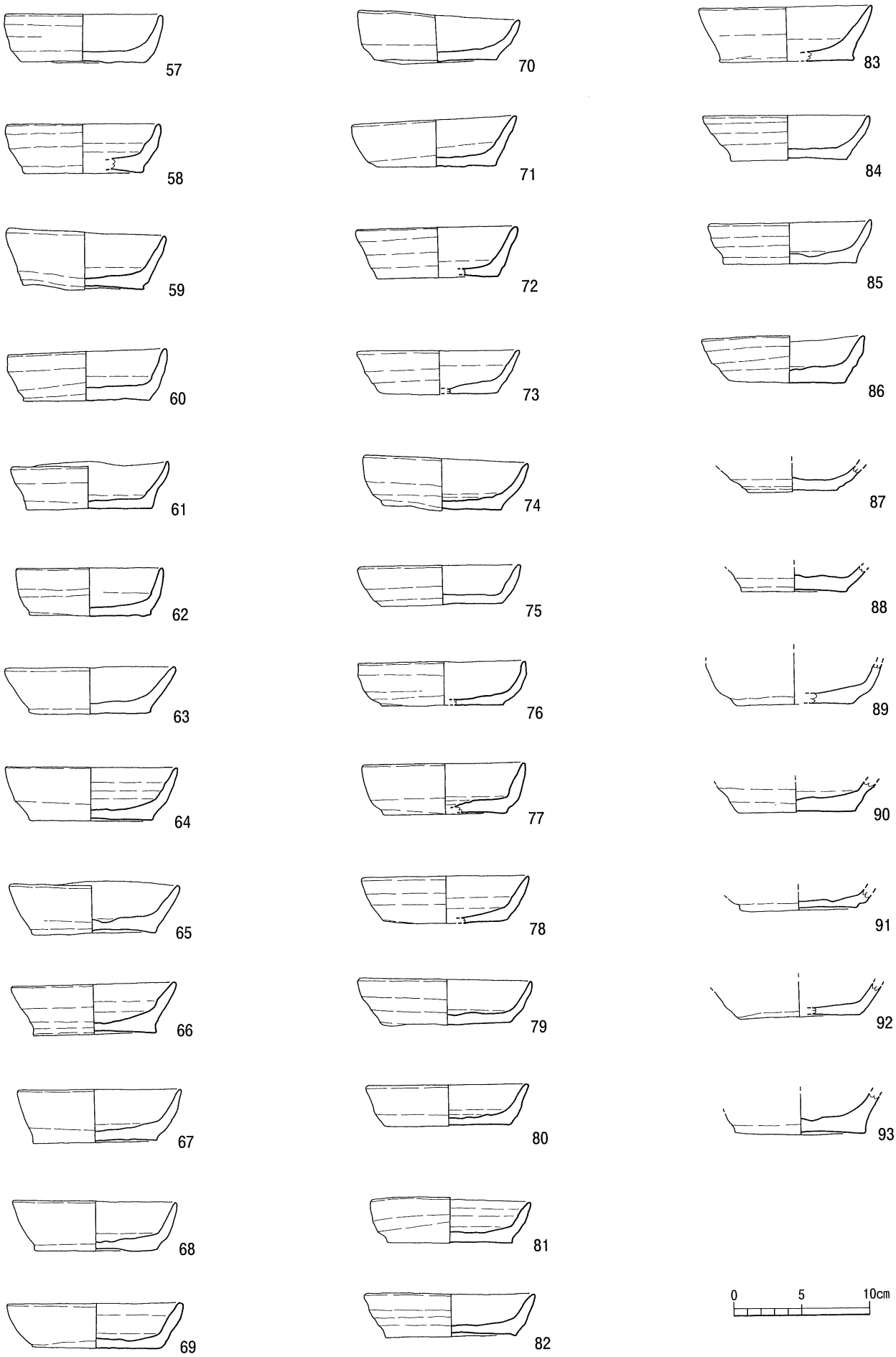
17

18

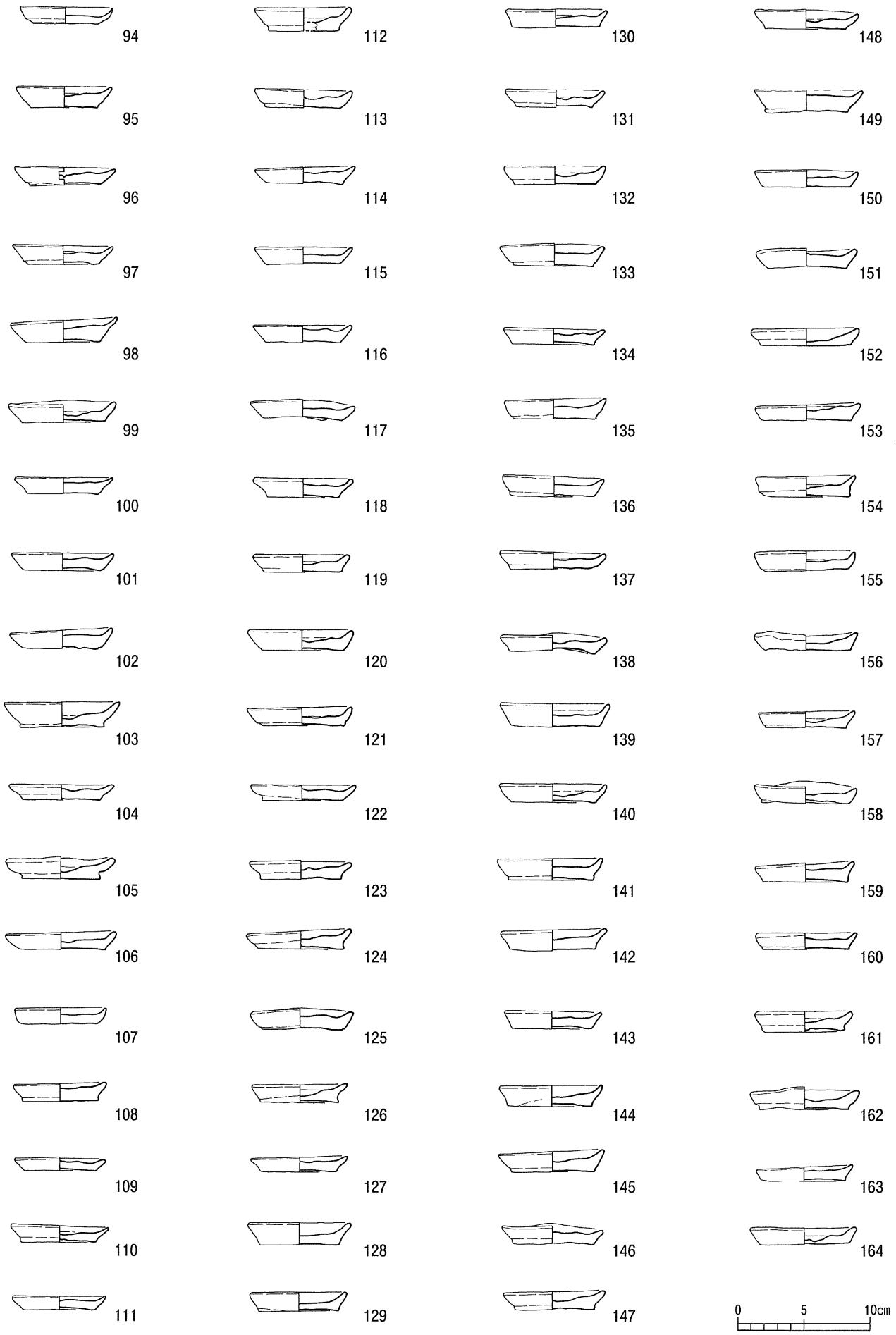
図版 9　SB01 内出土遺物写真　陶磁器



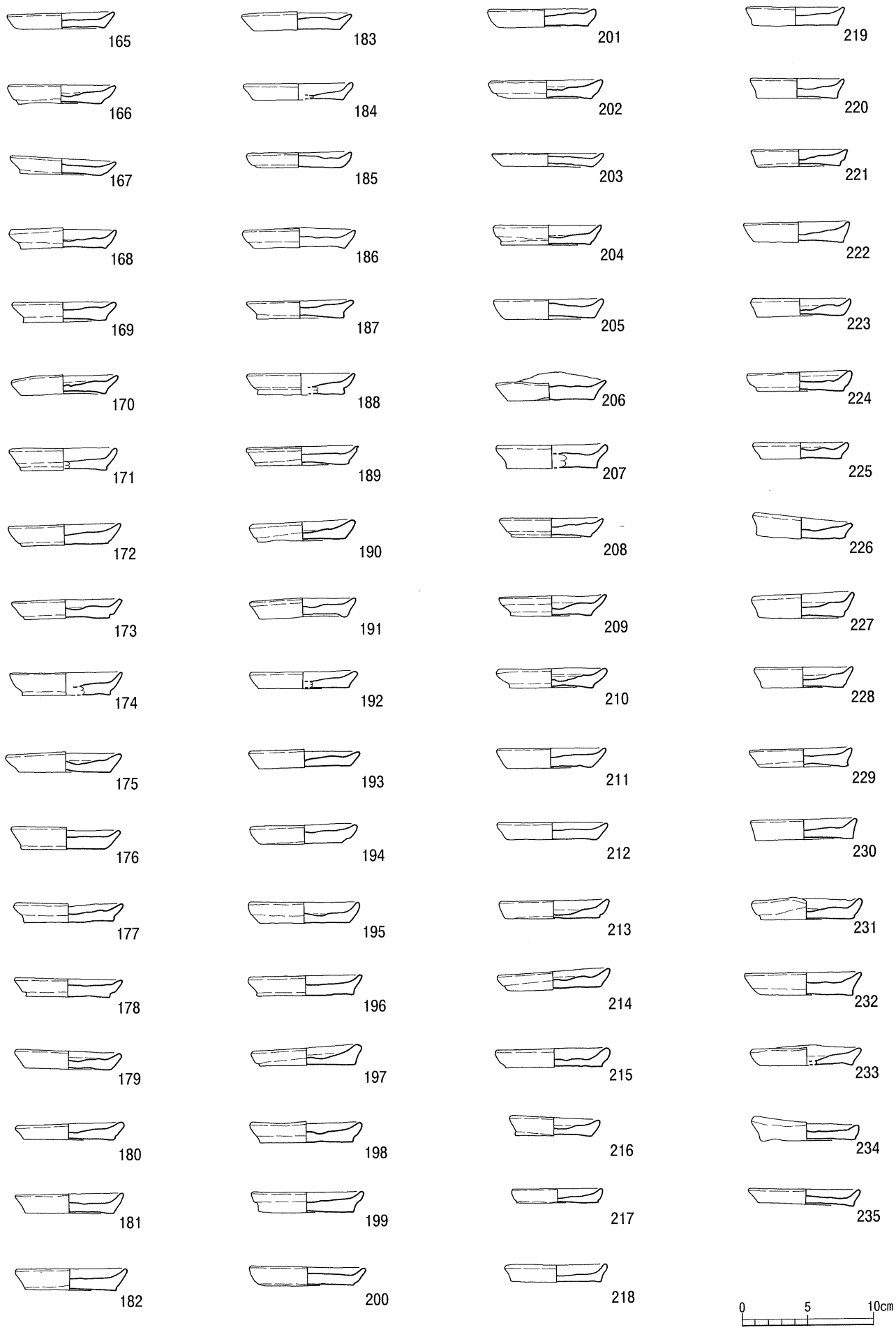
第14図　SB01 内出土遺物実測図　土師器(1)



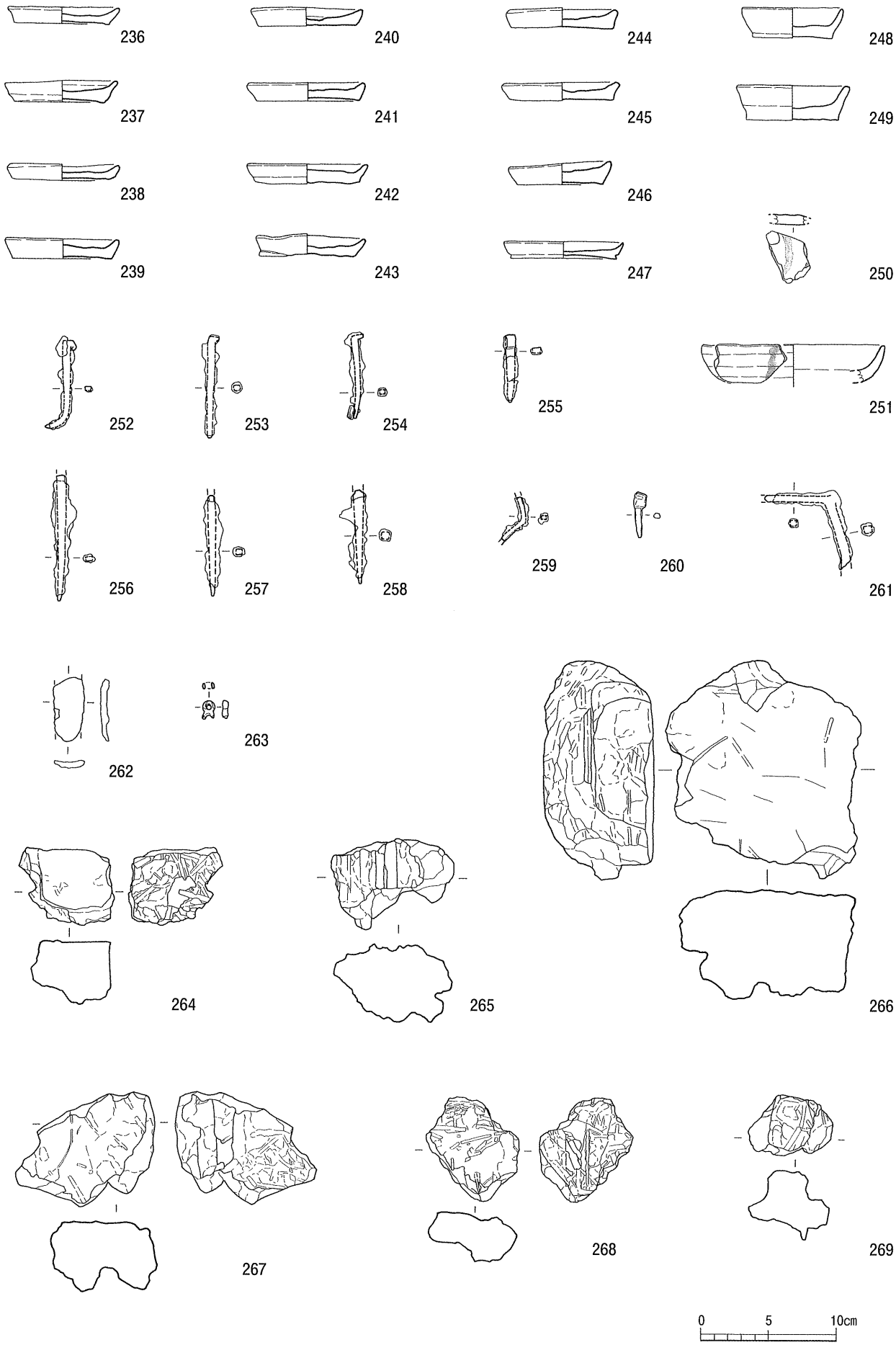
第15図　SB01 内出土遺物実測図　土師器(2)



第16図　SB01 内出土遺物実測図　土師器(3)



第17図　SB01 内出土遺物実測図　土師器(4)



第18図　SB01 内出土遺物実測図　土師器(5)・鉄製品・銅製品・建築部材

掲載番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
19	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.8	7.4	3.9	回転糸切　外ロクロ痕？
20	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	淡黄(2.5Y8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.2	7.5	3.5	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
21	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.8	7.8	3.4	回転糸切　反転復元
22	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.9	7.8	3.8	回転糸切　板状圧痕
23	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.8	8.2	4.2	回転糸切
24	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(7.5YR8/3)	にぶい黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	11.5	7.9	3.4	回転糸切
25	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.5	8.0	3.5	回転糸切　板状圧痕　内底ロクロ目
26	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.6	7.9	3.4	回転糸切　板状圧痕
27	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	12.9	8.1	3.6	回転糸切　圧痕　外指頭痕　内底ロクロ目
28	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.6	8.1	3.5	回転糸切　板状圧痕
29	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.4	8.0	2.9	回転糸切　板状圧痕　反転復元
30	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.0	7.9	3.7	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　内底ロクロ目
31	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.0	8.0	3.4	回転糸切　板状圧痕　反転復元
32	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	12.3	8.2	3.3	回転糸切
33	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.8	8.4	4.1	回転糸切　外指頭痕
34	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.7	8.4	3.5	回転糸切　薄い板状圧痕　薄く内底ロクロ目
35	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.0	8.1	3.2	回転糸切　板状圧痕　外一部指ナデ・指頭痕　薄く内底ロクロ目
36	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.2	8.4	3.6	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
37	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.7	8.6	4.1	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
38	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.8	8.7	3.8	回転糸切　板状圧痕　内底ロクロ目　内外面炭化物付着
39	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.6	8.6	3.6	回転糸切　板状圧痕　反転復元
40	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.5	7.5	4.6	回転糸切　板状圧痕　外一部指ナデ・指頭痕
41	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	13.3	8.3	3.4	回転糸切　板状圧痕
42	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	13.4	8.7	3.6	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　内鉄分付着　反転復元
43	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	10.1	8.0	3.7	回転糸切　板状圧痕　外一部指ナデ
44	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(2.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.0	7.7	3.9	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　反転復元
45	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	11.0	8.0	3.8	回転糸切　板状圧痕　内底横ナデ
46	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	11.6	8.4	3.7	回転糸切　板状圧痕
47	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	5mm以下の鉱物・砂粒	11.8	8.6	4.1	回転糸切　板状圧痕
48	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	5mm以下の鉱物・砂粒	11.8	8.5	3.5	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　反転復元
49	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.5	8.7	4.0	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　内薄く鉄分付着
50	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.1	8.3	3.5	回転糸切　板状圧痕　外一部指ナデ・指頭痕
51	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.5	8.6	3.4	回転糸切　板状圧痕　外一部指ナデ
52	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	11.8	8.8	3.4	回転糸切　板状圧痕　内炭化物付着　反転復元
53	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	11.9	8.8	3.8	回転糸切　板状圧痕　外一部指ナデ　反転復元
54	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	11.1	8.4	3.6	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
55	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	11.2	8.6	3.4	回転糸切　板状圧痕　外一部指ナデ・指頭痕
56	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	11.5	8.8	3.3	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
57	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	2mm以下の鉱物・砂粒	11.9	9.0	3.5	回転糸切　圧痕　外指頭痕　磨耗
58	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	ごく微小の鉱物・砂粒	11.2	8.8	3.7	ろくろ粗　回転糸切　板状圧痕
59	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.6	9.0	4.0	回転糸切　板状圧痕
60	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	11.7	9.2	3.8	回転糸切　板状圧痕

第4表　SB01内出土遺物観察表　土師器(1)

掲載番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
61	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	11.9	9.7	3.4	回転糸切　ナデ　板状圧痕　指頭痕　薄く内底ロクロ目
62	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	8mm以下の鉱物・砂粒	11.0	9.0	3.5	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
63	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	灰白(10YR8/2)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.8	9.0	3.4	回転糸切　圧痕　外指頭痕　反転復元
64	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.9	9.2	3.9	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
65	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.0	8.8	3.6	回転糸切　指頭痕　外指頭痕
66	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	5mm以下の鉱物・砂粒	12.3	9.0	3.7	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　反転復元
67	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.8	9.3	4.2	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
68	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	明黄褐(10YR7/6)	ごく微小の鉱物・砂粒	12.0	9.0	3.5	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　内底ロクロ目　内炭化物付着
69	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.7	9.1	3.3	回転糸切　板状圧痕　指頭痕
70	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.1	9.0	3.4	回転糸切　板状圧痕
71	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.3	9.2	3.9	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
72	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	12.1	9.1	3.7	回転糸切
73	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.2	9.0	3.2	回転糸切　板状圧痕　口縁部鉄分付着
74	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.1	9.1	2.9	回転糸切　ナデ
74	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.2	9.0	3.6	回転糸切　板状圧痕
76	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.2	9.1	3.2	回転糸切　板状圧痕　内スス付着と底横ナデ
77	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.0	9.2	3.7	回転糸切　圧痕　反転復元
78	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(10YR8/2)	3mm以下の鉱物・砂粒	12.3	9.4	3.4	回転糸切　板状圧痕
79	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.8	9.8	3.3	回転糸切　板状圧痕
80	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.0	9.4	3.0	回転糸切　圧痕
81	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	12.0	9.4	3.3	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
82	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.5	9.8	3.2	回転糸切　板状圧痕　指頭痕
83	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.6	9.8	4.0	回転糸切　外指頭痕
84	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR8/3)	にぶい黄橙(10YR8/2)	2mm以下の鉱物・砂粒	12.1	8.5	3.3	回転糸切　薄く板状圧痕　外指頭痕
85	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.0	9.8	3.2	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
86	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.5	8.8	3.3	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
87	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	－	6.5	－	ヘラ切　板状圧痕
88	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	－	7.6	－	回転糸切
89	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	5mm以下の鉱物・砂粒	－	8.6	－	回転糸切　板状圧痕　反転復元
90	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	－	8.7	－	回転糸切　外指頭痕
91	土師器	坏	SB01	－	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	－	8.7	－	回転糸切　板状圧痕　内底粘土貼付
92	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	2mm以下の鉱物・砂粒	－	8.8	－	回転糸切　ナデ　体部炭化物付着　反転復元
93	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR9/3)	にぶい黄橙(10YR9/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	－	9.6	－	回転糸切　薄く板状圧痕　外指頭痕
94	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.0	5.0	1.3	回転糸切
95	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.0	5.0	1.6	回転糸切　指頭痕
96	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.5	5.3	1.3	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　薄く内底ロクロ目
97	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.6	5.3	1.4	回転糸切　内指頭痕
98	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.8	5.6	1.7	回転糸切　指頭痕
99	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.9	5.7	1.5	回転糸切　指頭痕　内底ロクロ目
100	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.3	5.4	1.3	回転糸切　指頭痕　外一部指ナデ　内指頭痕
101	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.6	5.6	1.3	回転糸切　指頭痕　反転復元
102	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい褐(7.5YR6/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.7	5.6	1.4	回転糸切　指頭痕　外指頭痕

第5表　SB01内出土遺物観察表　土師器(2)

掲載番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
103	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.6	6.3	1.9	回転糸切　指頭痕　内底粘土貼付　反転復元
104	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	5.9	1.2	回転糸切
105	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	8.2	5.9	1.5	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
106	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.2	6.1	1.3	回転糸切　板状圧痕
107	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	6.8	5.7	1.3	回転糸切　磨耗
108	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	6.9	5.6	1.4	回転糸切
109	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	6.8	5.3	1.0	回転糸切　板状圧痕　内指頭痕
110	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.2	5.4	1.4	回転糸切
111	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.0	5.4	1.1	回転糸切　ナデ　反転復元
112	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	4mm以下の鉱物・砂粒	7.0	5.4	1.8	回転糸切　指頭痕　底部に穿孔　反転復元
113	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.3	5.6	1.4	回転糸切　指頭痕
114	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.4	5.7	1.2	回転糸切　指頭痕
115	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.4	5.6	1.3	回転糸切　板状圧痕
116	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.4	5.6	1.3	回転糸切　指頭痕　内指頭痕
117	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.8	6.0	1.3	回転糸切　指頭痕
118	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.2	5.3	1.5	回転糸切　反転復元
119	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.3	5.8	1.3	回転糸切　ナデ　磨耗
120	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.6	6.0	1.5	回転糸切　指頭痕
121	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.6	5.9	1.3	回転糸切
122	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.0	1.2	回転糸切　内底ロクロ目
123	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.0	1.3	回転糸切　薄く内底ロクロ目　内外炭化物・鉄分付着
124	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.1	1.4	回転糸切
125	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.1	1.6	回転糸切　板状圧痕
126	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	浅黄橙(10YR8/3)	4mm以下の鉱物・砂粒	7.2	5.8	1.4	回転糸切　指頭痕
127	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.2	5.8	1.0	回転糸切
128	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.4	6.0	1.6	回転糸切
129	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.5	6.0	1.2	回転糸切　ナデ
130	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.6	6.2	1.3	回転糸切　指頭痕
131	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.4	5.9	1.3	回転糸切　指頭痕　外指頭痕　内底ロクロ目
132	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.1	1.4	回転糸切　板状圧痕
133	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.2	1.6	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
134	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	3mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.2	1.2	回転糸切　圧痕　指頭痕　内底ロクロ目
135	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.2	1.5	回転糸切　磨耗
136	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.8	6.3	1.5	回転糸切　板状圧痕
137	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.8	6.3	1.3	回転糸切　指頭痕　内底粘土貼付
138	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.8	6.3	1.3	回転糸切　指頭痕
139	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.8	6.3	1.6	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　薄く内底ロクロ目
140	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.8	6.3	1.5	回転糸切　指頭痕
141	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.9	6.3	1.6	回転糸切　内指頭痕
142	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.9	6.3	1.7	回転糸切　外指頭痕　内底ロクロ目
143	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.3	6.0	1.3	回転糸切　板状圧痕
144	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.5	6.2	1.6	回転糸切　内指頭痕

第6表　SB01内出土遺物観察表　土師器(3)

掲載番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
145	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.5	6.2	1.5	回転糸切
146	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.5	6.2	1.4	回転糸切　指頭痕
147	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR6/2)	にぶい黄橙(10YR6/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.2	1.4	回転糸切　指頭痕　指ナデ
148	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.2	1.4	回転糸切
149	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.8	6.4	1.6	回転糸切　外指頭痕
150	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.8	6.5	1.3	回転糸切
151	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.9	6.5	1.4	回転糸切　指頭痕　内底ロクロ目
152	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.9	6.5	1.4	回転糸切　板状圧痕　内底粘土貼付
153	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.9	6.5	1.2	回転糸切　ナデ　内底ロクロ目
154	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.4	1.5	回転糸切
155	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.4	1.5	回転糸切　ナデ　外指頭痕
156	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.1	5.9	1.4	回転糸切　圧痕　外指頭痕
157	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.2	6.1	1.2	回転糸切　板状圧痕　内底ロクロ目
158	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.4	6.2	1.3	回転糸切　指頭痕　薄く内底ロクロ目
159	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.5	6.3	1.4	回転糸切　指頭痕
160	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.5	1.2	回転糸切　指頭痕
161	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.5	6.4	1.6	回転糸切　指頭痕　薄く内底ロクロ目
162	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.5	1.5	回転糸切　指頭痕　一部横ナデ　薄く内底ロクロ目
163	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.5	6.3	1.3	回転糸切　指頭痕
164	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.8	6.6	1.3	回転糸切　板状圧痕　薄く内底ロクロ目
165	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.1	6.2	1.3	回転糸切　圧痕
166	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.0	6.2	1.4	回転糸切　指頭痕　内底ロクロ目
167	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.0	6.4	1.2	回転糸切　指頭痕　外指頭痕　薄く内底ロクロ目
168	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.2	1.5	回転糸切　圧痕　指頭痕
169	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.4	1.5	回転糸切　板状圧痕　指頭痕
170	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.1	6.4	1.5	回転糸切　内底ロクロ目
171	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	5mm以下の鉱物・砂粒	8.2	6.5	1.7	回転糸切　板状圧痕
172	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.2	6.4	1.5	回転糸切　板状圧痕
173	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.4	6.6	1.5	回転糸切　薄く内底ロクロ目
174	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.5	6.7	1.7	回転糸切　反転復元
175	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.5	6.6	1.5	回転糸切　圧痕
176	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.1	6.5	1.6	回転糸切　指頭痕
177	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.1	6.5	1.3	回転糸切
178	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.1	6.4	1.5	回転糸切　内底ロクロ目
179	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.5	1.5	回転糸切　圧痕　内底ロクロ目
180	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.5	1.3	回転糸切　内底ロクロ目
181	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.2	6.6	2.5	回転糸切　板状圧痕
182	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.3	6.6	1.6	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　内ロクロ目
183	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.4	6.7	1.3	回転糸切　板状圧痕
184	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.4	6.8	1.3	回転糸切　板状圧痕　内底ロクロ目
185	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	3mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.4	1.2	回転糸切　板状圧痕
186	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒　軽石	8.5	6.9	1.6	回転糸切　板状圧痕

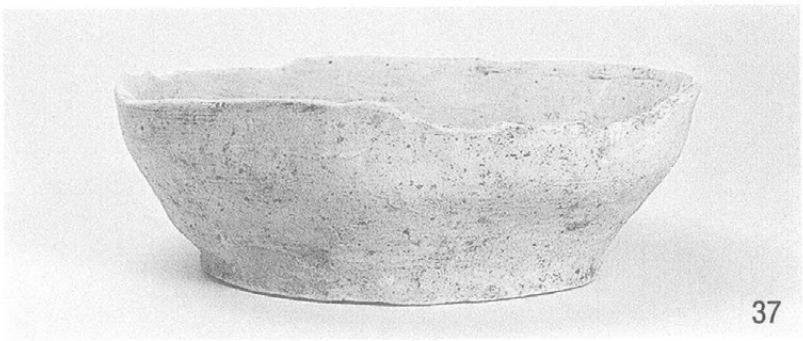
第７表　SB01 内出土遺物観察表　土師器(4)

掲載番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
187	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.6	1.3	回転糸切　板状圧痕　反転復元
188	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.6	1.2	回転糸切　ナデ　反転復元
189	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.2	6.7	1.4	回転糸切　指頭痕
190	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.5	1.4	回転糸切　圧痕　指頭痕
191	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.6	1.4	回転糸切　板状圧痕　指頭痕
192	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.1	6.7	1.3	回転糸切
193	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.2	6.8	1.4	回転糸切　板状圧痕　指頭痕　内工具ナデとロクロ目
194	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.6	1.4	回転糸切　薄く板状圧痕　薄く内底ロクロ目
195	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.2	6.8	1.6	回転糸切　反転復元
196	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.2	6.8	1.6	回転糸切　板状圧痕　薄く内底ロクロ目
197	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.3	6.9	1.3	回転糸切　板状圧痕　薄く内底ロクロ目
198	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.3	6.8	1.4	回転糸切　指頭痕　内底粘土貼付
199	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.3	6.9	1.5	回転糸切　圧痕　薄く内底ロクロ目
200	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.5	7.0	1.4	回転糸切　外指頭痕　内底ロクロ目
201	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.5	7.0	1.4	回転糸切　板状圧痕
202	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	5mm以下の鉱物・砂粒	8.5	7.1	1.3	回転糸切　薄く板状圧痕　外指頭痕　薄く内底ロクロ目
203	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.7	7.1	1.0	回転糸切　板状圧痕　指頭痕　反転復元
204	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.7	1.5	回転糸切　板状圧痕　薄く内底ロクロ目
205	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.7	1.5	回転糸切　指頭痕
206	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	橙(10YR7/4)	橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.7	1.7	回転糸切　板状圧痕
207	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.3	7.0	1.8	回転糸切　反転復元
208	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.1	1.4	回転糸切　指頭痕　内底ロクロ目　内外薄く鉄分付着
209	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.1	6.3	1.5	回転糸切　内外指頭痕
210	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.2	6.2	1.4	回転糸切　内底ロクロ目
211	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.2	6.2	1.5	回転糸切
212	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.4	7.1	1.3	回転糸切
213	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.1	6.9	1.3	回転糸切　板状圧痕
214	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.2	7.0	1.4	回転糸切　板状圧痕
215	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.3	7.1	1.4	回転糸切　薄く内底ロクロ目
216	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	6.8	5.9	1.4	回転糸切　指頭痕
217	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	2mm以下の鉱物・砂粒	6.6	6.0	1.1	回転糸切　板状圧痕　ナデ　磨耗
218	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.6	1.4	回転糸切　板状圧痕
219	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	橙(7.5YR7/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.6	1.5	回転糸切　板状圧痕　内炭化物付着
220	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.0	6.2	1.5	回転糸切　指頭痕
221	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.1	6.3	1.3	回転糸切
222	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.8	6.9	1.5	回転糸切　板状圧痕　内底ロクロ目
223	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.9	7.0	1.3	回転糸切　圧痕　薄く内底ロクロ目
224	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.9	7.0	1.3	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　薄く内底ロクロ目
225	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.2	6.2	1.2	回転糸切　反転復元
226	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.3	6.3	1.5	回転糸切　ナデ
227	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.6	1.8	回転糸切
228	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.5	6.5	1.6	回転糸切　指頭痕

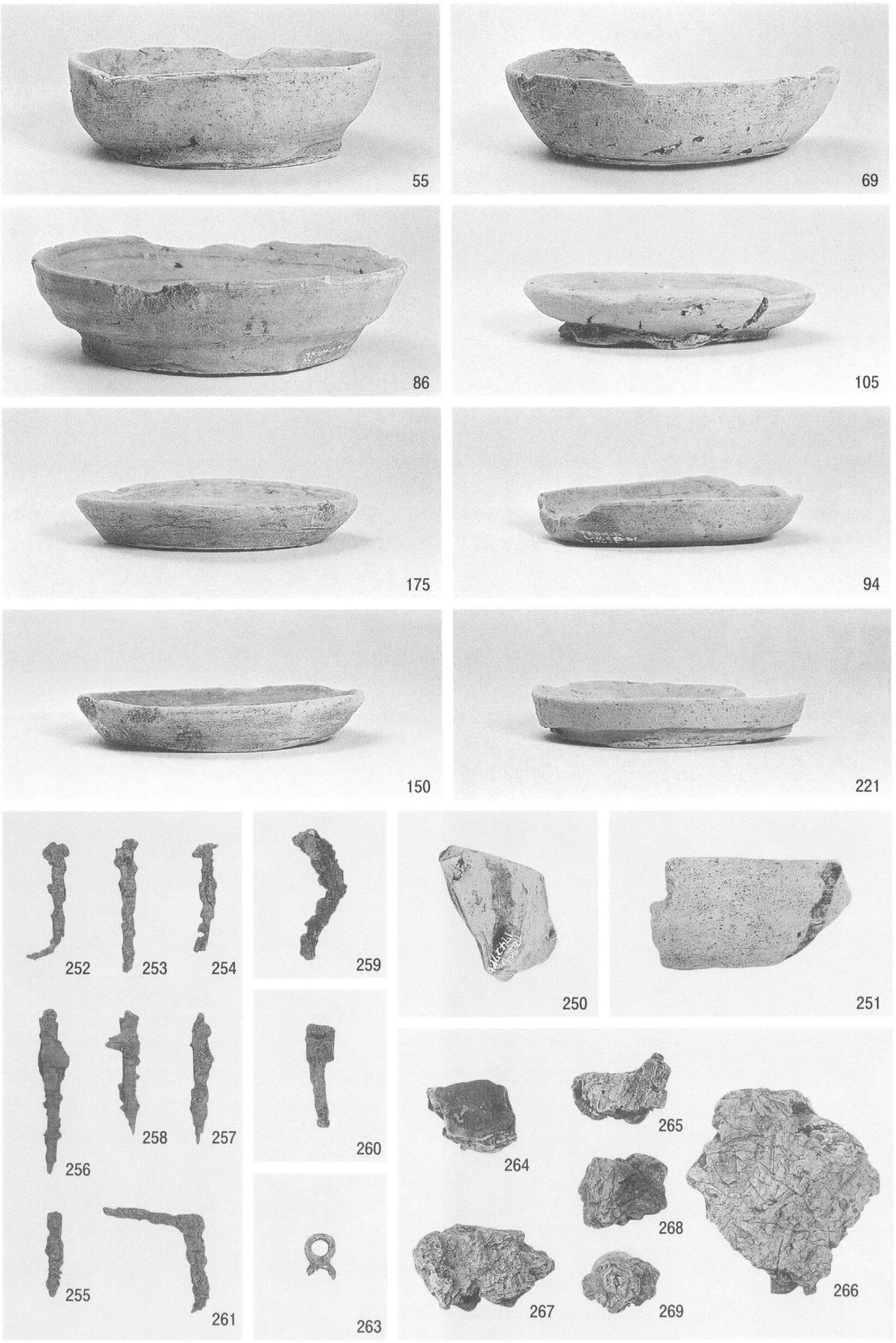
第8表　SB01内出土遺物観察表　土師器(5)

掲載番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
229	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.4	6.5	1.4	回転糸切　内外炭化物・鉄分付着
230	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.8	7.5	1.3	回転糸切　内底粘土貼付　反転復元
231	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.1	7.0	1.5	回転糸切　板状圧痕　指頭痕
232	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	7.0	1.7	回転糸切　板状圧痕
233	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.2	7.1	1.4	回転糸切　板状圧痕　内底ロクロ目
234	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.2	7.1	1.5	回転糸切　板状圧痕　薄く内底ロクロ目
235	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.3	7.2	1.2	回転糸切　板状圧痕
236	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	7.0	1.2	回転糸切　板状圧痕
237	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.1	7.2	1.5	回転糸切　外指頭痕　内底ロクロ目
238	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	7.2	1.2	回転糸切　板状圧痕
239	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	8.3	7.3	1.4	回転糸切　板状圧痕　指頭痕
240	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.0	7.1	1.2	回転糸切　指頭痕　薄く内底ロクロ目
241	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.2	7.2	1.4	回転糸切　薄く内底ロクロ目
242	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	灰黄褐(10YR7/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.8	7.8	1.5	回転糸切　指頭痕
243	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.9	1.6	回転糸切　薄く板状圧痕　一部ナデ　外一部指ナデ　内指頭痕
244	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.4	7.7	1.6	回転糸切
245	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.3	7.8	1.3	回転糸切　板状圧痕　内底ロクロ目　反転復元
246	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR7/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.9	1.3	回転糸切　板状圧痕
247	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.2	7.8	1.3	回転糸切　板状圧痕
248	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.6	6.0	2.2	回転糸切　内底ロクロ目　内外炭化物付着　反転復元
249	土師器	小皿	SB01	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.4	6.6	2.5	回転糸切　指頭痕　外指頭痕
250	土師器	坏	SB01	－	－	灰白(2.5YR8/1)	灰白(2.5YR8/1)	ごく微小の鉱物・砂粒	－	－	－	墨書
251	土師器	坏	SB01	回転ナデ	回転ナデ	灰白(7.5YR8/2)	灰白(7.5YR8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	13.5	－	－	外墨書　反転復元
252	鉄製品	釘	SB01	－	－	－	－	－	5.0	0.6	0.5	7.2g
253	鉄製品	釘	SB01	－	－	－	－	－	7.5	0.5	0.5	9.3g
254	鉄製品	釘	SB01	－	－	－	－	－	6.2	0.5	0.4	7.1g　木質付着
255	鉄製品	釘	SB01	－	－	－	－	－	7.5	1.0	0.4	7.4g　先端部の曲がり
256	鉄製品	釘	SB01	－	－	－	－	－	9.2	0.6	0.3	17.2g　頭部欠損
257	鉄製品	釘	SB01	－	－	－	－	－	7.5	0.5	0.4	10.3g　頭部欠損
258	鉄製品	釘	SB01	－	－	－	－	－	6.9	0.7	0.5	11.1g　頭部欠損
259	鉄製品	釘	SB01	－	－	－	－	－	3.7	0.4	0.3	2.8g　両端欠損
260	鉄製品	?	SB01	－	－	－	－	－	3.4	0.9	0.6	1.6g　先端部欠損
261	鉄製品	鎹?	SB01	－	－	－	－	－	10.0	0.7	0.5	15.9g　両端欠損
262	鉄製品	?	SB01	－	－	－	－	－	4.6	2.0	0.2	8.6g　上下欠損
263	銅製品	?	SB01	－	－	－	－	－	1.4	0.9	0.5	0.6g　欠損
264	建築部材	壁土	SB01	上塗・漆喰	圧痕(柱?)	褐灰(10YR5/1)	灰白(10YR8/1)	植物繊維　2mm以下の鉱物・砂粒　小石	－	－	－	
265	建築部材	壁土	SB01	－	木舞痕	－	灰白(10YR8/1)	植物繊維　2mm以下の鉱物・砂粒　小石	－	－	－	
266	建築部材	壁土	SB01	中塗?	木舞痕	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/6)	植物繊維　5mm以下の鉱物・砂粒　軽石	－	－	－	二次被熱?
267	建築部材	壁土	SB01	中塗?	木舞痕	－	にぶい橙(5YR7/3)	植物繊維　4mm以下の鉱物・砂粒	－	－	－	二次被熱?
268	建築部材	壁土	SB01	一部漆喰	木舞痕	橙(5YR7/6)	にぶい橙(5YR7/3)	植物繊維　1mm以下の鉱物・砂粒　小石	－	－	－	二次被熱?
269	建築部材	壁土	SB01	－	木舞痕	－	にぶい橙(5YR7/4)	植物繊維　1mm以下の鉱物・砂粒	－	－	－	二次被熱?

第9表　SB01内出土遺物観察表　土師器(6)・鉄製品・銅製品・建築部材

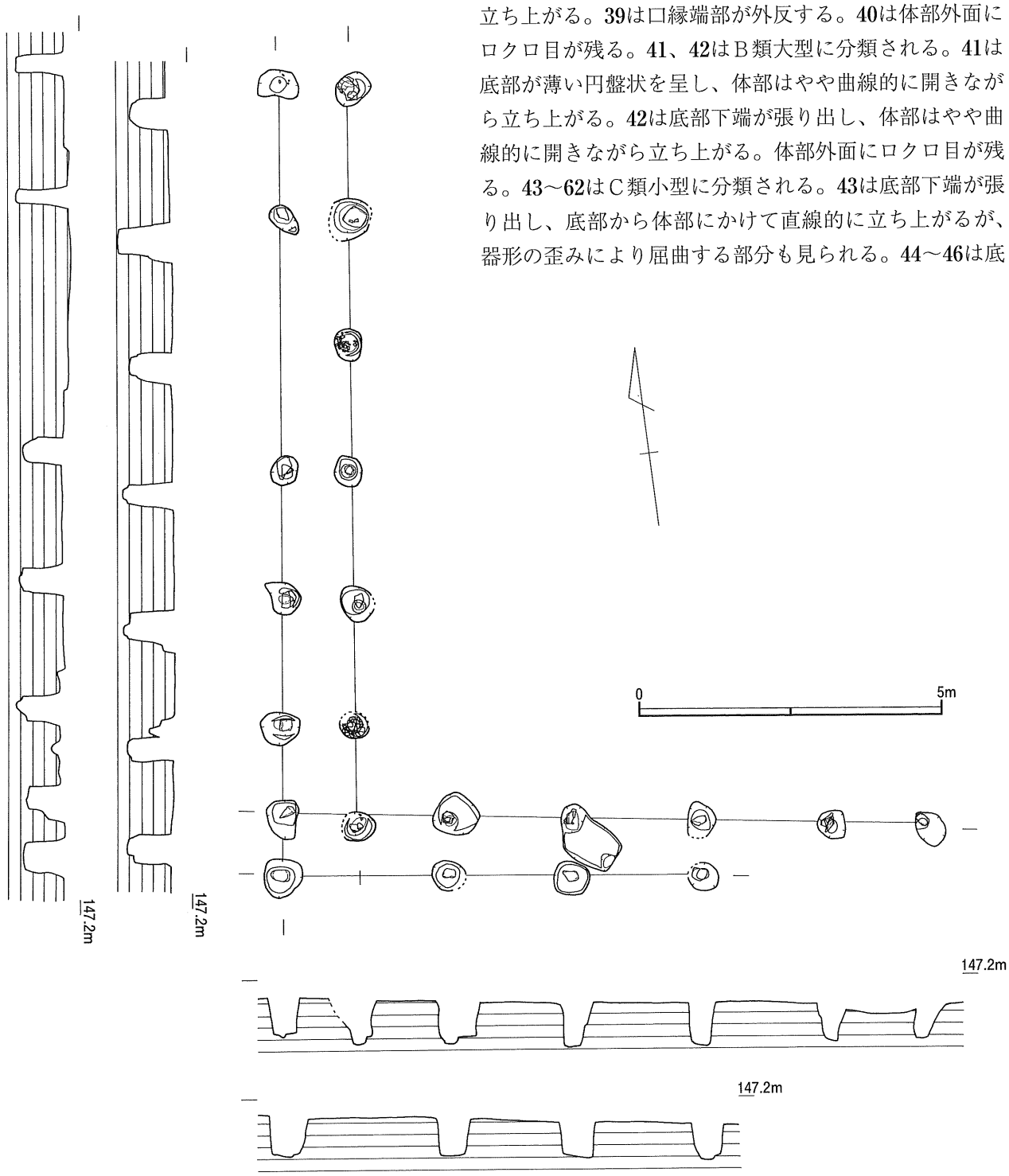


図版10　SB01 内出土遺物写真　土師器



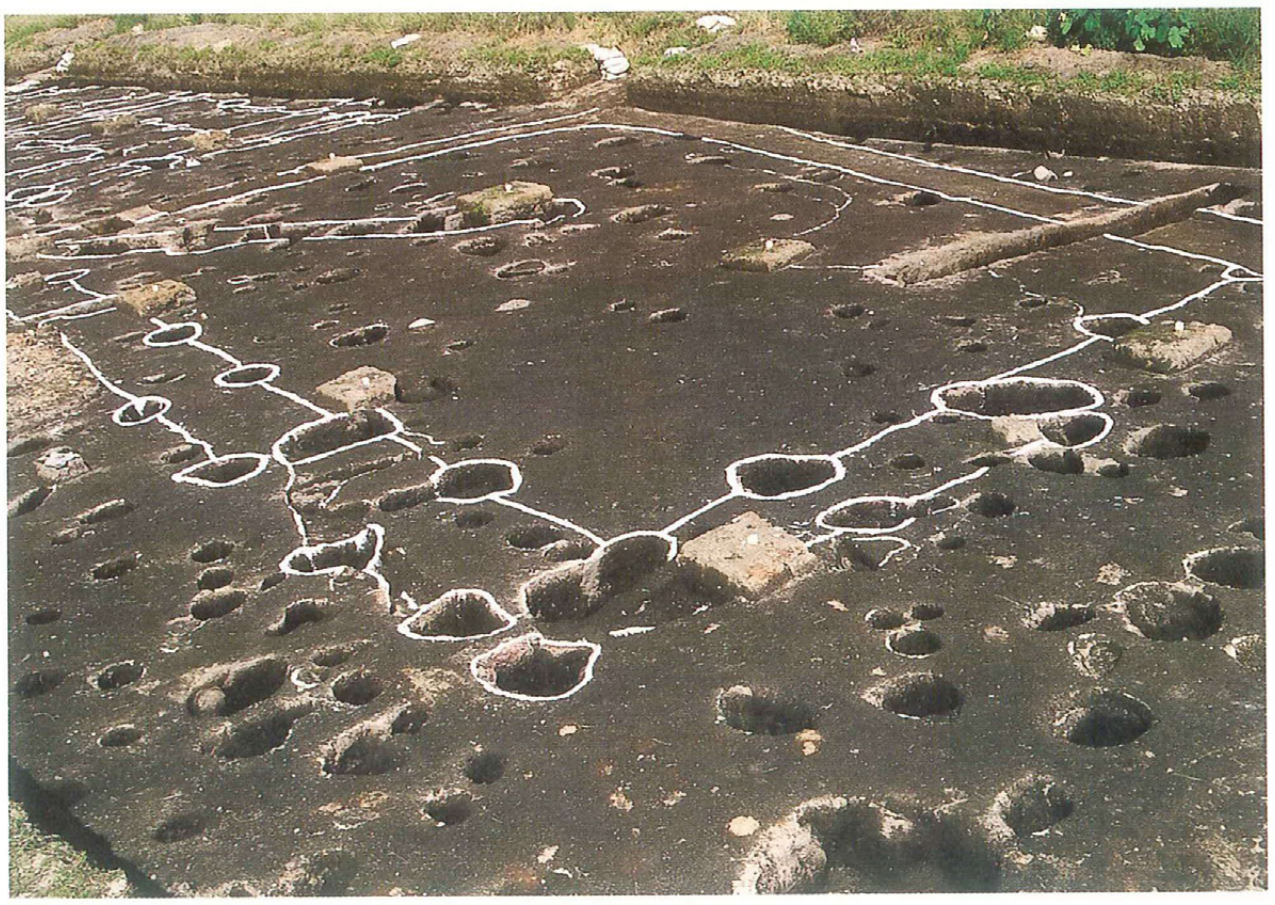
図版11　SB01 内出土遺物写真　土師器・鉄製品・銅製品・建築部材

24は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。25は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。外面にはロクロ目が残る。26～40はＢ類中型に分類される。26～28は底部が薄い円盤状を呈し、体部はやや曲線的に開きながら立ち上がる。27は体部外面に明瞭なロクロ目が残り、焼成が堅緻である。29は器高が2.9cmとやや低く、底部と体部との境は不明瞭で、底面から引続いて緩やかに体部へと移行する。体部は直線的に立ち上る。30～32は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。33は器高が4.1cmと高い。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。34は底部下端が大きく張り出し、底部は薄い円盤状を呈する。体部はやや曲線的に開きながら立ち上がる。35は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。外面にはロクロ目が残る。36は底部下端が張り出し、低部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。外面下半には幅の狭いロクロ目が残る。37～40は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。39は口縁端部が外反する。40は体部外面にロクロ目が残る。41、42はＢ類大型に分類される。41は底部が薄い円盤状を呈し、体部はやや曲線的に開きながら立ち上がる。42は底部下端が張り出し、体部はやや曲線的に開きながら立ち上がる。体部外面にロクロ目が残る。43～62はＣ類小型に分類される。43は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、器形の歪みにより屈曲する部分も見られる。44～46は底



第19図　SB02 実測図

SB02　完掘状況（南西から）



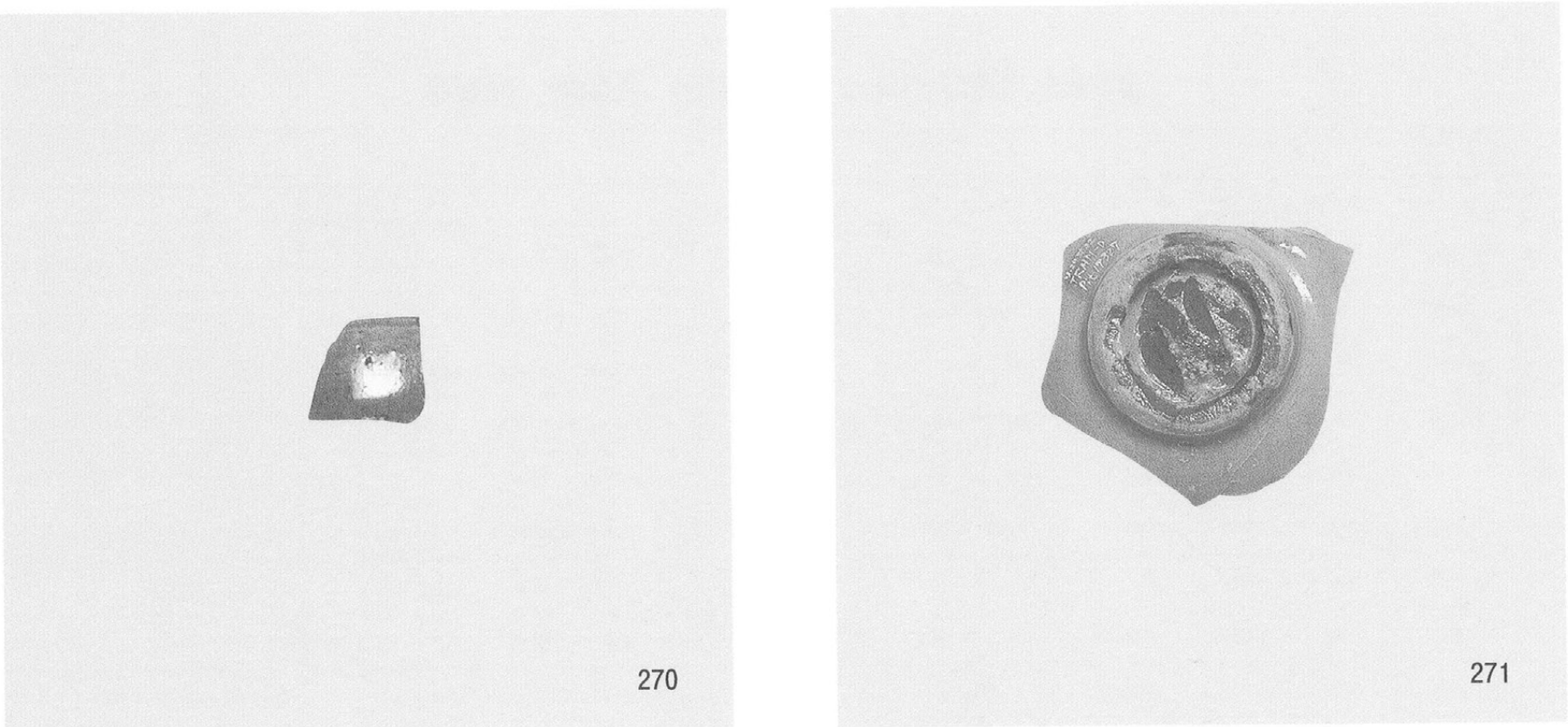
SB02　完掘状況（南から）

図版12　SB02 写真

第20図　SB02 内出土遺物実測図　陶磁器

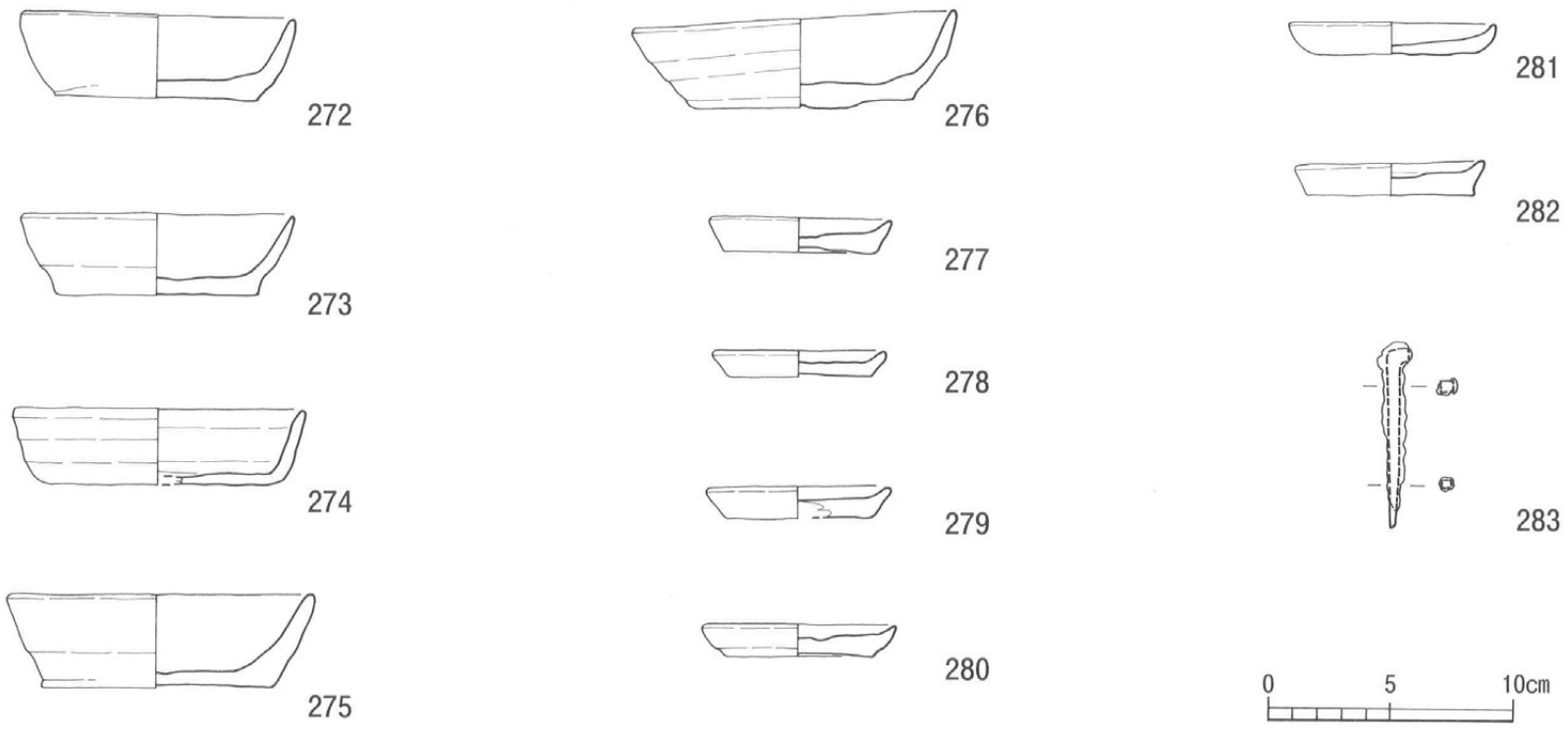
掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
270	青磁	碗	SB02	施釉	施釉	灰白色	－	－	－	同安窯系碗I－1類
271	青磁	小碗	SB02	施釉	施釉	灰白色	－	4.2	－	龍泉窯系碗I－1類

第10表　SB02 内出土遺物観察表　陶磁器



図版13　SB02 内出土遺物写真　陶磁器

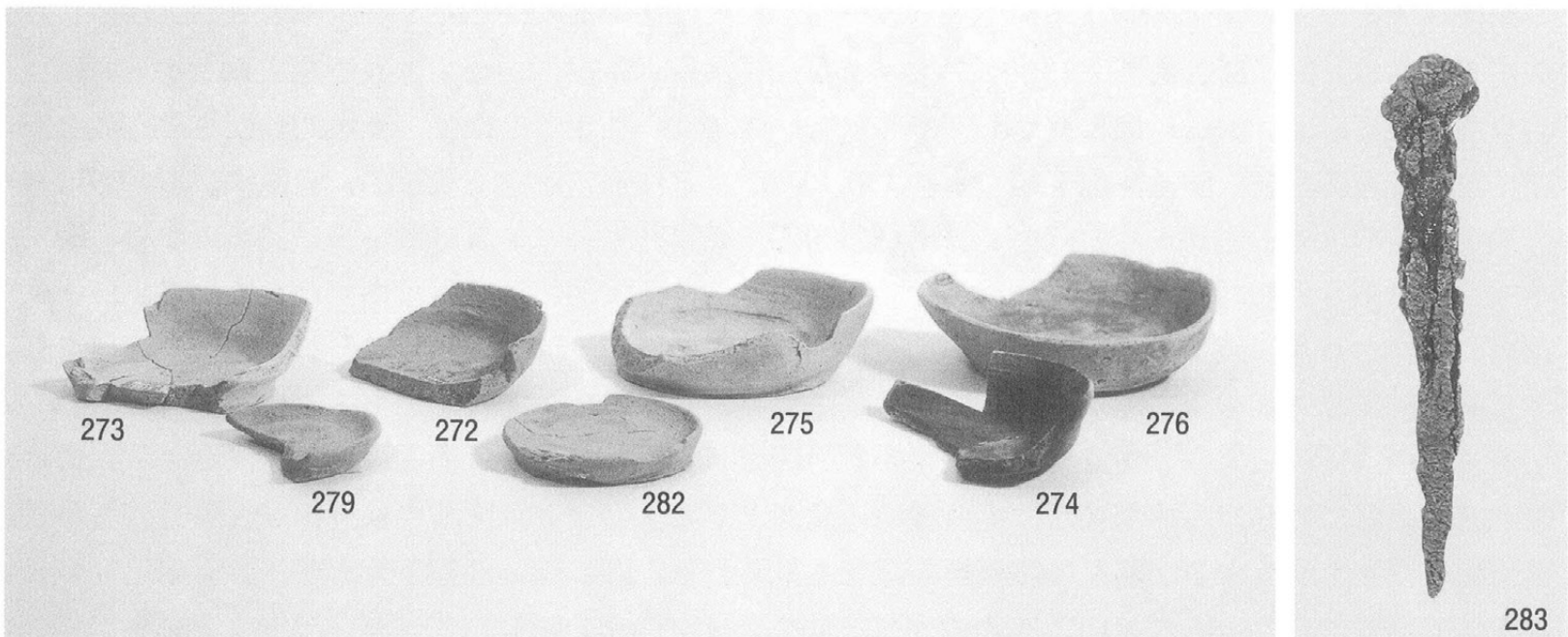
部下端が張り出し、底部から体部にかけて44、46は曲線的、45は直線的に立ち上がる。45、46は体部外面にロクロ目が残る。47は底部下端が若干張り出し、体部は一旦屈曲した後、直線的に立ち上がる。48は底部が薄い円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。49は底部が厚く、底部から体部にかけてやや開きながら立ち上がり、口縁部は大きく外反する。50は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。体部に接合痕が見られる。51、52は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。52は外面にロクロ目が残る。53、54は底部下端がやや張り出し、体部は一旦屈曲した後、直線的に立ち上がる。54は焼成がやや堅緻である。55、56は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。57は底部と体部との境は不明瞭で、底面から引続いて緩やかに体部へと移行する。体部は曲線的に立ち上がる。58～62は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて58、60～62は曲線的、59は直線的に立ち上がる。58、60～62は体部外面にロクロ目が残る。63～86はC類中型に分類される。63～67は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。66は体部外面に明瞭なロクロ目が残る。68は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。69は底部が薄い円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。70は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。71は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、一部には曲線的な部分も見られる。72、73は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。73は体部外面にロクロ目が残る。74は底部が薄い円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。75～77は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。75は底部下端



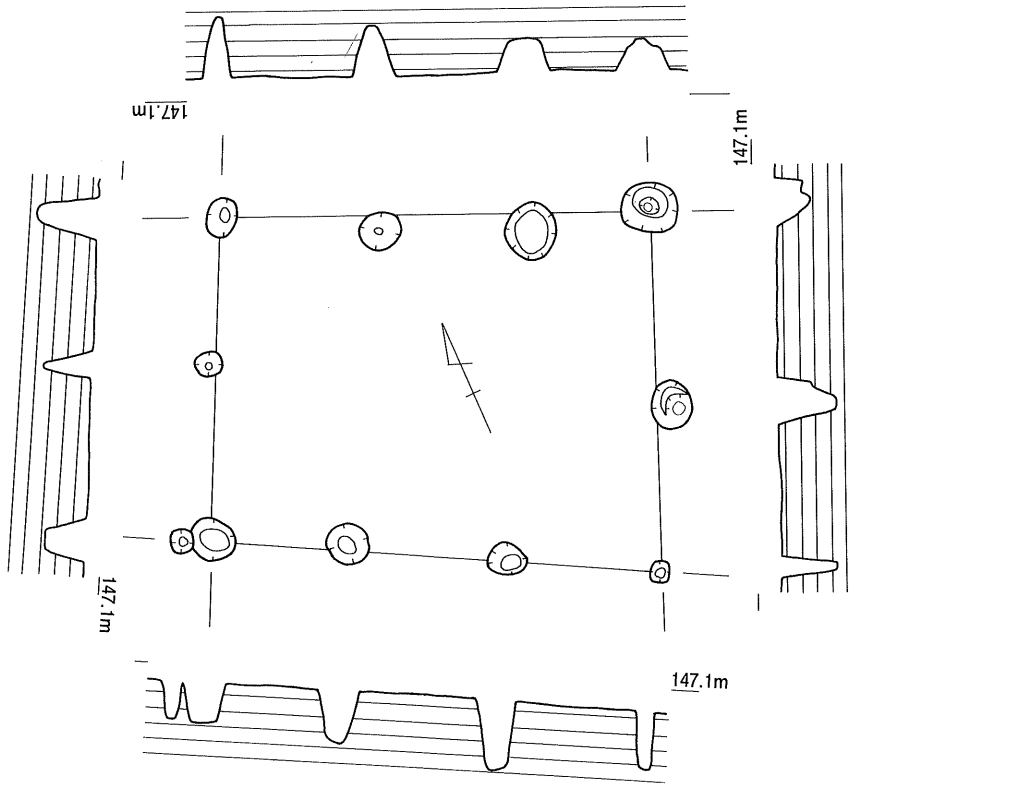
第21図　SB02 内出土遺物実測図　土師器・鉄製品

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
272	土師器	坏	SB02	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	11.2	8.2	3.4	回転糸切　板状圧痕　反転復元
273	土師器	坏	SB02	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	11.2	8.4	3.3	回転糸切　内底ロクロ目　反転復元
274	土師器	坏	SB02	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白(10Y8/2)	灰白(10Y8/2)	ごく微小の鉱物・砂粒	11.9	9.6	3.1	回転糸切　板状圧痕　内ロクロ目 内外炭化物付着　反転復元
275	土師器	坏	SB02	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	12.5	9.4	3.8	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕 内底ロクロ目
276	土師器	坏	SB02	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	13.0	9.2	3.4	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕 内底ロクロ目
277	土師器	小皿	SB02	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.5	6.2	1.5	回転糸切　指頭痕　内底ロクロ目
278	土師器	小皿	SB02	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.2	6.0	1.1	回転糸切　指頭痕
279	土師器	小皿	SB02	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	2㎜以下の鉱物・砂粒	7.6	6.0	1.3	回転糸切
280	土師器	小皿	SB02	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	4㎜以下の鉱物・砂粒	8.0	6.3	1.3	回転糸切　内底ロクロ目
281	土師器	小皿	SB02	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.5	6.9	1.3	回転糸切　板状圧痕
282	土師器	小皿	SB02	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.7	6.8	1.4	回転糸切　指頭痕
283	鉄製品	釘	SB02	－	－	－	－	－	7.1	0.5	0.5	8.9g

第11表　SB02 内出土遺物観察表　土師器・鉄製品



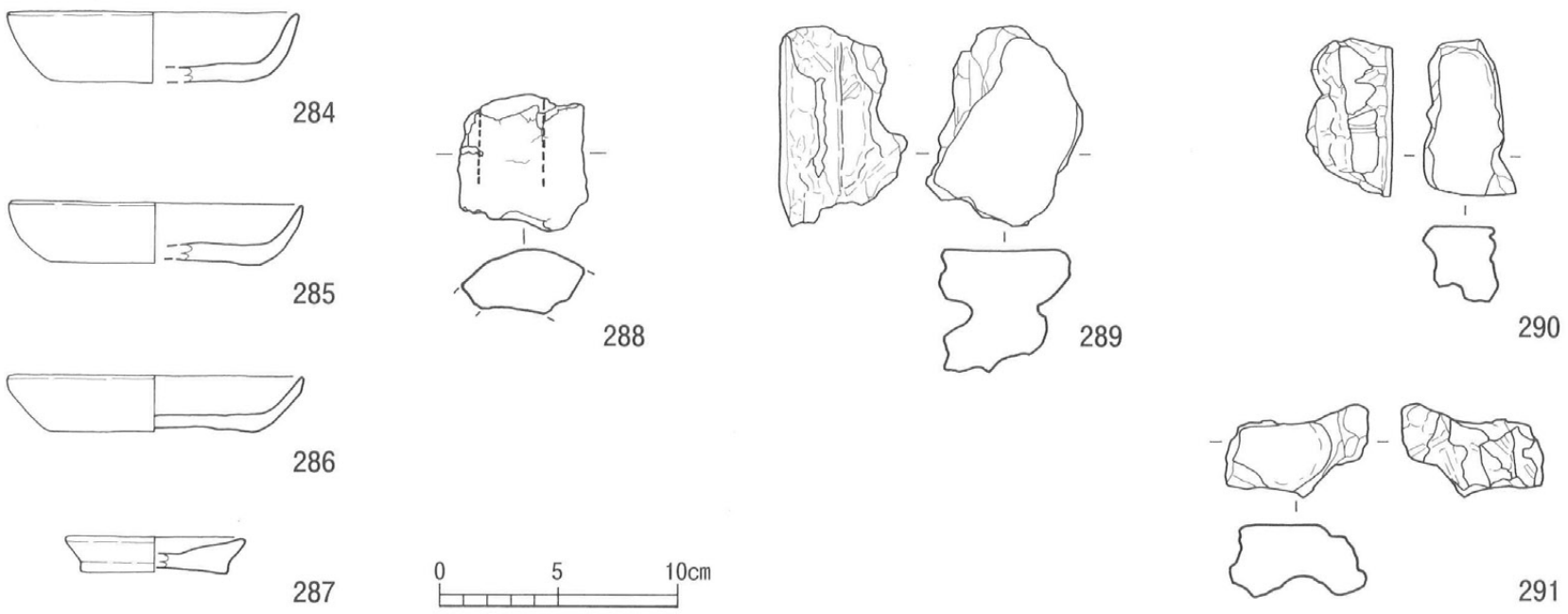
図版14　SB02 内出土遺物写真　土師器・鉄製品



第22図　SB03 実測図

の張り出しが小さく、体部外面にはロクロ目が残る。78は底部と体部との境は不明瞭で、底面から引続いて緩やかに体部へと移行するが、底部下端が張り出す部分も見られる。体部はやや曲線的に立ち上がる。焼成は堅緻である。79～82は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。79、80は底部下端の張り出しがごく小さい。81、82は体部外面にロクロ目が残る。83は器高が4.0cmとやや高く、底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。84、85は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。体部外面にロクロ目が残る。84は全体的に器壁が厚い。86は底部下端が張り出す。底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がるが、一部には屈曲も見られる。体部外面にはロクロ目が残る。87～93は底部～体部片である。いずれも底部下端がやや張り出す。87は回転糸切ヘラ切離しである。89、91は底部が円盤状を呈する。89は体部が曲線的に立ち上がる。

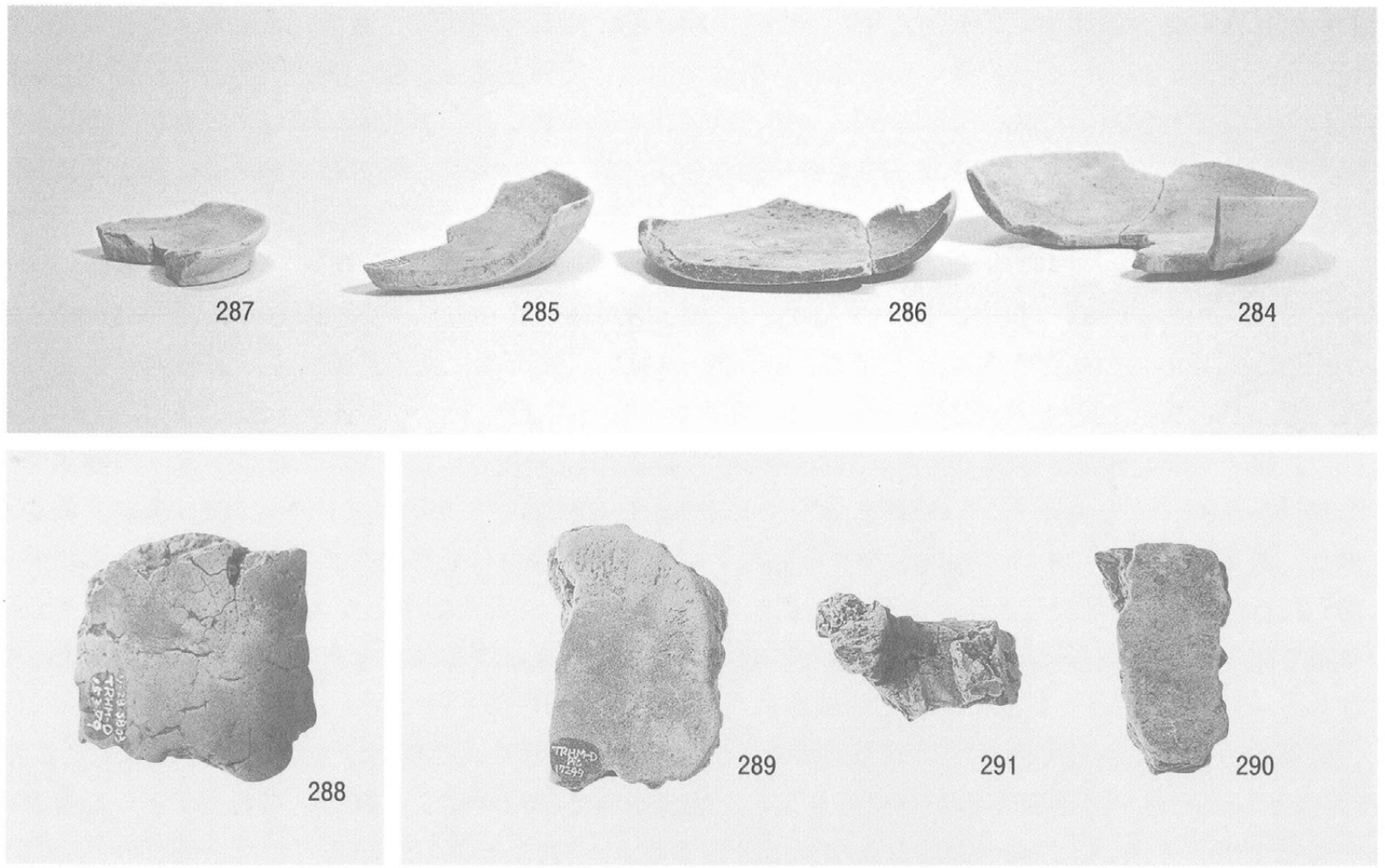
94～249は小皿である。94～102はＡ類中型に分類される。94は底部が薄い円盤状を呈する。体部は曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。95～102は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。99以外は口縁部を薄く仕上げる。97、98、100は底部下端に糸痕跡が残る。97は底部中央に亀裂が見られる。95、98、100～102は底部が厚く、口縁部から底部内面までがやや浅い。99は底部内面中央が大きく凹む。96、100は焼成が堅緻である。103～106はＡ類大型に分類される。103は底部が薄い円盤状を呈する。体部は曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面中央が大きく凹む。104は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて外反しながら立ち上がる。口縁部から底部内面までが浅く、焼成は堅緻である。105は底部が薄い円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。106は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。焼成はやや堅緻である。107～109はＢ類小型に分類される。107は底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。108は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部の器壁が厚く、口縁部から底部内面までがごく浅い。109は器高が1.0cmと低い。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部から底部内面までがごく浅い。110～164はＢ類中型に分類される。110は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて外反しながら立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面が大きく凹む。111は底部下端にナデ調整を



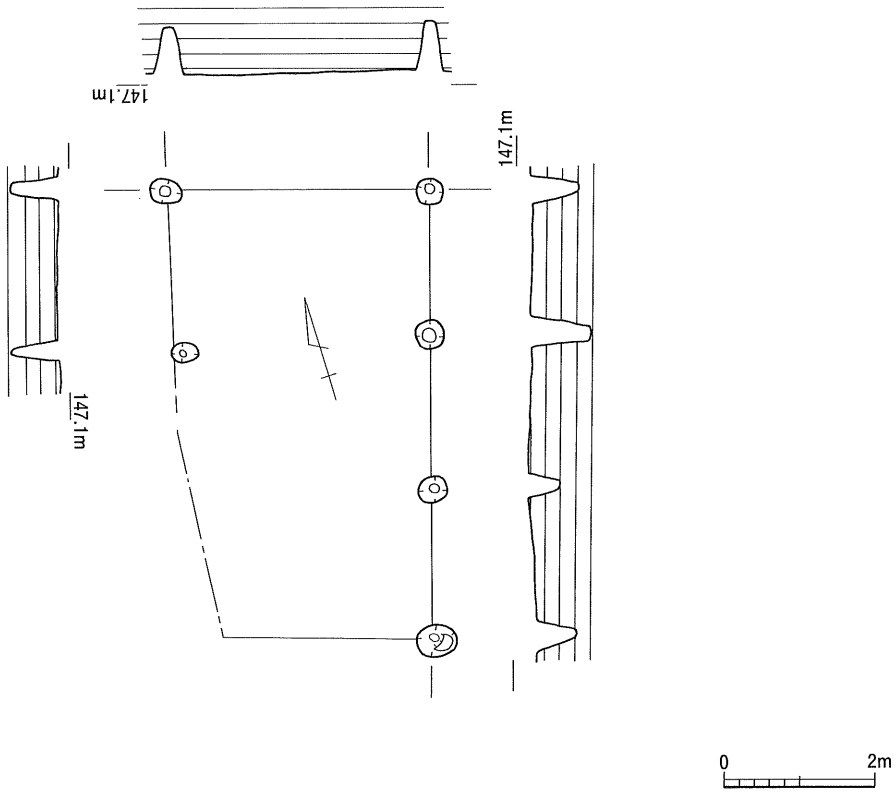
第23図　SB03 内出土遺物実測図　土師器・鍛冶関連製品・建築部材

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
284	土師器	坏	SB03	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	ごく微小の鉱物・砂粒	12.3	8.5	3.0	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
285	土師器	坏	SB03	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	橙(5YR7/6)	橙(2.5YR7/6)	ごく微小の鉱物・砂粒	12.4	8.6	2.5	回転糸切　板状圧痕
286	土師器	坏	SB03	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白(10YR7/1)	灰白(10YR8/2)	ごく微小の鉱物・砂粒	12.4	8.5	2.4	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
287	土師器	小皿	SB03	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.6	6.3	1.5	回転糸切　指頭痕
288	鍛冶関連	羽口	SB03	－	－	－	－	1mm以下の鉱物・砂粒	－	－	－	
289	建築部材	壁土	SB03	上塗	木舞痕	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(10YR8/2)	植物繊維　2mm以下の鉱物・砂粒	－	－	－	
290	建築部材	壁土	SB03	上塗	木舞痕	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(10YR8/1)	植物繊維　2mm以下の鉱物・砂粒	－	－	－	
291	建築部材	壁土	SB03	上塗	木舞痕	浅黄橙(10YR8/4)	灰白(10YR8/1)	植物繊維　2mm以下の鉱物・砂粒	－	－	－	

第12表　SB03 内出土遺物観察表　土師器・鍛冶関連製品・建築部材



図版15　SB03 内出土遺物写真　土師器・鍛冶関連製品・建築部材



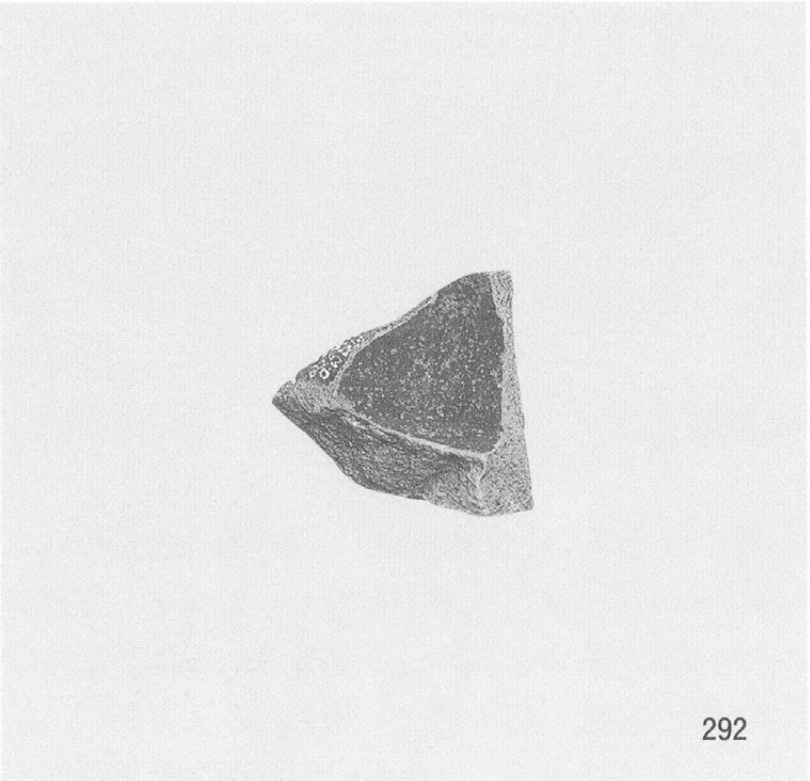
第24図　SB04 実測図

施す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。112は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部に穿孔を行う。113は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。114は口縁部を薄く仕上げ、焼成は堅緻である。115～117は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。116は口縁部を薄く仕上げる。底部の器壁が厚く、口縁部から底部内面までがごく浅い。118は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて外反しながら立ち上がる。119、120は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。121は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。122、123は底部が薄い円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。122は口縁部から底部内面までがやや浅く、焼成は堅緻である。124、125は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。126は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。底部内面が大きく凹む。焼成は堅緻である。127は底部下端がやや張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて外反しながら立ち上がり、口縁部をやや薄く仕上げる。口縁部から底部内面までがごく浅い。128～131は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。129は底部内面を平坦に調整する。130、131は口縁部を薄く仕上げる。132は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。133は底部下端が張り出す。底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。134は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて外反気味に立ち上がる。135～137は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。135は底部下端の張り出しがやや小さい。138は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。139は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。140、141は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。140は口縁部を薄く仕上げ、底部内面中央が大きく凹む。141は口縁端部が外反する。142は底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて外反しながら立ち上がる。143、144は底部下端がやや張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。145は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。146は底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。147は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。148は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。149は底部下端が張り

第25図　SB04 内出土遺物実測図　陶磁器

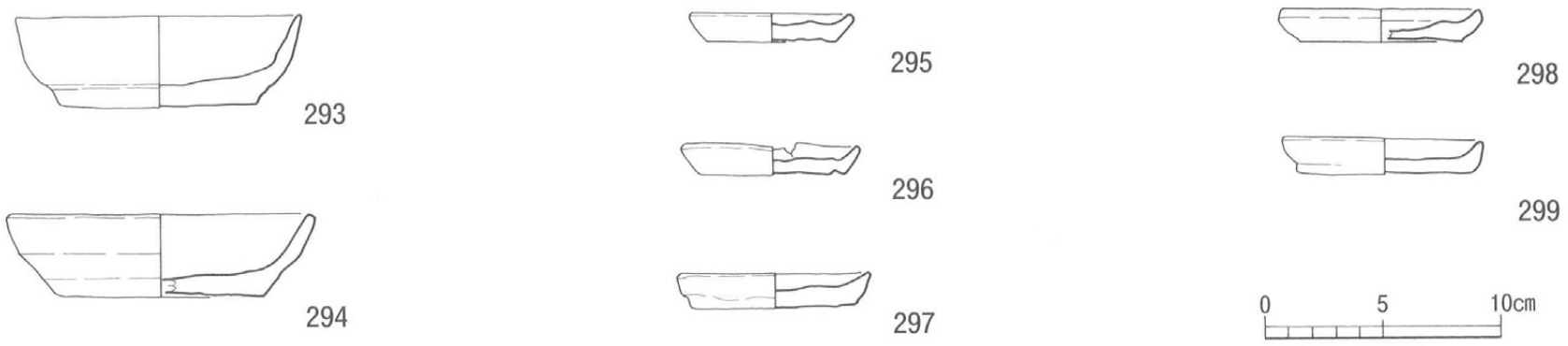
掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
292	瓦質土器	火鉢？	SB04	ナデ	ナデ	灰黄色	－	－	－	外面やや摩耗

第13表　SB04 内出土遺物観察表　陶磁器



図版16　SB04 内出土遺物写真　陶磁器

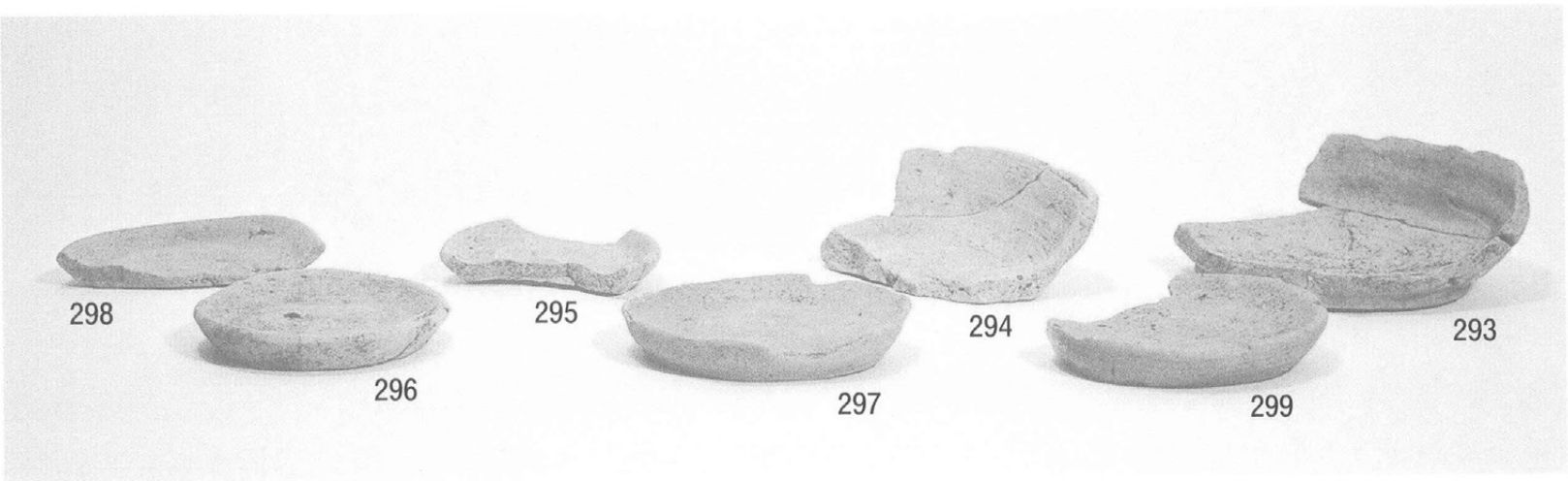
出し、工具による切れ目が一周する。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部の器壁が厚く、内面を平坦に調整する。口縁部から底部内面までがごく浅い。**150**は底部下端に糸痕跡が残る。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。**151**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**152**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。底部中央に粘土の充填が見られる。充填土に糸切離しの痕跡がなく、板状圧痕のみが残る点より、切離し後に充填されたものと考えられる。焼成は堅緻である。**153**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**154**は底部下端が張り出す。器形の歪みが酷く、底部から体部にかけて外反しながら立ち上がる部分、段差が形成される部分と様々である。口縁部を薄く仕上げる。**155**は底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。**156**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**157**、**158**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。**157**は底部内面が大きく凹む。**158**は口唇部の一部を平坦に仕上げる。**159**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。口縁部から底部内面までが浅く、焼成は堅緻である。**160**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。底部中央には亀裂が貫通している。**161**は底部下端が大きく張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**162**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。内面における底部と体部との境はやや不明瞭で、中央が大きく凹む。**163**は底部下端が大きく張り出し、糸痕跡が残る、底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面中央が大きく凹む。焼成は堅緻である。**164**は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底面には板状圧痕が残る。底部内面中央が大きく凹む。**165**～**215**はＢ類大型に分類される。**165**は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面を平坦に調整する。**166**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。底部内面中央が大きく凹む。焼成は堅緻である。**167**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。**168**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。**169**は底部下端が張り出し、底部は円盤状を呈する。体部は直線的に立ち上がる。**170**は底部下端の一部が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面中央が大きく凹む。**171**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**172**は底部下端がやや張り出す。底部から



第26図　SB04 内出土遺物実測図　土師器

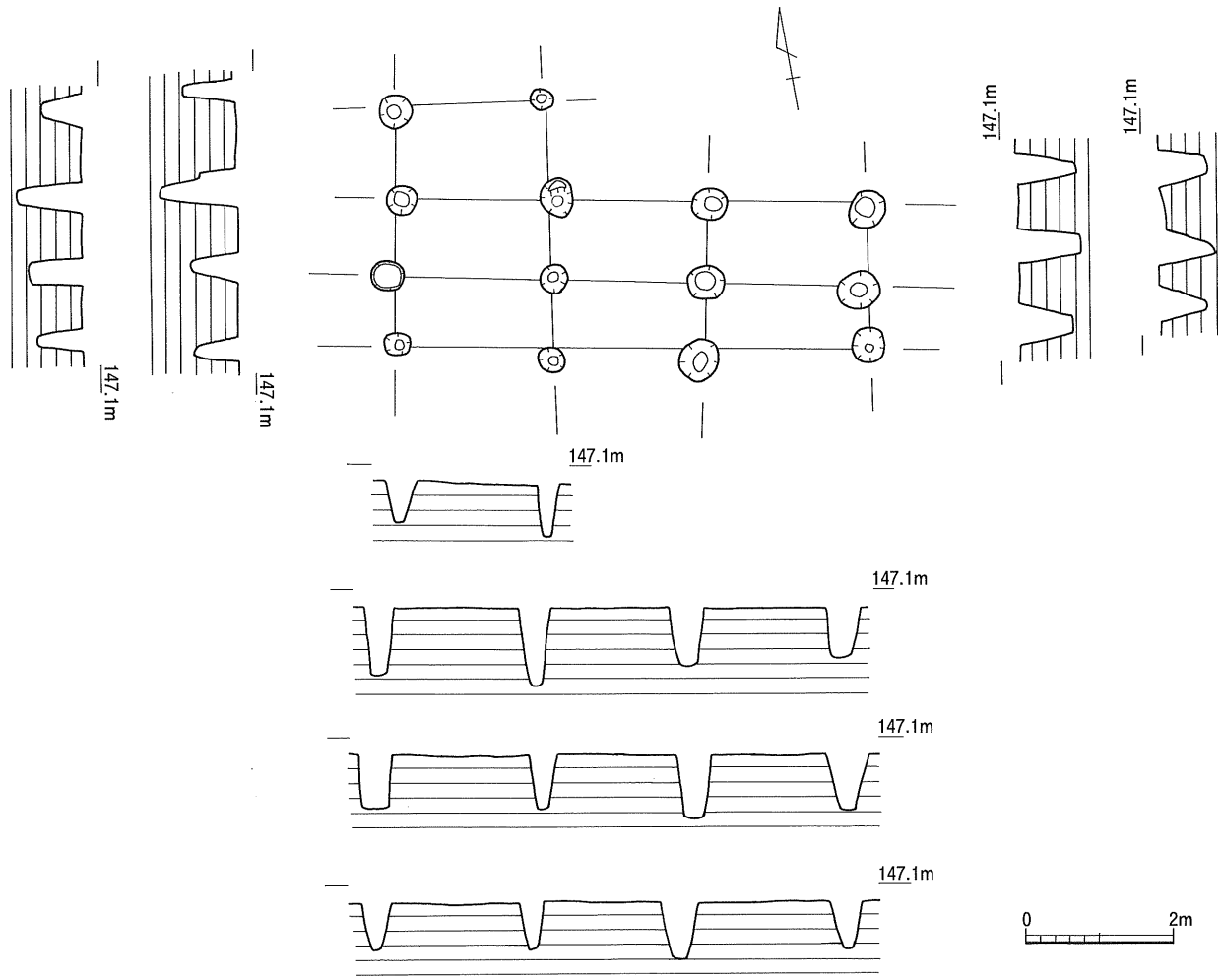
掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
293	土師器	坏	SB04	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.1	8.5	3.9	回転糸切　外指頭痕　内底ロクロ目　反転復元
294	土師器	坏	SB04	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	4mm以下の鉱物・砂粒	13.1	8.7	3.5	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　内底ロクロ目　反転復元
295	土師器	小皿	SB04	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.0	5.5	1.2	回転糸切　指頭痕
296	土師器	小皿	SB04	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	3mm以下の鉱物・砂粒	7.4	5.7	1.3	回転糸切　ナデ　外指頭痕
297	土師器	小皿	SB04	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	3mm以下の鉱物・砂粒	8.1	6.7	1.5	回転糸切　指頭痕
298	土師器	小皿	SB04	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.3	7.0	1.4	回転糸切　指頭痕　反転復元
299	土師器	小皿	SB04	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	4mm以下の鉱物・砂粒	8.5	7.4	1.5	回転糸切　板状圧痕　内薄く炭化物付着

第14表　SB04 内出土遺物実測図　土師器



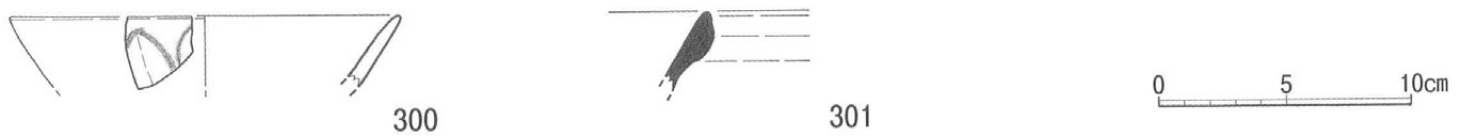
図版17　SB04 内出土遺物写真　土師器

体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。**173**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部をやや薄く仕上げる。**174**は底部下端が張り出し、底部は薄い円盤状を呈する。体部は曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。**175**～**177**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**176**は口縁部を薄く仕上げ、底部内面を平坦に調整する。**177**は底部下端に糸痕跡が残る。**178**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部をやや薄く仕上げる。口縁部から底部内面までがやや浅い。**179**～**184**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**179**は底部下端に糸痕跡が残る。**183**は口縁部から底部内面までがやや浅い。**184**は底部内面中央が大きく凹む。**185**は底部がごく薄い円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。口縁部から底部内面までがやや浅い。**186**は底部下端がやや張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。**187**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。**188**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。**189**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。**190**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。**191**～**193**は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**191**、**192**は底部下端に張り出しが見られるが、**193**は底部下端にナデ調整を施す。**194**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。**195**は底部下端がやや張り



第27図　SB05 実測図

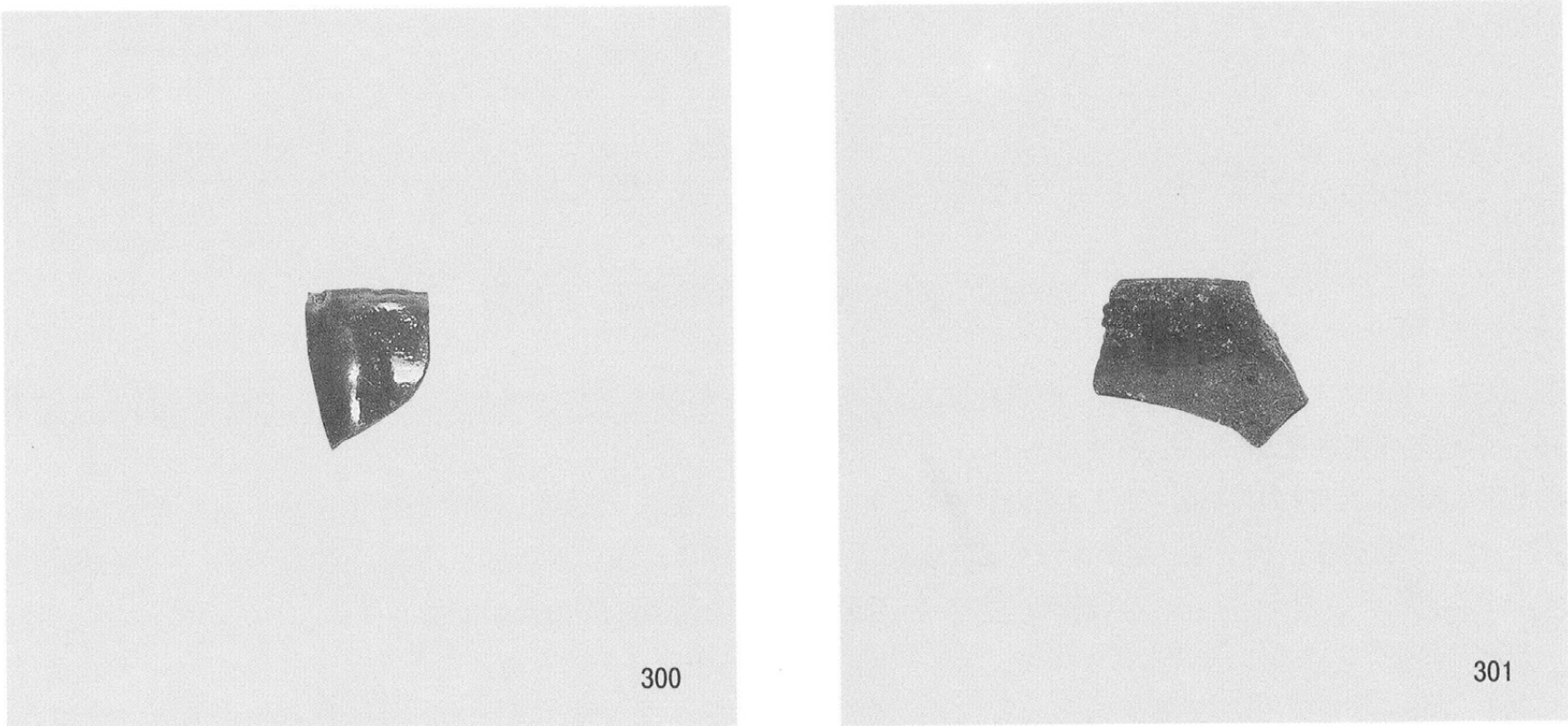
出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。196は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。197は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。底部内面中央が大きく凹む。198は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。199は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。200、201は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。202は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。内面における底部と体部との境はやや不明瞭である。203は器高が1.0cmと低い。底部下端が若干張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。口縁部から底部内面までがごく浅い。204は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。205、206は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部の器壁が厚く、口縁部から底部内面までが浅い。206は口縁部を薄く仕上げ、底部内面を平坦に調整する。207は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて外反しながら立ち上がる。208は底部下端がやや張り出す。底部から体部にかけて薄くではあるが段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。209は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面中央が大きく凹む。210は底部が薄い円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。底部内面が大きく凹む。211～213は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。213は底部内面中央が大きく凹み、亀裂が貫通する。214は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。215は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。216、217はC類小型に分類される。216、217は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。218～230はC類中型に分類される。218～220は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。218は底部下端に糸痕跡が残り、焼成は堅緻である。220は口縁部を薄く仕上げる。



第28図　SB05 内出土遺物実測図　陶磁器

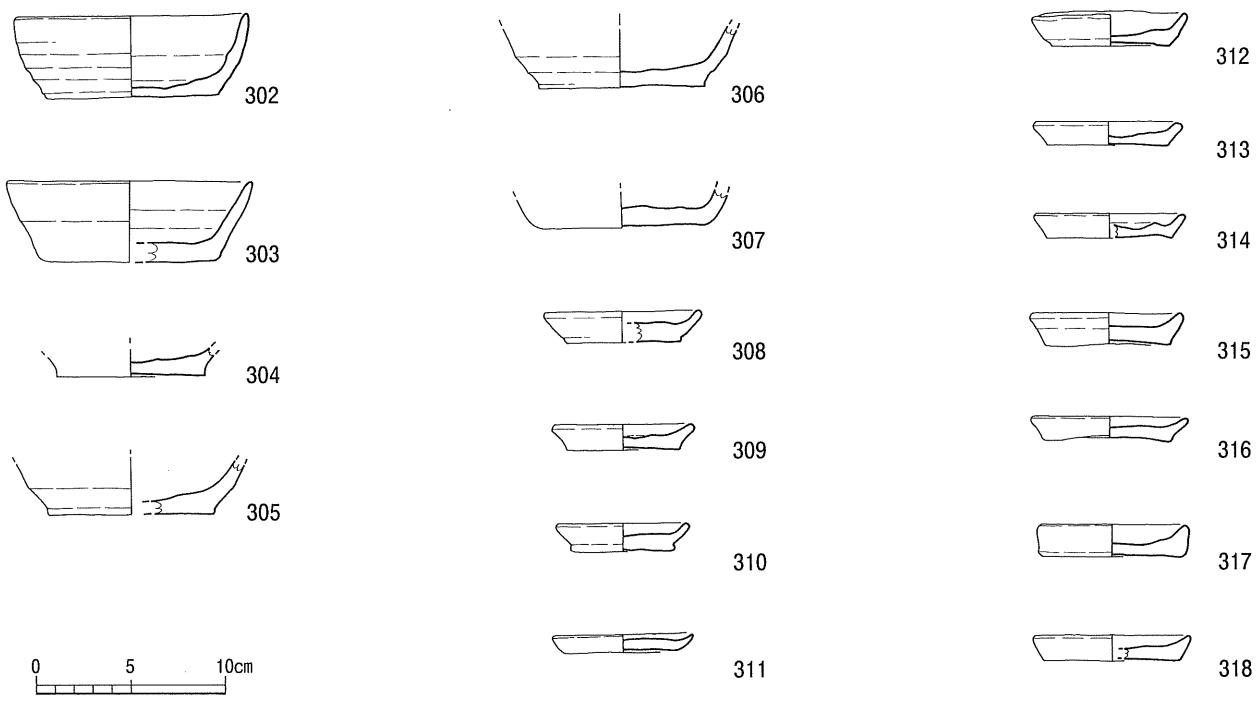
掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
300	青磁	碗	SB05	施釉	施釉	灰白色	15.6	－	－	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ－b類
301	東播系須恵器	鉢	SB05	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	－	－	－	

第15表　SB05 内出土遺物観察表　陶磁器



図版18　SB05 内出土遺物写真　陶磁器

221は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部をやや薄く仕上げる。底部内面中央が大きく凹む。**222**、**223**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**222**は口縁部を薄く仕上げる。**223**は底部内面中央が大きく凹む。**224**は底部が円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。**225**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて外反気味に立ち上がる。焼成は堅緻である。**226**～**230**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**227**は底部下端に糸痕跡が残り、焼成はやや堅緻である。**228**は底部内面中央が大きく凹む。**230**は口径に対する底径の比率が極端に高い。**231**～**247**はＣ類大型に分類される。**231**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。**232**、**233**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**232**は口縁部を薄く仕上げ、底部内面を平坦に調整する。**233**は底部内面中央が大きく凹み、中央部は欠損している。**234**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、器形の歪みにより曲線的になる部分、段差が形成される部分も見られる。**235**、**236**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて外反気味に立ち上がる。**235**は底部内面を平坦に調整する。**237**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**238**は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**239**～**246**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**240**は底部内面が大きく凹む。**243**は底部下端の一部が大きく張り出し、糸痕跡が残る。**246**は底部中央に亀裂が貫通する。**247**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。**248**は器高が2.2cmと高い。Ｂ類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。**249**は器壁が2.5cmと高い。Ｂ類大型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部に



第29図　SB05内出土遺物実測図　土師器

かけて直線的に立ち上がる。**250**は底部片かと考えられる。墨書を行う。判読不明である。**251**は坏体部片である。外面に墨書を行う。判読不明である。

252～**262**は鉄製品である。**252**～**258**は鉄釘と考えられる。**252**～**253**はＬ字状の頭部を呈すると考えられる。**256**～**254**は頭部を欠損する。**259**は両端部を欠損する。**260**はごく短い鉄製品である。頭部が厚く、先端部が尖る。**261**は鎹かと考えられる。両端を欠損する。**262**は板状の鉄製品である。

263は銅製品である。欠損しているが、輪状の製品が複数連なる形状であったと考えられる。

264～**269**は多量の植物繊維が混入された粘土塊で、壁土の一部と考えられる。竹と見られる木舞痕が残る。**264**は上塗が残る。**266**～**269**は二次被熱によるものか、橙色系の色調を呈する。

２号掘立柱建物（SB02：第19～21図・第10・11表・図版12～14）

SB01に南接している。Ｄ地区、グリッド：ス～ソ－28～30区で検出した。柱穴の径は約70cm、検出面からの深さも70cm、柱間は2.2mで、SB01の南端部分から、２列並んで南へ６間、そこから東へ折れて６間確認している。この柱穴配置から、回廊状の遺構ではないかと推定している。各々の柱穴の底には根石と思われる石が置かれてあった。SB01との切り合いは確認できていない。北西部分でSS02と重なっているが、敷石状遺構であるSS02がSB02の柱穴を覆っている状態であったことからSB02→SS02の時期差をみてよいであろう。

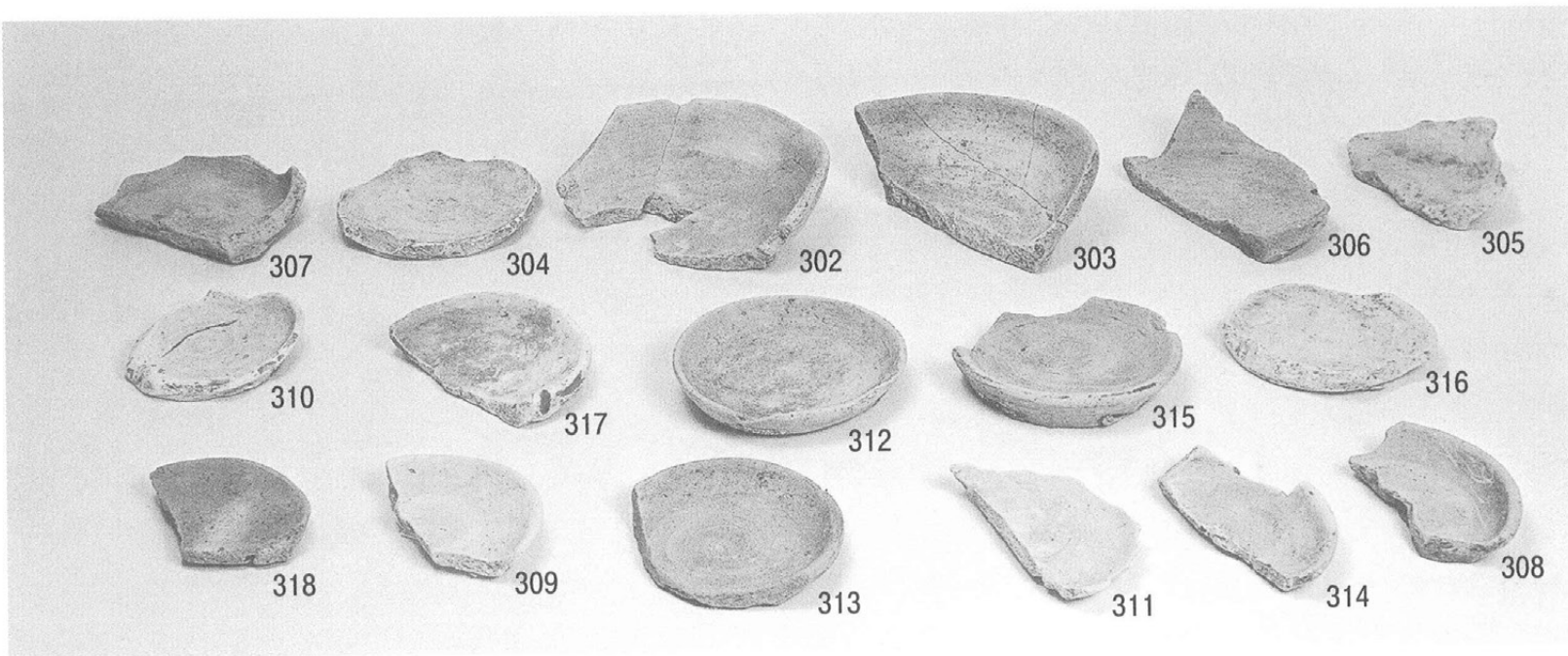
270は同安窯系青磁碗の口縁部片である。碗Ｉ－１類に相当し12世紀中頃から12世紀後半にかけてのものである。**271**は龍泉窯系青磁小碗の底部片である。碗Ｉ－１類に相当し12世紀中頃から12世紀後半にかけてのものである。

出土土師器の総重量は6,760ｇであった。**272**～**276**は坏である。**272**～**274**はＣ類小型に分類される。**272**、**273**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。**274**は底部と体部との境が不明瞭で、底面から引続いて緩やかに体部へと移行し、体部はやや曲線的に立ち上がる。外面にはロクロ目が残る。全体的に器壁が薄く、焼成は堅緻である。**275**、**276**はＣ類大型に分類される。**275**、**276**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。**276**は外面にロクロ目が残る。

277～**282**は小皿である。**277**～**279**はＢ類中型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**277**は口縁部をやや薄く仕上げる。**280**、**281**はＢ類大型に分類される。**280**は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。口縁部を薄く仕上げる。**281**は底部と体部との境

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
302	土師器	坏	SB05	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.4	9.2	4.3	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　反転復元
303	土師器	坏	SB05	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	13.0	9.1	4.3	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕　反転復元
304	土師器	坏	SB05	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(10YR8/2)	ごく微小の鉱物・砂粒	－	7.8	－	回転糸切　板状圧痕　反転復元
305	土師器	坏	SB05	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/4)	5mm以下の鉱物・砂粒	－	8.8	－	回転糸切　板状圧痕　反転復元
306	土師器	坏	SB05	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	3mm以下の鉱物・砂粒	－	8.8	－	回転糸切　板状圧痕　反転復元
307	土師器	坏	SB05	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	2mm以下の鉱物・砂粒	－	9.0	－	回転糸切　板状圧痕　反転復元
308	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.4	6.2	1.6	回転糸切　指頭痕　反転復元
309	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.6	6.0	1.4	回転糸切　板状圧痕　磨耗　反転復元
310	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(10YR8/2)	2mm以下の鉱物・砂粒	7.2	5.7	1.5	回転糸切　指頭痕　内底ロクロ目
311	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	7.4	6.1	1.0	回転糸切　反転復元
312	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.3	6.2	1.6	回転糸切　指頭痕
313	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.4	1.3	回転糸切　指頭痕　反転復元
314	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	3mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.6	1.3	回転糸切　指頭痕　反転復元
315	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	4mm以下の鉱物・砂粒	8.2	6.7	1.7	回転糸切　指頭痕
316	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	浅黄橙(10YR8/3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.4	6.6	1.3	回転糸切　板状圧痕　内外薄く鉄分付着　磨耗　反転復元
317	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	4mm以下の鉱物・砂粒	7.5	7.6	1.7	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
318	土師器	小皿	SB05	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.4	7.2	1.3	回転糸切　反転復元

第16表　SB05内出土遺物観察表　土師器



図版19　SB05内出土遺物写真　土師器

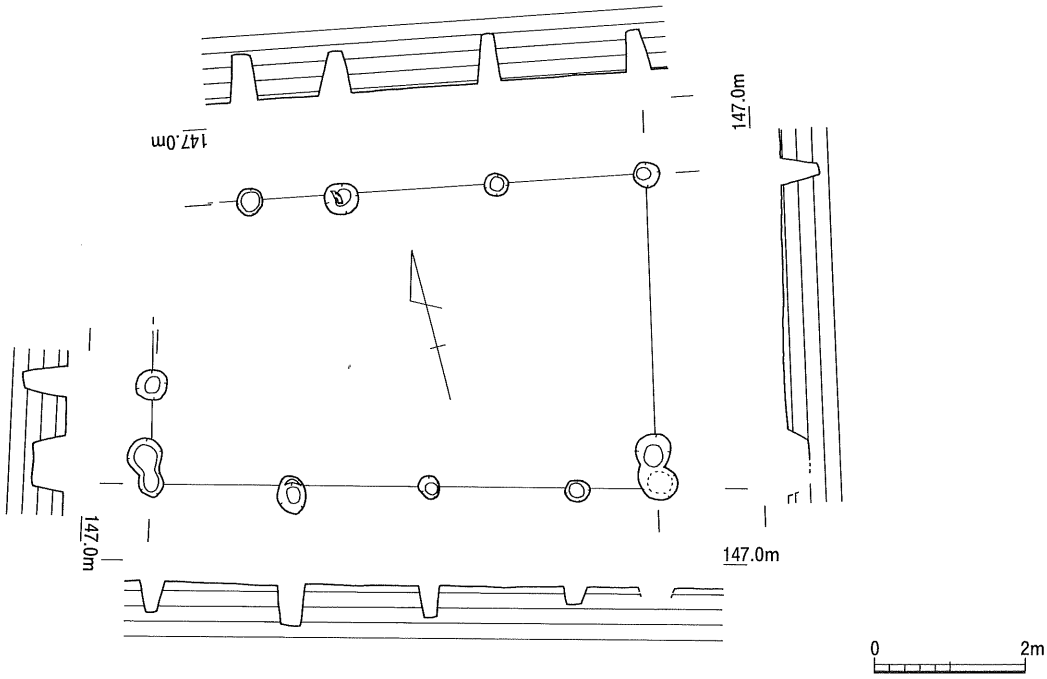
が不明瞭で、底面から引続いて緩やかに体部へと移行し、体部は曲線的に立ち上がる。口縁部をやや薄く仕上げる。底部内面を平坦にナデ調整する。**282**はC類小型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部が厚く、口縁部から底部内面までが浅い。

283は鉄釘である。L字状の頭部を呈すると考えられる。

3号掘立柱建物（SB03：第22・23図・第12表・図版15）

D地区、グリッド：セ～ソ－27～28区にある。東西3間、南北2間で長軸は東西にある。SD25が内部を北西－南東方向に走行している。柱穴の径はまちまちで、検出面からの深さも50cmから90cmと差がある。

出土土師器の総重量は677gであった。**284**～**286**は坏で、B類中型に分類される。器高が2.4～3.0cmと低く、底部と体部との境が不明瞭で、底面から引続いて緩やかに体部へと移行する。体部はやや曲線的に立ち上がる。全体的に器壁が薄く、焼成は堅緻である。**286**は底部下端の一部に張り出しが見られる。



第30図　SB06 実測図

287は小皿でＢ類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

288はふいご羽口体部片である。磨耗が進み通風孔径は不明である。**289**～**290**は多量の植物繊維が混入された粘土塊で、壁土の一部と考えられる。上塗や竹と見られる木舞痕が残る。

4号掘立柱建物（SB04：第24～26図・第13・14表・図版16・17）

シ～ス－26～27区に位置する。南北３間、東西１間で、柱穴の径は30～40cm、深さは40～80cmほどである。南西部分は調査区外にある。SS02の内部に位置する格好となっており、関連性がうかがえる。

292は瓦質土器（火鉢？）の底部片で、外面がやや摩耗している。

出土土師器の総重量は2,545ｇであった。**293**、**294**は坏である。**293**はＣ類中型に分類される。底部下端が若干張り出し、体部は一旦緩やかに屈曲した後、曲線的に立ち上がる。**294**はＢ類大型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。外面にはロクロ目が残る。

295～**299**は小皿である。**295**、**296**はＢ類中型に分類される**295**は底部下端がやや張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**296**は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**297**、**298**はＢ類大型に分類される。**297**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。口縁部を薄く仕上げる。**298**は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。焼成はやや堅緻である。**299**はＣ類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。

5号掘立柱建物（SB05：第27～29図・第15・16表・図版18・19）

SB01の北側、グリッド：ス～ソ－23区に位置する。南北２間、東西３間の構造で、北側の１間分だけ庇がつく。東西方向に細長い。柱間は東西２ｍ、南北１ｍを測る。柱穴の径は30～50cm、検出面からの深さは80cm～１ｍほどである。

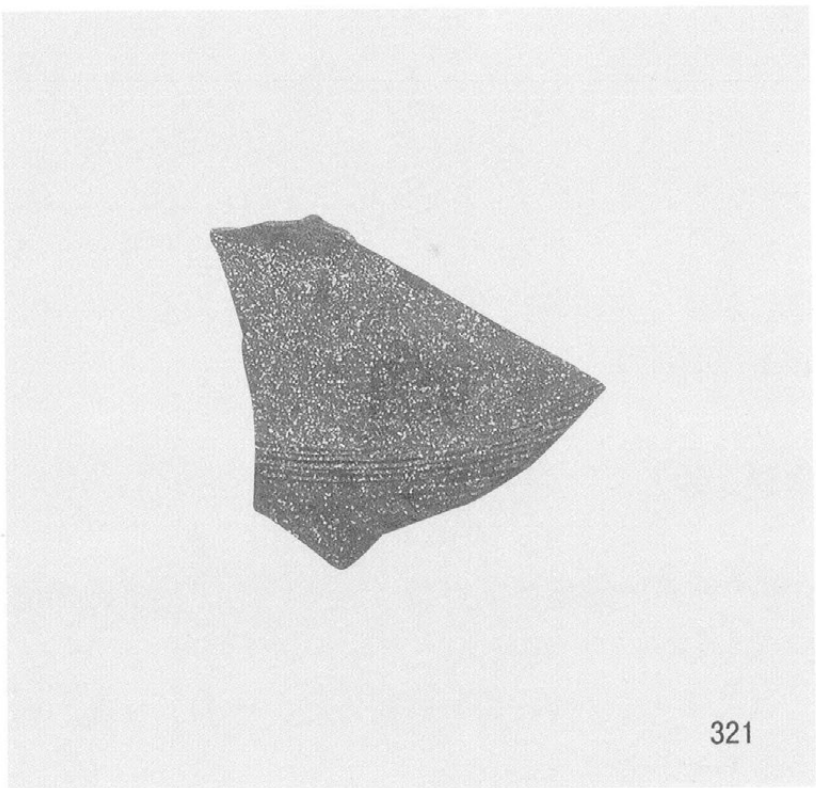
300は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に鎬蓮弁文が施されている。碗Ⅱ－ｂ類に相当し13世紀初頭から13世紀前半にかけてのものである。**301**は東播系須恵器鉢の口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。

出土土師器の総重量は13,498ｇであった。小皿に比べ坏の完形率がやや低い。**302**～**307**は坏である。**302**は

第31図　SB06 内出土遺物実測図　陶磁器

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
319	青磁	碗	SB06	施釉	施釉	灰白色	－	－	－	龍泉窯系碗Ⅲ－2c類
320	白磁	Ⅲ	SB06	施釉	施釉	灰白色	11.0	－	－	(反転復元)　ⅢⅨ類
321	備前	壺	SB06	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	－	－	－	外面に3条の沈線あり　Ⅳ期

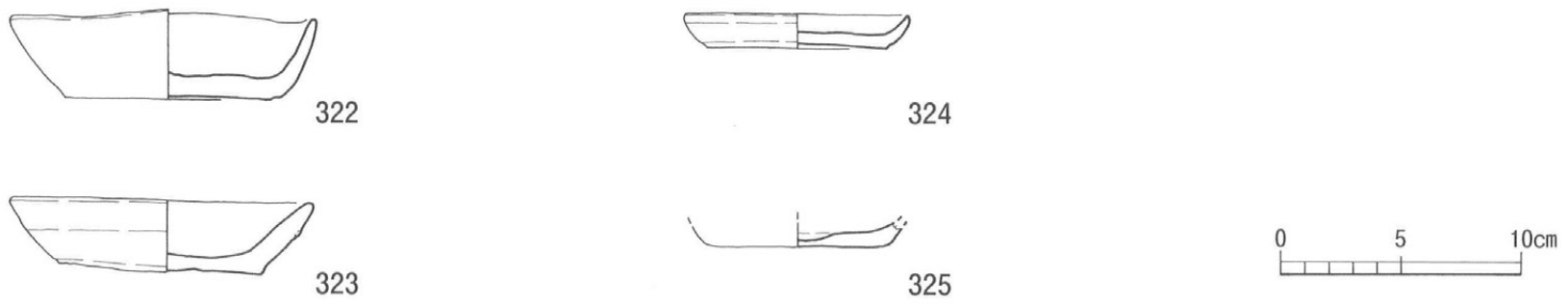
第17表　SB06 内出土遺物観察表　陶磁器



図版20　SB06 内出土遺物写真　陶磁器

C類中型に分類される。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。外面には明瞭なロクロ目が残る。底部内面が大きく凹み、中央付近で厚さ約0.3cmと極端に薄い。焼成は堅緻である。**303**はC類大型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**304**～**307**は底部～体部片である。いずれも底部下端が張り出す。**306**は底部下端に糸痕跡が残り、焼成が堅緻である。

308～**318**は小皿である。**308**はA類大型に分類される。底部下端がやや張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**309**～**311**



第32図　SB06 内出土遺物実測図　土師器

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
322	土師器	坏	SB06	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1㎜以下の鉱物・砂粒	12.25	8.3	3.6	回転糸切　板状圧痕　外指頭痕
323	土師器	坏	SB06	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2㎜以下の鉱物・砂粒	12.2	8.5	2.9	回転糸切　圧痕　外指頭痕
324	土師器	小皿	SB06	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	浅黄橙(10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	9.4	7.4	1.4	回転糸切　炭化物付着
325	土師器	小皿	SB06	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	ごく微小の鉱物・砂粒	－	7.7	－	回転糸切　板状圧痕　内底ロクロ目

第18表　SB06 内出土遺物観察表　土師器

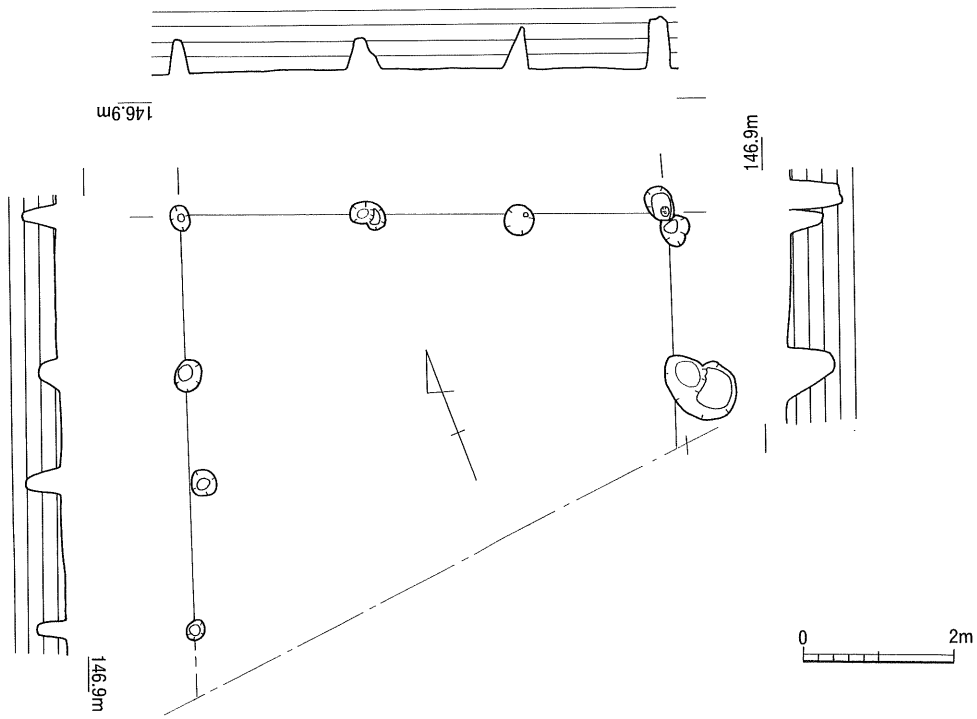
図版21　SB06 内出土遺物写真　土師器

はＢ類中型に分類される。**309**は底部から体部にかけてやや外反しながら立ち上がる。**310**は底部下端が大きく張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**311**は底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。口縁部から底部内面までが浅く、焼成は堅緻である。**312**～**316**はＢ類大型に分類される。**312**は底部下端がやや張り出す。底部から体部にかけてごく薄い段差が見られる。底部内面中央が大きく凹む。**313**～**315**は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**314**は底部内面にロクロ目が強く残る。**316**は底部から体部にかけてやや外反しながら立ち上がる。**317**はＣ類中型に分類される。**317**は底部下端が多きく張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。口径に対する底径の比率が非常に高い。**318**はＣ類大型に分類される。**318**は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面を平坦に調整し、底部と体部の境は不明瞭で底部から引き続きなだらかに口縁部へと至る。

6 号掘立柱建物（SB06：第30～32図・第17・18表・図版20・21）

グリッド：セ～タ－19～20区にある。SB26・28と重複している。南北１間、東西４間の構造である。

319は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、口縁は直に立ち上がり、外面に鎬蓮弁文が施されている。13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。**320**は白磁皿の口縁部片であり、口縁は直に立ち上がり外反している。皿Ⅸ類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。**321**は備前壺の肩部片で、外面に３条の沈線がみられる。Ⅳ期に相当し14世紀後半から15世紀前半に位置するものと思われる。



第33図　SB07 実測図

出土土師器の総重量は2,097ｇであった。322、323は坏でＢ類中型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。322は焼成が堅緻である。

324は小皿でＢ類大型に分類される。底部下端がわずかに張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整する。焼成は堅緻である。325は小皿底部～体部片である。底部から体部にかけての一部に段差が見られる。

7号掘立柱建物（SB07：第33・34図・第19表・図版22）

チ～テ－19～20区で検出した。南側ほぼ半分は調査区外にあたる。南北は不明であるが、東西は３間の構造となる。SB08と重なり合っている。ほとんどの柱穴が径40cm未満、深さも50cmほどと小ぶりである。

出土土師器の総量は479ｇであった。326～328は坏である。326はＢ類中型に分類される。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。327、328は底部～体部片である。いずれも底部下端がやや張り出す。

8号掘立柱建物（SB08：第35図）

ツ～ト－19～20区に位置する。大部分は南側の調査区外にある。東西の柱間は４間と思われる柱穴の径は50cmほど、検出面からの深度は50cmを測る。

9号掘立柱建物（SB09：第35～37図・第20・21表・図版23・24）

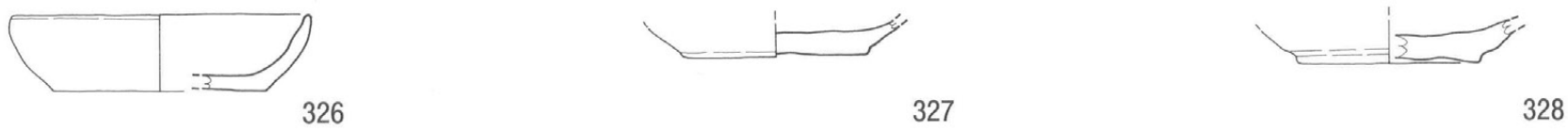
ニ～ヌ－20～21区に位置する。南北３間、東西２間、南北方向にやや細長い形状を呈する。柱穴の径は30cm程度と小さめで、深度は40～50cmほどである。

329は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に鎬蓮弁文が施されている。碗Ⅱ－ｂ類に相当し13世紀初頭から13世紀前半にかけてのものである。330は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に鎬蓮弁文が施されている。碗Ⅱ－ｂ類に相当し13世紀初頭から13世紀前半にかけてのものである。

311は銅貨である。銭文は「元豊通宝」と読める。渡来銭もしくはその模鋳銭かと考えられる。

10号掘立柱建物（SB10：第38～40図・第22・23表・図版25・26）

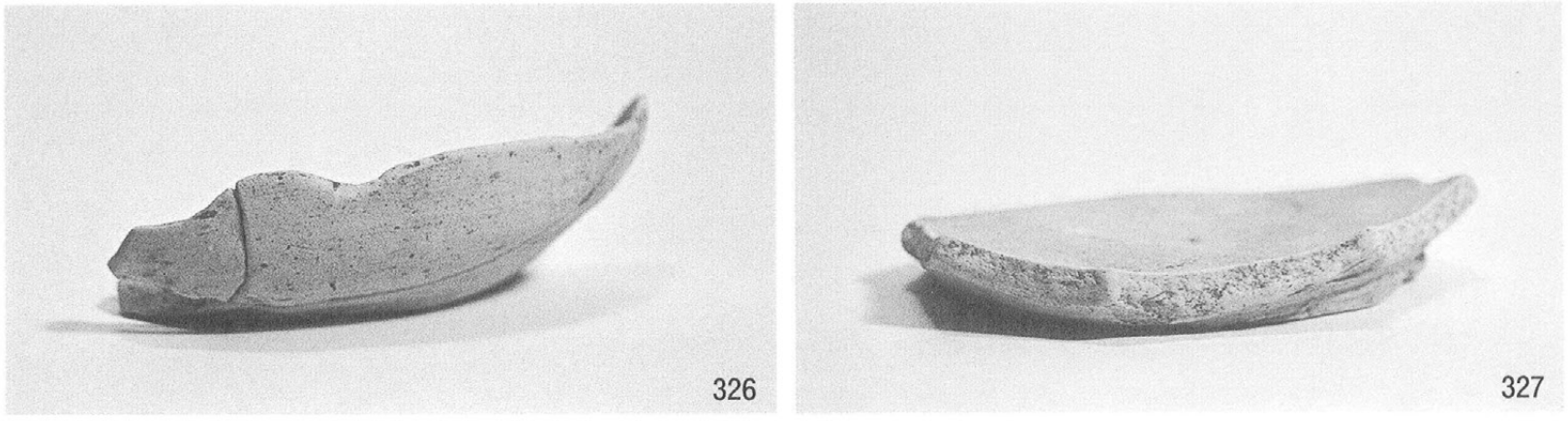
Ｄ地区、グリッド：ニ～ヌ－22～23区にある。東側にSB11が隣接している。柱穴の径は30cmほどで、検出



第34図　SB07 内出土遺物実測図　土師器

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
326	土師器	坏	SB07	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.8	9.2	3.2	回転糸切　板状圧痕　内薄く鉄分付着　磨耗　反転復元
327	土師器	坏	SB07	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	ごく微小の鉱物・砂粒	－	7.8	－	回転糸切　板状圧痕
328	土師器	坏	SB07	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の鉱物・砂粒	－	7.6	－	回転糸切　反転復元

第19表　SB07 内出土遺物観察表　土師器



図版22　SB07 内出土遺物写真　土師器

面からの深度は30～50cmを測る。南北２間×東西３間の主屋があり、北・東・西側に庇がつく構造であろうか。

332は東播系須恵器壺の頸部片で、内面に剥離痕と思える痕跡をのこしている。

333は土師器坏でＣ類小型に分類される。器高が低く、全体的に器壁が薄い。底部と体部との境は不明瞭で、底面から引続いて緩やかに体部へと移行するが、底部下端が張り出す部分も見られる。

11号掘立柱建物（SB11：第41～43図・第24・25表・図版27・28）

Ｄ地区、グリッド：ヌ～ネ－22～24区にある。東側にはSD12、西側にはSB10が隣接している。柱穴の径は30cmほどで、検出面からの深度は30～50cmを測る。２間×２間の主屋があり、北側に庇がつく構造か。

334は龍泉窯系青磁坏の口縁～底部片で、内・外面ともに無文である。坏Ⅲ－１類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。

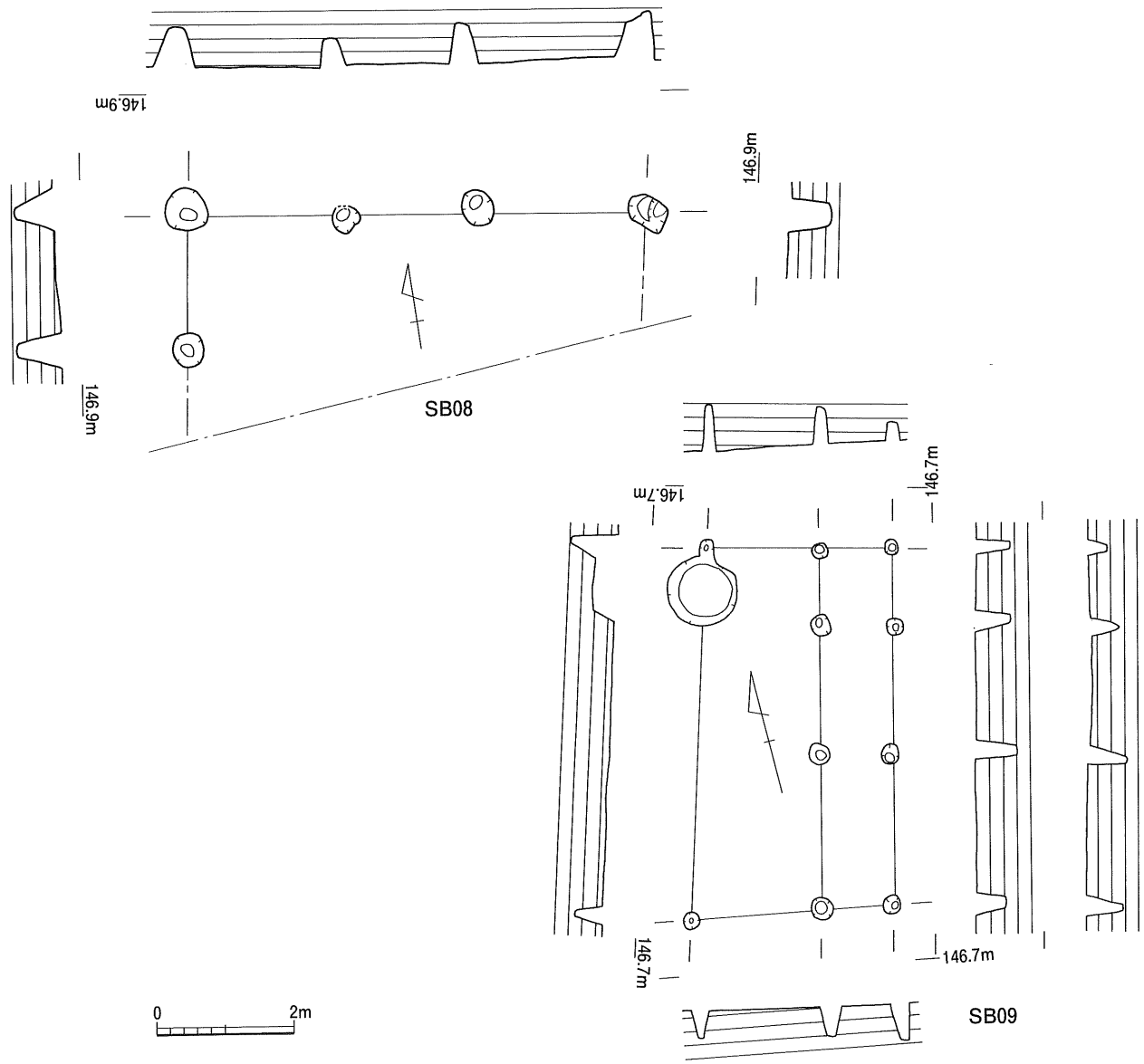
335は土師器小皿でＡ類中型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部はやや外反気味に薄く仕上げられる。底部が厚く、口縁部から底部内面までがごく浅い。焼成は堅緻である。

12号掘立柱建物（SB12：第44～46図・第26・27表・図版29・30）

Ｄ地区、グリッド：ヌ～ネ－22～23区にある。SB22と重なり合っている。南東の柱穴のみがやや大きめであるが、それ以外は、柱穴の径が30cmほどで、検出面からの深度は30～50cmを測る。

336は備前擂鉢の口縁～底部片で、口縁部外面上部がややへこみ、内面には６条１単位の櫛目がみられる。Ⅲａ期に相当し14世紀代のものである。

出土土師器の総重量は1,321ｇであった。小皿に比べ坏の出土量が多い。**337**～**343**は坏である。**337**～**340**はＢ類中型に分類される。いずれも器高が4.0cm以上と高い。**337**、**340**は底部下端が張り出し、底部から体部に



第35図　SB08・09 実測図

かけて直線的に立ち上がる。**338**は底部下端に糸痕跡、**340**は外面にロクロ目が残る。**338**は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。**339**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、器形の歪みにより一部に屈曲が見られる。**341**はＢ類大型に分類される。器高が4.4cmと高い。底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**342**～**343**は底部～体部片である。いずれも底部下端が張り出す。

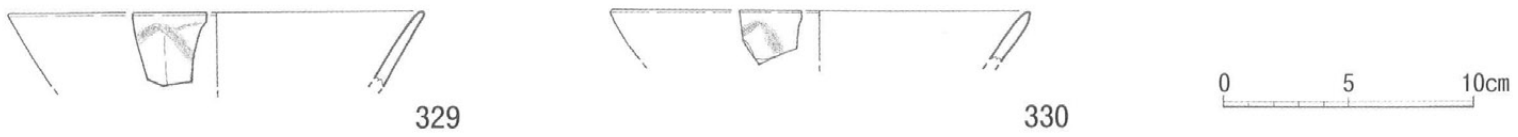
344、**345**は小皿である。**344**はＢ類大型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、一部には段差が形成される。**345**はＣ類小型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

346は滑石製石鍋片である。上端に鍔の下端部が確認され、それ以下には縦方向のノミ痕跡が広がる。

13号掘立柱建物（SB13：第47・48図・第28表・図版31）

Ｄ地区、グリッド：ノ～へ－26～27区にある。SC26・SC29の北側に位置する。東西３間。南北１間の構造と思われ、柱穴の径、検出面からの深度ともに30cm程度である。

347は土師器坏体部片かと考えられる。復元口径が10.2cmと非常に小さい。焼成は堅緻である。



第36図　SB09 内出土遺物実測図　陶磁器

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　　考
329	青磁	碗	SB09	施釉	施釉	灰白色	16.6	－	－	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ－b類
330	青磁	碗	SB09	施釉	施釉	灰白色	16.8	－	－	(反転復元)　龍泉窯系碗Ⅱ－b類

第20表　SB09 内出土遺物観察表　陶磁器

図版23　SB09 内出土遺物写真　陶磁器

15号掘立柱建物（SB15：第49図）

Ｄ地区南東部、グリッド：ネ～ノ－29～30区で検出した。SB16・SB20・SB21と重複している。柱穴の径、検出面からの深度ともに30cm程度である。３間×３間の柱間構造をもつ。

16号掘立柱建物（SB16：第49図）

Ｄ地区南東部、グリッド：ネ～ノ－29～30区で検出した。SB15・SB20・SB21と重複している。柱穴の径、検出面からの深度ともにSB15と同様に30cm程度である。２間×２間の柱間構造である。

17号掘立柱建物（SB17：第50・51図・第29表・図版32）

ニ－30区で確認した。SB18と重なっており、時期差がある。東西に３間、南北に１間の構造で、柱穴の径は40cmほどで、検出面からの深度は30～50cmを測る。

出土土師器の総重量は650ｇであった。**348**はＢ類大型に分類される。器高が5.1cmと非常に高い。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。内外面にはロクロ目が極めて明瞭に残る。**349**はＣ類小型に分類される。底部が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。器形の歪みが大きい。**350**は底部～体部片である。底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。

第37図　SB09 内出土遺物実測図　銅銭

掲載番号	種　別	器　種	出土層遺　構	調　整(外面)	調　整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎　土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
331	銅銭	元豊通宝	SB09	－	－	－	－	－	2.5	0.6	0.2	2.7g　初鋳1078年

第21表　SB09 内出土遺物観察表　銅銭

図版24　SB09 内出土遺物写真　銅銭

18号掘立柱建物（SB18：第52図）

Ｄ地区南東部、グリッド：ニ－30～31区で検出した。SB21の西側に位置し、SB17・SB19と重複している。柱穴の径は30cm程度、検出面からの深さは20cmを測る。１間×１間の柱間構造をもつ、小さな建物である。

19号掘立柱建物（SB19：第52図）

Ｄ地区南東部、グリッド：ナ～ニ－30～31区で検出した。SB17・SB18と重複している。柱穴の径、検出面からの深度ともに30cm程度である。北西部分の柱穴は北半分が調査区外となっている。

20号掘立柱建物（SB20：第52図）

Ｄ地区南東部、グリッド：ヌ～ノ－29～30区で検出した。SB15・SB16・SB21と重複している。南北２間、東西５間の構造であり、東西に細長くなっている。柱穴の径は30～40cm、検出面からの深度は30cm程度である。

21号掘立柱建物（SB21：第52図）

Ｄ地区南東部、グリッド：ヌ～ネ－29～31区で検出した。SB15・SB16・SB20と重複している。柱穴の径は30cm、検出面からの深度は20cm程度を測る。

22号掘立柱建物（SB22：第53図）

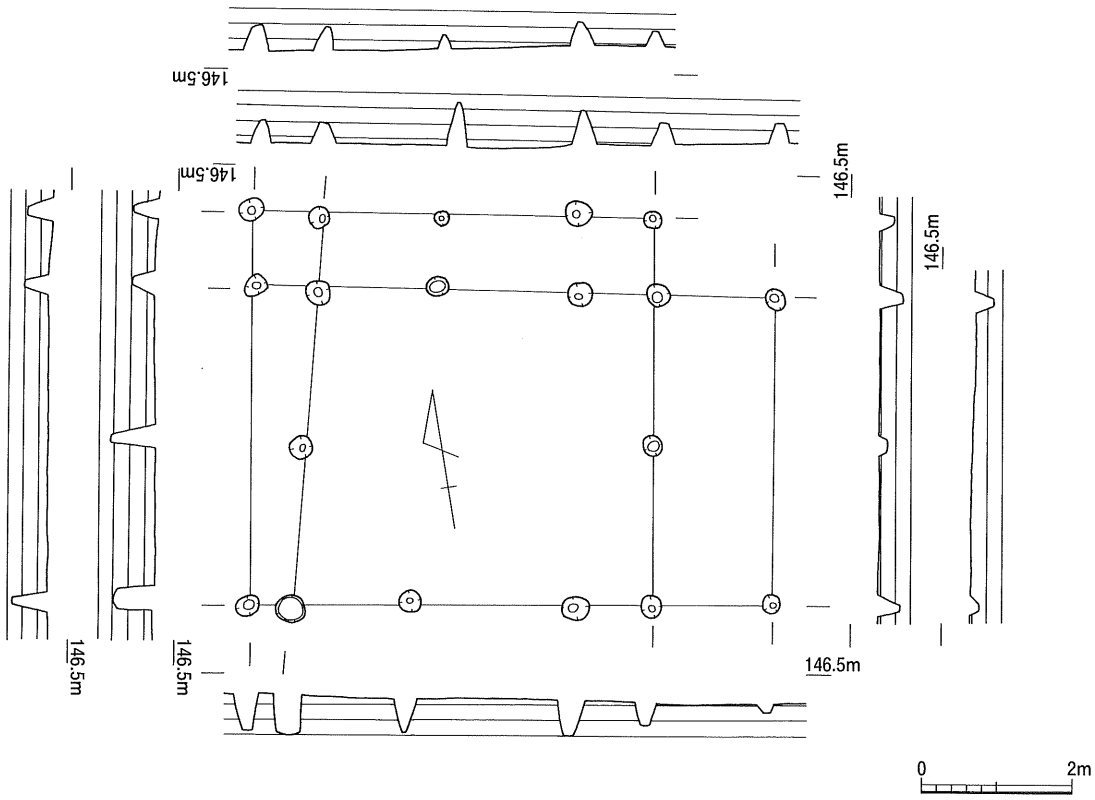
Ｄ地区東側やや南より、グリッド：ニ～ネ－26～27区で確認した。SB12と重なり合っている。柱穴の径は約30cmで、検出面からの深度は30～50cm程度である。

24号掘立柱建物（SB24：第53図）

Ｄ地区東側北より、グリッド：ヌ～ネ－19～20区にある。SB34と重なり合っている。東側ほぼ半分は調査区外にある。柱穴の径は30cmほどで、検出面からの深さは30～50cmほどとなっている。

26号掘立柱建物（SB26：第53図）

Ｄ地区の北側やや西より、グリッド：セ～タ－19～20区で確認した。SB06、SB28と重なり合っている。東



第38図　SB10 実測図

西にやや細長い構造となっており、柱穴の径は30cmほどで、検出面からの深度は30～50cmを測る。

28号掘立柱建物（SB28：第54図）

グリッド：セ～タ－19～20区、SB06・26と重なって検出した。南北５ｍ、東西5.4mの建物で、南北２間、東西３間の構造をもつ。

29号掘立柱建物（SB29：第54図）

グリッド：セ～ソ－24～25区で確認した。南北４ｍ、東西2.2mの規模をもち、柱穴の径は30cm、深さは40～60cmを測る。

30号掘立柱建物（SB30：第55図）

グリッド：セ～ソ－25～26区で確認した。やや崩れた方形状を呈しており、中心部分には小型の柱穴が並ぶ。検出面からの深度は60cmほどとやや深い。

31号掘立柱建物（SB31：第55図）

グリッド：シ～ス－28～30区で確認した。南北６ｍ、柱穴の径は30～40cm、深さは40～70cmを測る。西側の大部分が調査区外に位置するため、全体像は明確ではない。

32号掘立柱建物（SB32：第56図）

グリッド：ス～セ－29～30区で確認した。南北１間、東西２間の構造である。柱穴の検出面からの深度は20～70cmと幅がある。